

岩村町の土地

—岩村町土地分類細部調査 報告書—



平成 16 年 9 月

岐阜県恵那郡岩村町

岩村町の土地

—岩村町土地分類細部調査 報告書—



平成 16 年 9 月

岐阜県恵那郡岩村町

はじめに

岩村町長 山上哲司

岩村町土地分類調査（細部調査）は、国土調査法（昭和26年法第180号）に基づいて平成13～16年度の4年間で実施しました。

国土調査は「国土の開発及び保全並びにその高度化に資するため、国土の実態を科学的かつ総合的に調査する」ことを目的として実施されるものですが、法制定時から見るとその具体的目標は変化しています。当初は農山村における食糧増産のためのうち一筆ごとの土壌及び土地生産力の分級評価に重点が置かれ、農林業振興計画の策定や土地の交換分合のための基礎資料として利用されてきました。

土地利用の高度化が進むと、農林業の生産環境の変化、開発における留意点、自然的災害に対する安全性の確保等、土地の持つ自然的・社会経済的条件を十分考慮して、適性かつ調和のとれた土地利用のあり方を検討することをテーマとして認識されるようになりました。

さらに情報技術(IT)の発達により、土地を情報として取り扱う”地理情報システム”(GIS : Geographic Information System)の整備も進み、多種多様な土地の情報の利活用が容易にできるようになりました。これにより、土地分類調査の成果の弾力的な利用が可能となり、さらに国土調査の一つの柱である地籍情報と重ね合わせもできるなど、行政としての利活用に大きく貢献できることが期待されます。

岩村町は、数多くの文化財や、日本一とうたわれた富田の農村景観など、歴史と文化、自然環境そして農村環境が調和した町です。この良好な環境を保全しつつ、町の整備、安全性の向上などを進めるにあたって、土地の自然的・社会的条件の把握は欠かせません。またまもなく市町合併が予定されていますが、土地に関する諸条件の調査成果は、合併後も活用されるものと考えられます。

調査は、学識経験者、国土交通省、岐阜県、岩村町で構成される検討委員会を設置し、委員会の企画管理のもとに作業を実施しました。委員各位並びに調査に協力いただいた関係各位に対し深く感謝の意を表します。

平成16年9月

目 次

はじめに

1. 調査概要

| | |
|----------|---|
| 1-1 目的 | 1 |
| 1-2 調査項目 | 1 |
| 1-3 調査体制 | 2 |
| 1-4 調査工程 | 3 |

2. 地形調査

| | |
|----------------------------------|----|
| 2-1 地形構成要素 | 5 |
| (1) 標高区分から見た岩村町 | 5 |
| (2) 傾斜区分から見た岩村町 | 7 |
| 2-2 水系 | 9 |
| 2-3 地形分類図の作成 | 11 |
| (1) 地形分類図作成の考え方 | 11 |
| (2) 分類単位の解説 | 11 |
| (3) 地形分類図から見た岩村町 | 30 |
| 2-4 岩村町の地形的特徴 | 31 |
| (1) 北部地域の地形—山頂部がなだらかな定高性山地— | 31 |
| (2) 中部地域の地形—低地・段丘・丘陵地が入り組む複雑な地形— | 32 |
| (2) 南部地域の地形—急峻な山地— | 33 |

3. 表層地質調査

| | |
|---------------------------------------|----|
| 3-1 地質の概要 | 35 |
| (1) 地質区分と分布状況 | 35 |
| (2) 北部地域—濃飛流紋岩類の上に土岐砂礫層が堆積する地域— | 37 |
| (3) 中部地域—花崗岩類や瑞浪層群の丘陵や台地に段丘礫層が堆積する地域— | 38 |
| (4) 南部地域—花崗岩類が広く分布する地域— | 40 |
| (5) 地質構造及び地史 | 50 |
| 3-2 特筆すべき現象等 | 52 |
| (1) 恵那山断層 | 52 |
| (2) 花崗岩の風化 | 59 |
| (3) 瑞浪層群から産出される化石 | 60 |

4. 土壌調査

| | |
|-------------------|----|
| 4-1 調査概要 | 63 |
| 4-2 土地分類基本調査の土壌区分 | 65 |
| 4-3 現地調査による分類 | 66 |

| | |
|------------------------------|------|
| (1) 分類の概要 | 66 |
| (2) 黒ボク土 | 68 |
| (3) 褐色森林土・赤黄色土系の土壌 | 68 |
| (4) 沖積土 | 69 |
| 5. 防災関連調査 | |
| 5-1 自然災害等の履歴 | 83 |
| (1) 豪雨災害 | 83 |
| (2) 地震災害 | 90 |
| (3) その他の災害 | 92 |
| 5-2 地理情報システムによる分析例 | 93 |
| (1) 土地の評価の可能性 | 93 |
| (2) 検討フロー | 93 |
| (3) 検討結果 | 94 |
| 6. 土地利用現況調査 | |
| 6-1 土地利用現況 | 99 |
| (1) 土地利用現況図 | 99 |
| (2) 字界図 | 101 |
| 6-2 土地利用現況関連調査 | 102 |
| (1) ライフライン関連情報 | 103 |
| (2) 保全関連情報 | 105 |
| (3) その他の情報 | 110 |
| 参考文献 | 119 |
| 資料 1 土地分類調査関係資料 | 資- 1 |
| 資料 2 土壌断面調査票 | 資- 9 |

付図(1/15,000)

- 地形分類図
- 表層地質図
- 土壌図
- 字界図

【表紙写真】

「日本一の農村景観」展望台から
のぞむ小規模扇状地地形

1. 調査概要

1. 調査概要

1-1 目的

町土の開発・保全及びその利用の高度化に資するため、土地の有する自然的・社会的条件についての科学的かつ総合的な調査成果に基づき、土地利用分析並びに地域総合診断を行うことを目的とする。

調査は、国土調査法(昭和26年法第180号)第6条に基づいて実施する。

1-2 調査項目

調査は、基図作成、土地条件調査、防災関連調査(土地保全調査)、土地利用現況調査に区分される。また防災関連調査のうちで、土地条件調査等から地理情報システムによる分析例を示す。各調査の作業内容は以下のとおりである。

表1-1 調査項目一覧

| 区分 | 項目 | 作業内容 | 備考 |
|--------------------|------------------|---|--|
| 基図作成 | | 基図の収集・調整 | |
| 土地条件調査 | 地形調査 (地形分類調査) | 標高区分図 傾斜区分図 水系・流域界 地形分類図 | |
| | 表層地質調査 | 地質概査 表層地質図 活断層 | |
| | 土壌調査 | 現地調査 土壌概要 土壌図 | |
| 防災関連調査 (土地保全調査) | 自然災害の履歴等 | 豪雨災害 地震災害 | |
| | 危険箇所の検討 | 評価検討 | 地域総合診断として実施 |
| 土地利用現況調査 | 土地利用現況 | 森林利用状況 字界図 | |
| | 土地利用現況関連 調査 | ライフライン関係 | 道路網、下水管路 |
| | | 保全関連 | 防災指定地、避難場所、 防火水槽・消火栓、防犯 灯、カーブミラー |
| | その他 | 文化財、ごみ収集場所、 国土利用計画、福祉バス、 保育園バス、町営住宅 | |

1-3 調査体制

調査は、学識経験者・行政職員による調査委員会等を設置し委員会の企画管理の元に作業を実施する。

表1-2 調査体制

| 区分 | | 調査組織 | 主な役割 |
|--------------------|-------------|--|--|
| 事業 主体 ・ 町 | 実 施 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 調査委員会 ・ 委員 ・ 調査委員（関係各課） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 事務局 ・ 総務課 ・ 調査機関 </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査計画作成 ・ 調査の実施 ・ 数値情報化 ・ 成果の整理とりまとめ ・ 成果の維持管理 |
| | 国 ・ 県 | 指 導 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 国土交通省土地・水資源局 国土調査課 岐阜県地域県民部土地対策室 </div> |

1-4 調査工程

調査は平成13～16年度にかけ、以下のように進めた。

表1-3 調査工程

| 区 分 | 平成13年度 | 平成14年度 | 平成15年度 | 平成16年度 |
|----------------|--------|--------|--------|--------|
| 基図作成 | ←————→ | | | |
| 土地条件調査 地形調査 | ←————→ | | | |
| 表層地質調査 | | ←————→ | | |
| 土壌調査 | | | ←————→ | |
| 防災関連調査 | | | ←————→ | |
| 土地利用現況調査 | | | ←----- | ————→ |

2. 地形調査

2. 地形調査

2-1 地形構成要素

(1) 標高区分から見た岩村町

1/5,000森林基本図を1/10,000に縮小した地形図の等高線を20m間隔にデジタル化して数値化した。これから100m毎に段彩し、標高区分図(図2-1)を作成した。標高区分毎の面積を表2-1に示す。

表2-1 標高区分ごとの面積

単位：km²

| 標 高 | 面 積 | |
|-------------|-------|-------|
| | 町内 | 町外町有地 |
| ～ 400m | 0.36 | 0 |
| 400m～ 500m | 5.06 | 0 |
| 500m～ 600m | 16.60 | 0.21 |
| 600m～ 700m | 7.06 | 0.85 |
| 700m～ 800m | 2.78 | 2.21 |
| 800m～ 900m | 1.38 | 0.92 |
| 900m～1,000m | 0.85 | 0.44 |
| 1,000m～ | 0.27 | 0.13 |
| 合 計 | 34.36 | 4.76 |

全体的に見ると、南部が高く北部に向かって下っているが、北西部は600m以上の山塊に岩村川が掘り込んでいるような状況になっている。岩村町の市街地や大半の集落はおおよそ標高450m～600mの間にあり、田畑もほぼ同様の高さに分布している。そのため標高500～600mの部分が16.60km²と町内面積の半分近くを占めている。

町内の最低標高地点は阿木川湖で標高約400mであり、最高標高地点は、三森山の山頂(1,100.3m)で、町北部では町外にあたるが夕立山付近の約700mのピークが最も高くなっている。町の中中部は標高450m～550mほどの低地や段丘、丘陵地などが大半を占める中で、武並山のみが周囲より際立って高くなっており、武並山山頂の標高は658mで周囲の丘陵より100mほど高くなっている。

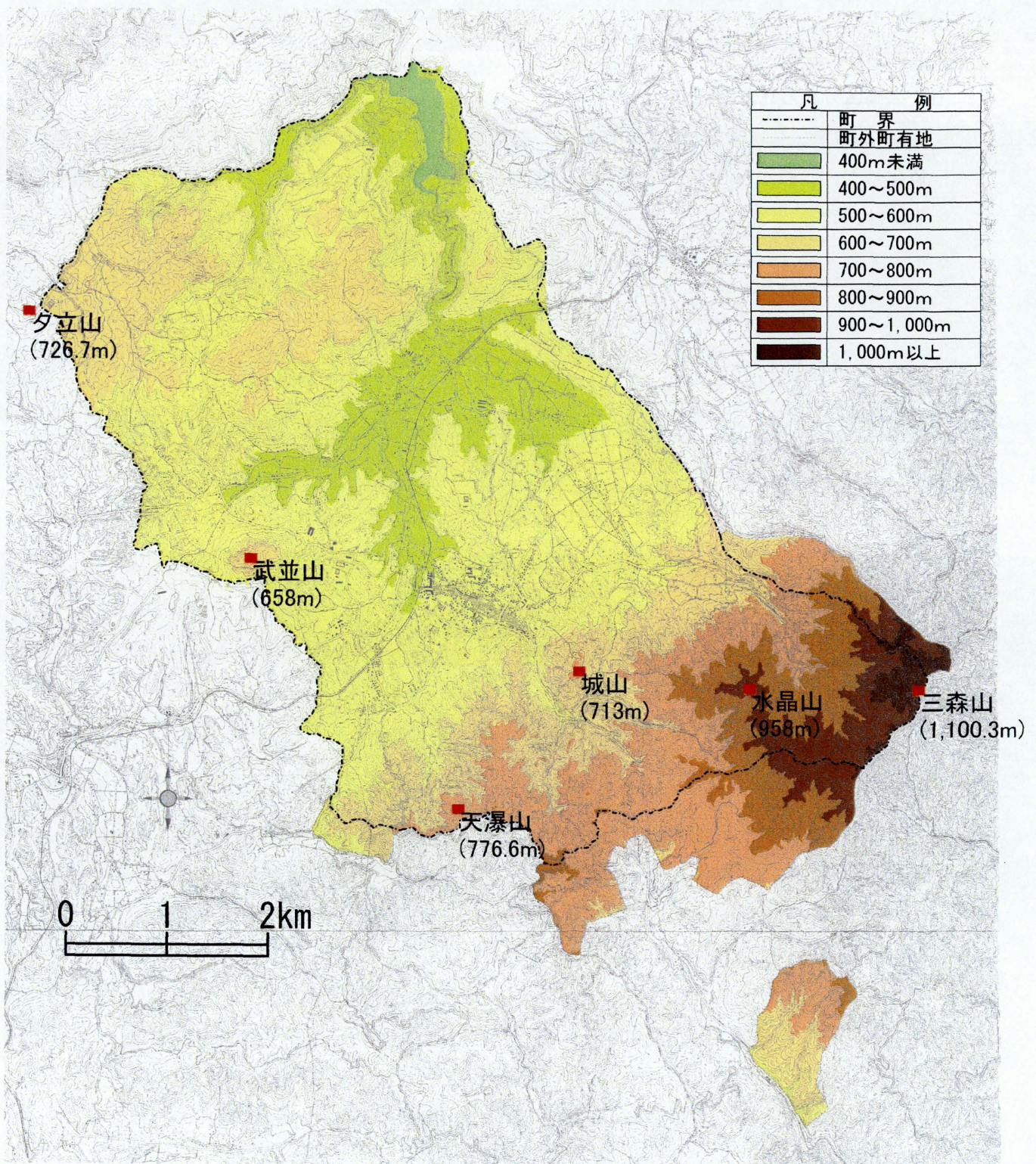


図2-1 標高区分図

(山の標高は国土地理院発行地形図による)

(2) 傾斜区分から見た岩村町

町内の地表面の傾斜を等高線の密集状況によって判断し、土地分類基本調査の地形調査作業規程準則(昭和29総理府令第50号)に準じて以下の7階級に区分した傾斜区分図(図2-2)を作成した。傾斜区分毎の面積を表2-2に示す。

表2-2 傾斜区分ごとの面積

単位：km²

| 傾 斜 | 面 積 | |
|---------------|-------|-------|
| | 町 内 | 町外町有地 |
| 3° 未満 | 4.56 | 0 |
| 3° 以上～8° 未満 | 4.47 | 0 |
| 8° 以上～15° 未満 | 5.88 | 0.24 |
| 15° 以上～20° 未満 | 5.70 | 0.86 |
| 20° 以上～30° 未満 | 5.38 | 1.52 |
| 30° 以上～40° 未満 | 7.40 | 1.79 |
| 40° 以上 | 0.97 | 0.35 |
| 合 計 | 34.36 | 4.76 |

町北部と町南部は傾斜8°以上の傾斜地が大半を占めており、町中部は傾斜8°以下の比較的緩やかな斜面や平坦地が広がっている。

傾斜が3°未満の平坦な箇所は、岩村川中上流・富田川・飯羽間川沿いの谷底部や上平地の谷底部に分布しており、主に水田や市街地として利用されている。3°以上～8°未満の比較的緩やかな斜面は、扇状地の上部、谷の源頭部、段丘周囲の斜面などに分布しており、田畑や集落として利用されている。8°以上～15°未満及び15°以上～20°未満の斜面は丘陵地や緩やかな山地になっており、町北部～中部にかけて広くみられる。20°以上～30°未満及び30°以上～40°未満の斜面は山地斜面に一般的にみられ、北部では阿木川湖周辺、南部では山地の大半が該当する。20°以上～40°未満の傾斜が占める面積は町内部分だけで12km²あまりあり、町内の1/3を超える。40°以上の急斜面は北部では岩村川下流沿いの斜面に、南部では天瀑山付近などの山地斜面に分布している。

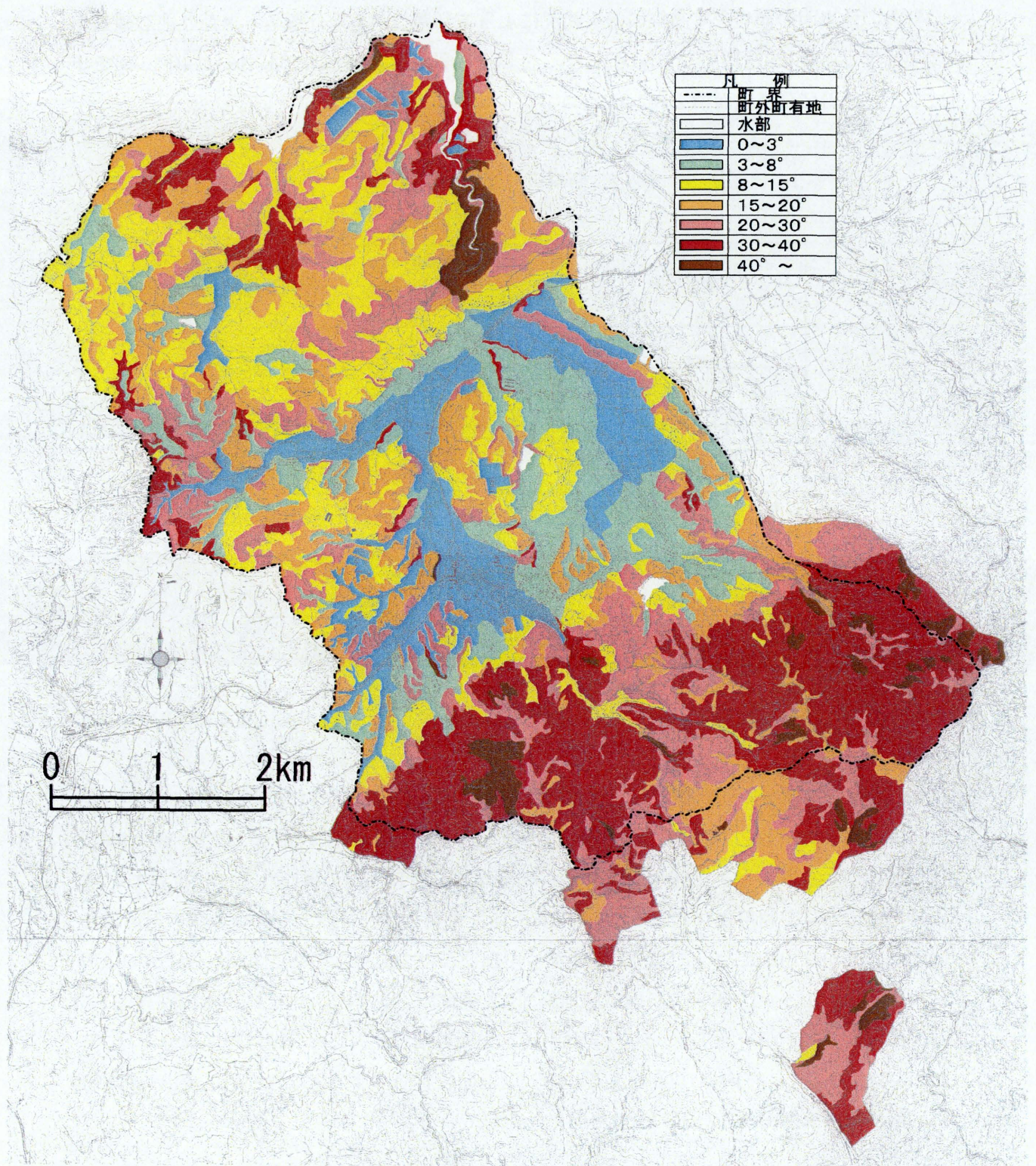


图2-2 傾斜区分图

2-2 水系

岩村町はほぼ全域が岩村川の流域に含まれており、岩村川は一級河川木曾川水系の支流の阿木川流域に含まれている。町内は大きく分けると岩村川本川流域と阿木川湖の湖面で合流する湯壺川流域に2分される。岩村川本川流域は下切の富田川合流点付近を境界にして本川下流域、本川中～上流域、富田川流域の3流域に区分される。さらに細分すると岩村川流域は、中流域、上流域、飯羽間川流域、一色川流域に分けられ、富田川流域は下流域(下切付近の小河川も含む)、上流域、打杭川流域、吉田川流域に分けられる。

各流域の流域面積と流路長を表2-3に示す。また、水系・流域界図を図2-3に示す。

表2-3 各流域の流域面積と流路長

| 流域名 | 面積 (km ²) | 本川流路長(km) | 支川流路長(km) |
|----------|-----------------------|-----------|-----------|
| 湯壺川流域 ※1 | 9.13 ※1 | 3.72 | 34.89 |
| 岩村川下流域 | 2.74 | 3.61 | 13.10 |
| 岩村川中流域 | 5.24 | 4.32 | 31.95 |
| 岩村川上流域 | 3.54 | 2.70 | 41.67 |
| 飯羽間川流域 | 4.44 | 4.77 | 37.71 |
| 一色川流域 | 4.01 | 2.72 | 44.87 |
| 富田川下流域 | 1.86 | 1.77 | 4.28 |
| 富田川上流域 | 3.06 | 5.60 | 28.76 |
| 打杭川流域 | 1.59 | 2.14 | 8.05 |
| 吉田川流域 | 2.75 | 2.45 | 23.82 |
| 合計 | 38.36 ※2 | 33.8 | 269.1 |

※1：湯壺川などは町外の流域を含む。

※2：町外町有地(矢作川水系等)などは含まない。

なお、町界付近には他流域に含まれる箇所が若干あり、夕立山付近や武並山付近の一部の南西側斜面は庄内川水系の流域となっており、下切北側にも阿木川本川の流域となる斜面が含まれている。また、岩村町内へ流入する箇所としては、一色川流域のいくつかの谷が最上流部が山岡町に含まれている。

水系の密度は、花崗岩類からなる町南部の山地(次項参照)では細かく密になっており、北部の流紋岩類からなる山地では、斜面中～下部には谷が発達しているが、山頂部は小起伏面となっていて水系の密度が疎になっている。また、町中部は低地や段丘など新しい地形面が広く、水系の密度は比較的疎になっている。

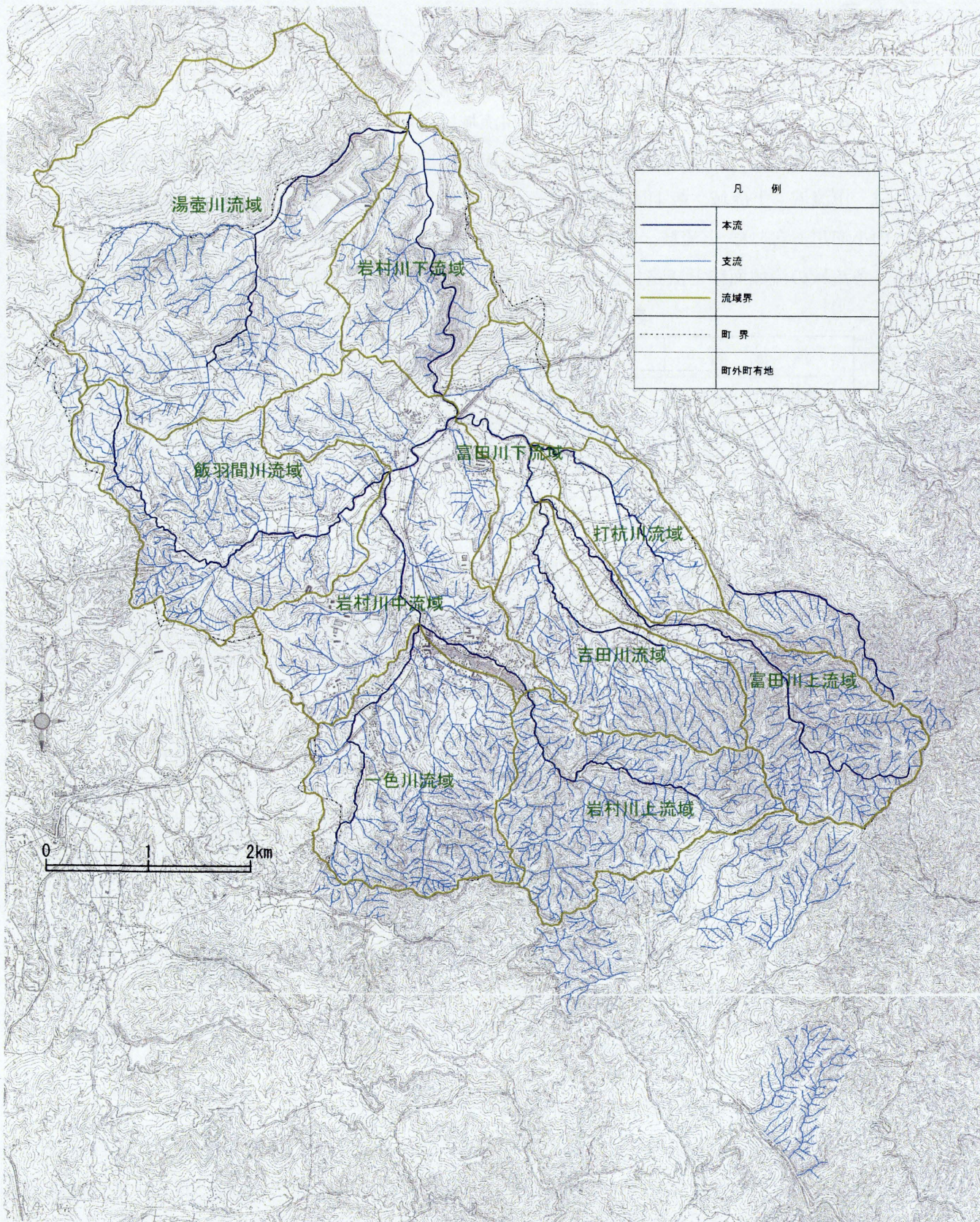


図2-3 水系・流域界図

2-3 地形分類図の作成

(1) 地形分類図作成の考え方

空中写真判読により地形分類を行い、1/5,000森林基本図を1/10,000に縮小した地形図に図化、整理した。また、空中写真判読だけでは判断できない箇所などは現地調査により確認を行った。

地形分類の区分は、地形の成り立ちに対する理解のしやすさや土地の安定性の評価への利用を考慮し、成立要因に着目した分類とすることを目指し、表2-4に示すように、「沖積地・谷底の堆積地形」、「段丘地形」などのカテゴリーを設けカテゴリー内を細区分して分類単位とした。これにより岩村町及び町外町有地を面的に区分したほか、「小起伏面周辺部の遷急線」、「活断層と考えられるリニアメント」という特徴的な線状の地形を記した。また1978年、2001年の2時点の航空写真により、それぞれの崩壊地、崩壊跡地、崩土流下区間の分布を判読した。

(2) 分類単位の解説

作成した地形分類図は、図2-4のとおりである。地形分類単位それぞれの成因や特徴、留意点について、pp.15～29にまとめた。

表2-4 地形分類凡例一覧

| 凡 例 | 摘 要 |
|------------------------|--|
| 沖積地・谷底の堆積地形 | |
| 谷底低地 | 比較的勾配が緩い谷底。 |
| 扇状地 | 岩村川、富田川の小規模な扇状地で、勾配約1/50程度である。恵那山断層により変位した箇所がある。 |
| 沖積錐 | 土石流等によって運ばれた石礫が堆積する谷底や扇状の地形。 |
| 水田として改変された沖積錐 | 上記沖積錐のうち水田として改変されたため、表面上平坦に見える部分。 |
| 崖錐 | 山麓に斜面から石礫が崩落・堆積した地形。 |
| 段丘地形 | 高位から順に段丘1～段丘4とした。 |
| 段丘1 | 最も高い段丘。岩邑中学校、富田打杭あたりなど。 |
| 段丘2 | 富田大円寺、分根の高台など。 |
| 段丘3 | 沖積地より数m程度高い。岩村市街地など。 |
| 段丘4 | 低地よりわずかに高い箇所。飯羽間駅付近など。 |
| 斜面の侵食地形 | |
| 溪岸急斜面 | 岩村川が阿木川ダムに流入する直上流部等にみられる。 |
| 山腹斜面 | 溪岸急斜面、地すべり以外の山地斜面。 |
| 地すべり地形 | 滑落崖と移動土塊が見られ、地すべりであると判読される地形。 |
| 小起伏面などの地形 | |
| 尾根上の緩斜面 | 山頂部付近に分布する、起伏がほとんどない緩斜面。 |
| 小起伏面 | 山頂・稜線付近にひろがる緩やかな起伏の斜面。 |
| 小起伏面周辺部の遷急線 | 小起伏面と山腹斜面の境界部で、傾斜が大きく変わる部分。 |
| 変動地形 | |
| 活断層と考えられる リアメント(線) | 恵那山断層によると考えられる直線状の地形。 |
| 人工地形 | |
| 切土・盛土斜面 | 切土、盛土によるのり面。 |
| 人工的平坦地 | 宅地、工場等として造成された平坦地。 |
| ダム等の堤体 | コンクリートなどで覆われた人工被覆地。 |
| 崩壊地 | |
| 1978年の航空写真による崩壊地 | |
| 1978年の航空写真による崩壊跡地 | |
| 1978年の航空写真による崩土流下区間(線) | |
| 2001年の航空写真による崩壊地 | |
| 2001年の航空写真による崩壊跡地 | |
| 2001年の航空写真による崩土流下区間(線) | |

※ 凡例中に(線)と記したものは、図上に線で示す要素。それ以外は面で示す要素。

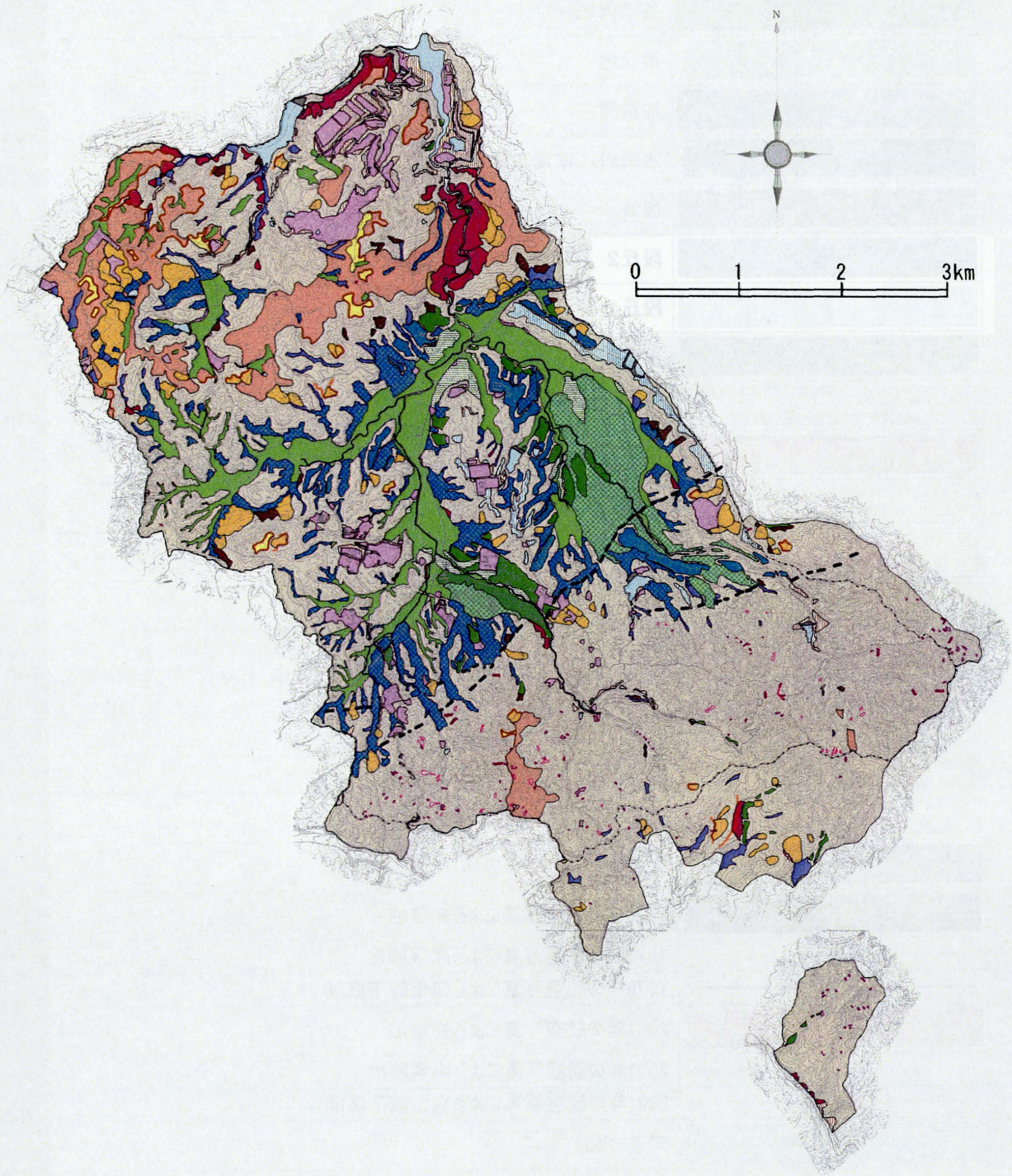


図 2-4(1) 地形分類図(凡例は次頁)

| 地形分類図 | |
|---|---------------------|
|  | 谷底低地 |
|  | 扇状地 |
|  | 沖積錐 |
|  | 水田として改変された沖積錐 |
|  | 崖錐 |
|  | 段丘1 |
|  | 段丘2 |
|  | 段丘3 |
|  | 段丘4 |
|  | 溪岸急斜面 |
|  | 山腹斜面 |
|  | 地すべり地形 |
|  | 尾根上の緩斜面 |
|  | 小起伏面 |
| | 小起伏面周辺部の遷急線 |
| | 活断層と考えられるリニアメント |
|  | 人工地形(切土・盛土斜面) |
|  | 人工地形(人工的平坦地) |
|  | 人工地形(ダム等の堤体) |
|  | 1978年の航空写真による崩壊地 |
| | 1978年の航空写真による崩壊跡地 |
| | 1978年の航空写真による崩土流下区間 |
|  | 2001年の航空写真による崩壊地 |
| | 2001年の航空写真による崩壊跡地 |
| | 2001年の航空写真による崩土流下区間 |
|  | 河道・水面 |

図2-4 (2) 地形分類図の凡例

| | |
|-------|---|
| 名 称 | 谷底低地 |
| 成因と特徴 | 河川によって運ばれた土砂が谷底に堆積している場所で、人為的に河道を固定する前は土砂の侵食・堆積作用が継続していた場所。比較的勾配は緩く、堆積している土砂は細粒分が比較的多い。 |
| 分 布 | 岩村川中下流や富田川下流、飯羽間川に沿った谷底に広がる。 |
| 留意点 | 低地で水条件がよいところであるため、主に水田として利用されているが、大規模な洪水時には冠水する可能性が高い地域である。河川改修・砂防事業が進み、以前より安全性が高まっているが、住宅地への転用などの開発行為には浸水災害に対する注意が必要となる。 |

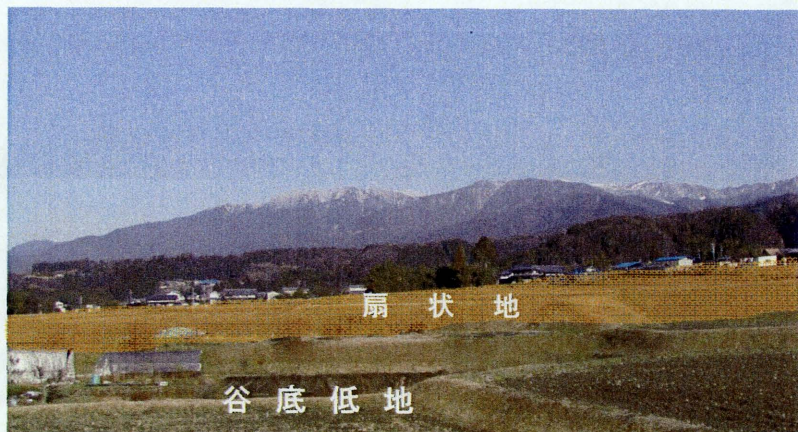


写真2-1 富田川下流の谷底低地



写真2-2 上平付近の谷底低地

| | |
|-------|---|
| 名 称 | 扇状地 |
| 成因と特徴 | <p>およそ数万～数千年前以降、侵食・堆積作用を継続してきた扇状地であるが、一部は河川に侵食され段丘化している。現河床との比高が小さく、特に上流側は人為的に河道を固定するまでは土砂の侵食・堆積作用が継続していたと考えられる。</p> <p>富田地区では恵那山断層が扇状地を横切っており、この活動による変位(上流側が相対的に隆起、下流側が相対的に沈降)が見られる。</p> |
| 分 布 | 富田川中流域や岩村中心部付近。 |
| 留意点 | <p>比較的水条件がよいところであるため、主に水田として利用されているが、大規模な洪水時には冠水したり、土砂流出により田畑が埋没する可能性がある地域であり、上流側では土石流の発生も懸念される。</p> <p>河川改修・砂防事業が進み、以前より安全性が高まっているが、谷出口付近の林地や休耕田の再開などでは土石流災害や浸水災害に対する注意が必要となる。</p> |



中央黄色網掛部:扇状地の範囲

写真2-3 南富～中富付近の扇状地



写真2-4 恵那山断層の活動により変位した扇状地

| | |
|-------|---|
| 名 称 | 沖積錐 水田として改変された沖積錐 |
| 成因と特徴 | 主に土石流によって運ばれた石礫が谷底に堆積している場所で、人為的に河道を固定するまでは土砂の侵食・堆積作用が継続していた場所。谷底低地と比較すると急勾配で、堆積している土砂には礫が多い。水条件が良いため、水田利用として表面を平坦化した部分が多く、元の凹凸がある地表面の様子が見られないため。 |
| 分 布 | 低地と山地・丘陵地との境界部にみられ、上流側が急峻な山地となっている箇所が多い。 |
| 留意点 | 水田へと改変された箇所を含め、大規模な洪水時には冠水する可能性が高い地域であり、土石流災害に被災する可能性がある。 河川改修・砂防事業が進み、以前より安全性が高まっているが、山間部での休耕田の住宅用地への転用などでは浸水災害や土石流災害に対する注意が必要となる。 |

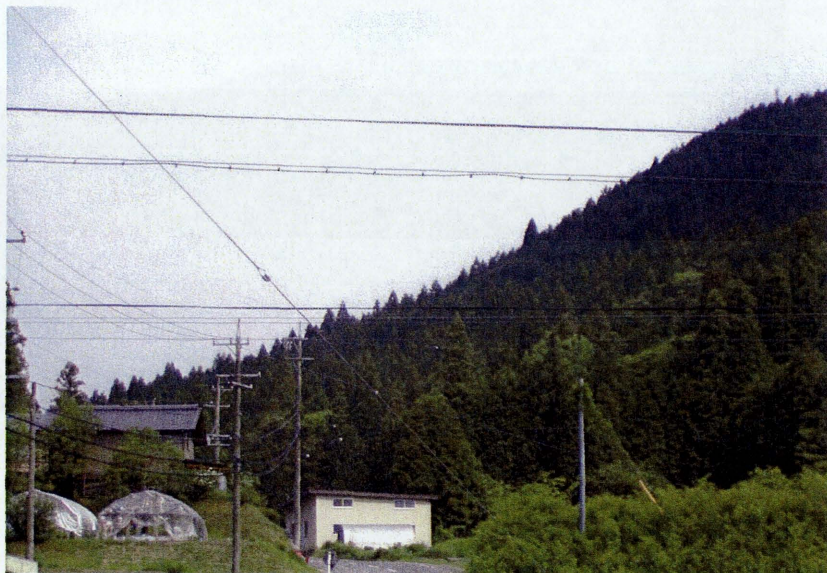


写真2-5 水田化された沖積錐 (石畑付近)



写真2-6 水田化された沖積錐 (滝頭付近)

| | |
|-------|--|
| 名 称 | 崖錐 |
| 成因と特徴 | 山地や丘陵地などの斜面の下部に、上方の斜面から土砂や石礫が崩落して形成された地形。 |
| 分 布 | 町内の各所に分布するが、比較的明瞭なものは武並山周辺や中切～下切付近などの斜面下部にみられる。 |
| 留意点 | 傾斜地であるため、主に林地となっているが、斜面下端部では整地して住宅や田畑として利用している場合もみられる。 斜面下部にあたるため崖崩れ・地すべりなどの土砂災害の危険があり、特に大規模な切土による造成行為には注意が必要である。 |



斜面の中～下部で凹型のカーブを描く部分が崖錐斜面

写真2-7 武並山北側の崖錐斜面

| | |
|-------|--|
| 名 称 | 段丘1 |
| 成因と特徴 | 岩村町の段丘地形では最も高い位置に分布する段丘面。谷底低地・扇状地からの比高は40～60mに達し、岩村町の中央東部のスカイラインを形成している。数十万年前に土岐砂礫層を侵食して形成されたと考えられる。 |
| 分 布 | 岩邑中学校周辺の丘陵頂部や富田北東側(打杭付近)の台地。 |
| 留意点 | 沖積地からの比高が大きいためかつては水条件が悪く、林地として利用されてきたが、戦後の開拓で水田として利用されるようになった箇所が多い。段丘の表面は砂礫が主体になっているが、泥層が挟まれている箇所など水持ちのよいところでは、用水を確保すれば水田としての利用も可能である。高台に位置するため、浸水災害や土石流災害などの危険はないが、段丘縁辺部の崩落の可能性がある。 |

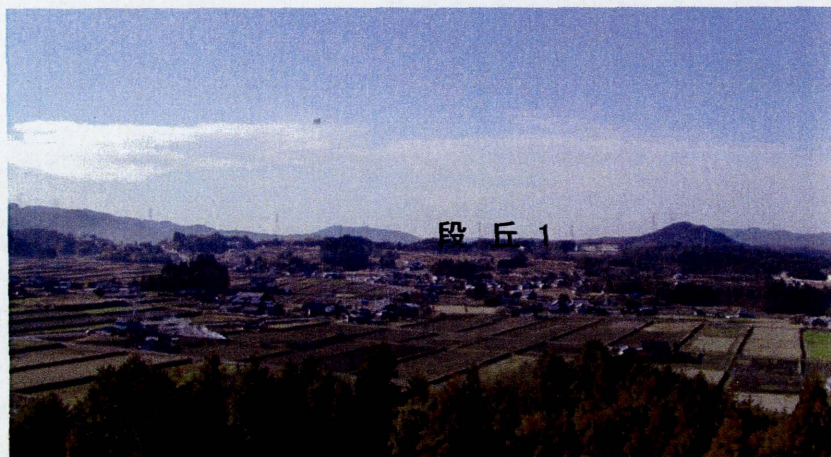


写真2-8 岩邑中学校付近の段丘1



写真2-9 中富北東側の段丘1

| | |
|-------|--|
| 名 称 | 段丘 2 |
| 成因と特徴 | 谷底低地や扇状地からの比高20~30m程度の段丘。数十万年前~十数万年前ぐらいに谷底低地や扇状地として形成されたと考えられる。 |
| 分 布 | 新市場や大円寺、西富、中切、下切など。 |
| 留意点 | 高台に位置するため、主に林地や畑地として利用されてきたが、一部は水田や集落として利用されている。段丘構成層は砂礫が主体になるため一般には水持ちはよくないが、泥層が挟まれている箇所では水田としての利用も十分可能である。高台に位置するため、浸水災害や土石流災害などの危険は少ないが、段丘縁辺部での崩落の可能性はある。 |



写真2-10 西富付近の段丘 2



写真2-11 中切付近の上位段丘

| | |
|-------|--|
| 名 称 | 段丘3 |
| 成因と特徴 | 谷底低地からの比高が数m～20m程度の段丘。下流側(下切付近)では比高が大きく、段丘として明確に認識できるが、上流側では周囲の地形面との比高差が小さくなっており、富田では段丘としての形状が不明瞭になる。およそ数万年前に谷底低地や扇状地として形成されたと考えられる。 |
| 分 布 | 岩村の中心部市街地や南富付近、西富の北方、飯羽間などに分布 |
| 留意点 | 飯羽間付近では谷底低地(現河床)からの比高が大きいため、浸水災害や土石流災害などの危険は少ないが、背後の斜面からの崖崩れや段丘縁辺部での崩落の可能性がある。また、町中心部や南富に分布する下位段丘は、現河床からの比高が小さく、浸水災害や土石流災害などの発生する可能性がある。 |



写真2-12 南富付近の段丘3



写真2-13 殿町付近の段丘3

| | |
|-------|--|
| 名 称 | 段丘 4 |
| 成因と特徴 | 谷底低地からの比高は数m以内の段丘。段丘 3 と同様に上流側では周囲の地形面との比高差が小さくなり、段丘としての形状が不明瞭になる。およそ数千年前に谷底低地や扇状地として形成されたと考えられる。 |
| 分 布 | 岩村の中心部市街地や西富の東方、飯羽間などに分布 |
| 留意点 | 低位段丘は谷底低地(現河床)からの比高が最大で 5 ～ 7 m ほどあり、水田や集落・市街地として利用されている。段丘面と現河床との比高があるため、浸水災害などの危険は少ないが、背後の斜面からの崖崩れや段丘縁辺部での崩落の可能性がある。 |



写真2-14 西富東側の段丘 4



写真2-15 飯羽間駅付近の段丘 4

| | |
|-------|---|
| 名 称 | 溪岸急斜面 |
| 成因と特徴 | 川沿いの特に急峻な斜面で、河川や溪流の侵食によって切り立った斜面となっている。 |
| 分 布 | 下切から阿木川湖にかけての岩村川沿いなど。 |
| 留意点 | 急斜面であるため落石や土砂崩落等に対して注意する必要がある。 |



写真2-16 岩村川沿いの溪岸急斜面

| | |
|-------|---|
| 名 称 | 山腹斜面 |
| 成因と特徴 | 山地や丘陵が侵食されて形成された地形面。表層は風化した土砂に覆われており、ほとんど植生に覆われている。 |
| 分 布 | 町内各地の山地や丘陵地に広く分布する。 |
| 留意点 | 溪岸急斜面より勾配が緩く、落石の危険性は比較的小さいが、土岐砂礫層や段丘礫層、風化花崗岩などの分布地域では、豪雨や地震の際に斜面崩落に注意する必要がある。 |



写真2-17 丘陵地の緩やかな山腹斜面



写真2-18 山地の急峻な山腹斜面

| | |
|-------|---|
| 名 称 | 地すべり地形 |
| 成因と特徴 | 地すべりや山腹崩壊などの大規模な土砂移動現象が発生したと考えられる斜面。滑落崖やその前面に移動土塊(移動体)の堆積地形がみられる。滑落崖が見られない不明瞭なものについても移動土塊の範囲を示した。 |
| 分 布 | 町内の山地や丘陵地に点在する。北西部に多く見られる。 |
| 留意点 | 町内には現在も滑動している地すべりは認められないが、地すべり地形において道路や宅地造成等のために移動土塊を改変した場合に、土塊が再移動する可能性があり、排水処理などに注意が必要となる。 |



矢印：土塊の移動方向

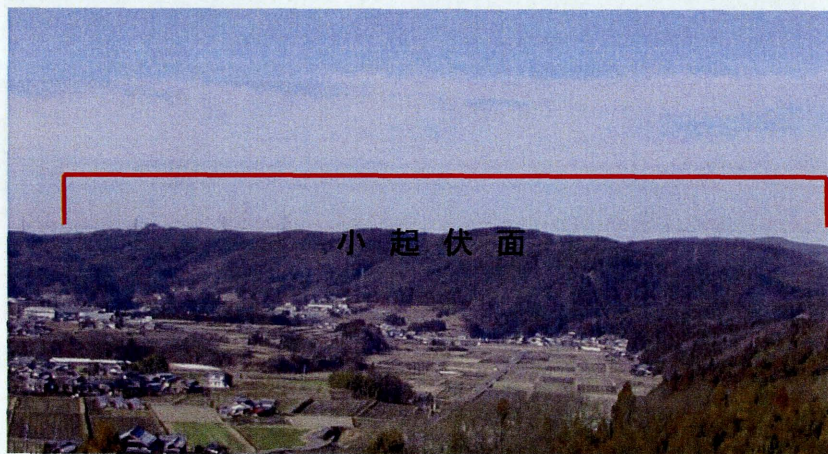
写真2-19 武並山北西斜面の地すべり地形



矢印：土塊の移動方向

写真2-20 上平付近の地すべり地形

| | |
|-------|--|
| 名 称 | 尾根上の緩斜面、小起伏面 小起伏面周辺部の遷急線(線状要素) |
| 成因と特徴 | 山地頂部のなだらかな地形面で、山頂部のほとんど起伏のない部分を緩斜面、いくぶん起伏があるものの起伏が小さい部分を小起伏面として分類した。その周囲の山腹斜面との明瞭な変化点があるところを遷急線とした。 阿木川湖周辺から夕立山にかけての緩斜面は、およそ200～300万年前の土岐砂礫層の堆積面の名残りと考えられている。 |
| 分 布 | 阿木川湖周辺から夕立山にかけての地域に広く、他に武並山頂部、天瀑山周辺地域。 |
| 留意点 | 長期にわたって地表付近に露出していることから、風化が進行していると考えられる。このため、周辺の急斜面との境界部では崩壊が発生しやすいと考えられる。また、林地を皆伐した場合などには、厚く残積している風化物質が侵食されて流亡するおそれがある。 |



赤線：小起伏面のおよその範囲

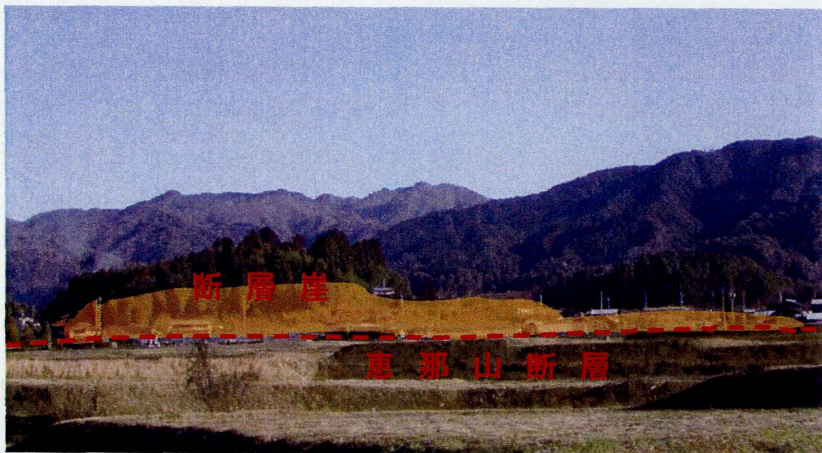
写真2-21 町北部のスカイラインを形成する小起伏面



赤線：小起伏面のおよその範囲

写真2-22 小起伏面(東濃共同模範牧場付近：手前は造成地)

| | |
|-------|---|
| 名 称 | 活断層と考えられるリニアメント(線状要素) |
| 成因と特徴 | 活断層(恵那山断層)の変位によって地形面が食い違うなどによってできた地形で、活断層に沿って線状に分布するため直線的に示される。顕著なものとしては富田の断層崖が挙げられる。 |
| 分 布 | 町の中南部を、X字状に2本のリニアメントが東西に横断する。これに沿って、断層崖や断層鞍部などが見られる。 |
| 留意点 | 断層崖の周辺では恵那山断層の活動時には特に揺れが強い強震域となり、また、断層崖自体が変形し、構造物に被害を与える可能性がある。 |



黄色網掛部：断層崖、赤破線：断層のおよその位置

写真2-23 恵那山断層の活動によって生じた断層崖(富田地区)



赤破線：断層のおよその位置

写真2-24 断層崖の延長上に生じた断層鞍部

| | |
|-------|---|
| 名 称 | 人工地形（切土・盛土斜面） 人工地形（人工的平坦地） 人工地形（ダム等の堤体） |
| 成因と特徴 | 人為的に改変された地形。「切土・盛土斜面」は道路や造成地などののり面が多い。「人工的平坦地」は工業団地や学校敷地、ゴルフ場などの造成地等が多い。「ダム等の堤体」は、コンクリート等で被覆されていることが多い。 |
| 分 布 | 全般に見られるが、北部ではゴルフ場や牧草地、中部では工業団地や学校敷地、南部ではダムの堤体などが多い。 |
| 留意点 | 適切に造成工事が施工されないと、大雨や地震発生時に法面崩壊などの災害を引き起こす可能性がある。 |



写真2-25 町内の造成地

| | |
|-------|--|
| 名 称 | 1978年の航空写真による崩壊地 1978年の航空写真による崩壊跡地 1978年の航空写真による崩土流下区間(線状要素) |
| | 2001年の航空写真による崩壊地 2001年の航空写真による崩壊跡地 2001年の航空写真による崩土流下区間(線状要素) |
| 成因と特徴 | 主として豪雨時に山地斜面などが崩壊して形成されるが、内陸直下型地震の際にも崩壊する可能性がある。今回の調査では1978年(昭和53年)と2001年(平成13年)の2時点の航空写真を用いてそれぞれの時点に見られる崩壊地等を抽出した。崩土流下区間として判読できた部分はわずかであった。 |
| 分 布 | 三森山から天瀑山にかけての町南部の花崗岩類からなる山地に多くみられる。 |
| 留意点 | 崩壊地は花崗岩類の山地地域に多く、人家の少ない地域であるが、林道などの道路に被害が及ぶおそれがある。2地点の航空写真に見られる崩壊の規模は、幅数m、長さ数十m程度の小規模なものが多く、花崗岩の表層風化部分の崩壊が多いものと考えられる。 |



写真2-26 木ノ実峠に至る旧道沿いにみられる表層崩壊地

(3) 地形分類図から見た岩村町

1) 全体

地形分類図から岩村町全体を見ると、全体に山腹斜面が多いのが目立つ。とくに活断層より南部では、ほとんどを山腹斜面が占める。

活断層より北側で飯羽間川より南側の中央部においては、谷底平野、扇状地、沖積錐、段丘、山腹斜面が入り組んでいる。ここは南部の山地からの土砂供給が富田川・岩村川に扇状地を形成し、平坦化と侵食により4段に分けられる段丘を形成し、山腹斜面からの土砂供給が谷底平野に向かって沖積錐を形成するため、複雑な地形の構成となっている。

飯羽間川より北部では、山腹斜面の上部に、小起伏面や頂部の緩斜面が広く見られる。東濃牧場や岩村ゴルフ場などの基盤となっている濃飛流紋岩類の硬い岩石のため開析の影響が小さいためと考えられる。岩村川や湯壺川に近い部分では40°を超える溪岸急斜面が分布している。

2) 活断層

活断層と考えられるリニアメントは直線状に分布しており、X字状に2本見られる。リニアメントで見られる地形は、p.27に示したように断層崖や鞍部、直線状の谷などがある。活断層による地質の変位及び地震との関連については3章表層地質でまとめた。

3) 崩壊地

1978年と2001年の航空写真により、2時点の崩壊地・崩壊跡地を抽出した。

1978年の航空写真では、岩村町南部の三森山、水晶山、天瀑山一帯の山地に崩壊地が多く見られた。1978年以前の20年間を見ると、5章に後述するとおり1959(昭和34)年、1961(昭和36)年、1967(昭和42)年、1970(昭和45)年、1972(昭和47)年、1974年(昭和49年)に豪雨が記録されている。

2001年の航空写真では、やはり1978年と同様に南部の山地に崩壊地が多く見られた。しかし、水晶山周辺の崩壊地を除き1978年とは別の場所が崩壊しており、1978年の崩壊地は植生が回復している傾向が見られた。また1978年に崩壊が見られなかった場所で、草や低木が被覆した「崩壊跡地」と考えられる箇所があり、一旦崩壊ののち植生が回復しつつあると考えられる。1978年以降2001年までの間には、1982(昭和57)年、1983(昭和58)年、1988(昭和63)年、1989(平成元)年、2000(平成12)年に豪雨が発生しており、豪雨による崩壊と植生の回復が繰り返されていると考えられる。

2-4 岩村町の地形的特徴

ここまでの地形構成要素や地形の状況から、岩村町は北部の「山頂部がなだらかな山地」、中部の「低地・段丘・丘陵地が入り組む複雑な地形」、南部の「急峻な山地」の3地域に大別される。これらの地域区分は、後述する表層地質の分布状況(p.36図3-1)とも類似しており、地質条件が地形の構成に影響を与えていることが考えられる。それぞれの地域の地形的特徴は次のとおりである。

(1) 北部地域の地形－山頂部がなだらかな定高性山地－

町北部(飯羽間川以北)の地域は、斜面中～下部が岩村川や湯壺川により侵食され、急傾斜の斜面となっている箇所が多く、谷底側(阿木川ダム湖側)からの概観は非常に険しい山地となっている。一方、斜面の上部は傾斜が緩やかな小起伏面となっているところが広く(写真2-1)、上平周辺には幅広い谷底も広がっているなど丘陵状の地形となっている。小起伏面は約300万年前から約200万年前かけて堆積した土岐砂礫層の堆積面の名残りとしてされており、小起伏面に位置する牧場の切土斜面には風化した礫を含む礫層がみられる。また、小起伏面の外縁部には不明瞭なものも含めて地すべり地形が多くみられる。

なお、阿木川湖から上平へ抜ける道路沿いにはゴルフ場が整備されており、また、夕立山周辺は畜産試験場や牧場として利用されており、人工的な改変地形が比較的多い。



写真2-27 町北部の山頂部がなだらかな定高性山地
(農村景観日本一の展望台より北西方向を望む)

(2) 中部地域の地形－低地・段丘・丘陵地が入り組む複雑な地形－

町中部(飯羽間川以南、恵那山断層以北)の地域は、岩村川、富田川、飯羽間川などによって形成された低地や扇状地、段丘が広がっており、武並山周辺は谷が複雑に入り組んだ丘陵状の地形となっている。

岩村川、飯羽間川に沿って谷の広い部分には谷底低地が分布する。河床勾配がおよそ2～3° 上の上流側の低地は、過去に土石流や土砂流の堆積によって形成されており、沖積錐として区別して分類した。岩村川・富田川は恵那山断層付近で小規模な扇状地を形成している。

段丘は岩邑中学校が位置する台地を中心に広く分布しており(写真2-2)、4段に区分できるが、明確な形成年代は不明である。上位から1～4とした段丘のうち、段丘1は岩邑中学校周辺の丘陵頂部や富田北東側の台地の上に分布し、段丘2は新市場や大円寺、西富、中切、下切など、段丘3は中心部市街地や南富付近、西富の北方、飯羽間など、段丘4は中心部市街地や西富の東方、飯羽間などに分布している。

このうち富田川流域の段丘3と段丘4は、段丘面の勾配が現在の河床勾配より緩いため、下流側では現在の河床との比高が大きいが上流側では比高が小さくなり、上流端ではより新しい地形面に覆われている。なお、南部の山地との境界付近には活断層の恵那山断層があり、富田地区では断層の南側で段丘や扇状地が隆起している。

丘陵地は中央部のうち西側の飯羽間川と一色川に挟まれたあたりに分布しており、地質的にはおおむね瑞浪層群が分布している。起伏が小さく谷底平野から稜線の比高が約50～70m程度の山腹斜面で構成されている。この中に、花崗岩で構成される武並山だけが比高130mと突出している。一部は工業団地や住宅団地などとして造成され、人工的な地形改変がなされている。



写真2-28 岩邑中学校周辺の段丘群

(農村景観日本一の展望台より南西方向を望む)

(3) 南部地域の地形－急峻な山地－

町南部、概ね恵那山断層以南の地域は、花崗岩類からなる山地 (写真2-3)で、東側から三森山(1,100.3m)、水晶山(958m)、城山(713m)、天瀑山(776.6m)などの山稜が連なっており、東から西に向かって高度が減じる傾向にある。

傾斜は稜線部や谷底を除くと30°以上の部分が多く急峻であり、細かく水系が入り込んでいる。地質は花崗岩類で、表層は風化してマサとなっている。

また1978年、2001年の航空写真を見ると、両時点とも崩壊地や崩壊跡地が散在しており、花崗岩の表層風化部分の崩壊がたびたび発生しているものと考えられる。



写真2-29 町南部の急峻な山地 (三森山山頂付近より水晶山を望む)

【写真撮影位置】

本章で用いた写真の撮影位置を図2-5に示した。

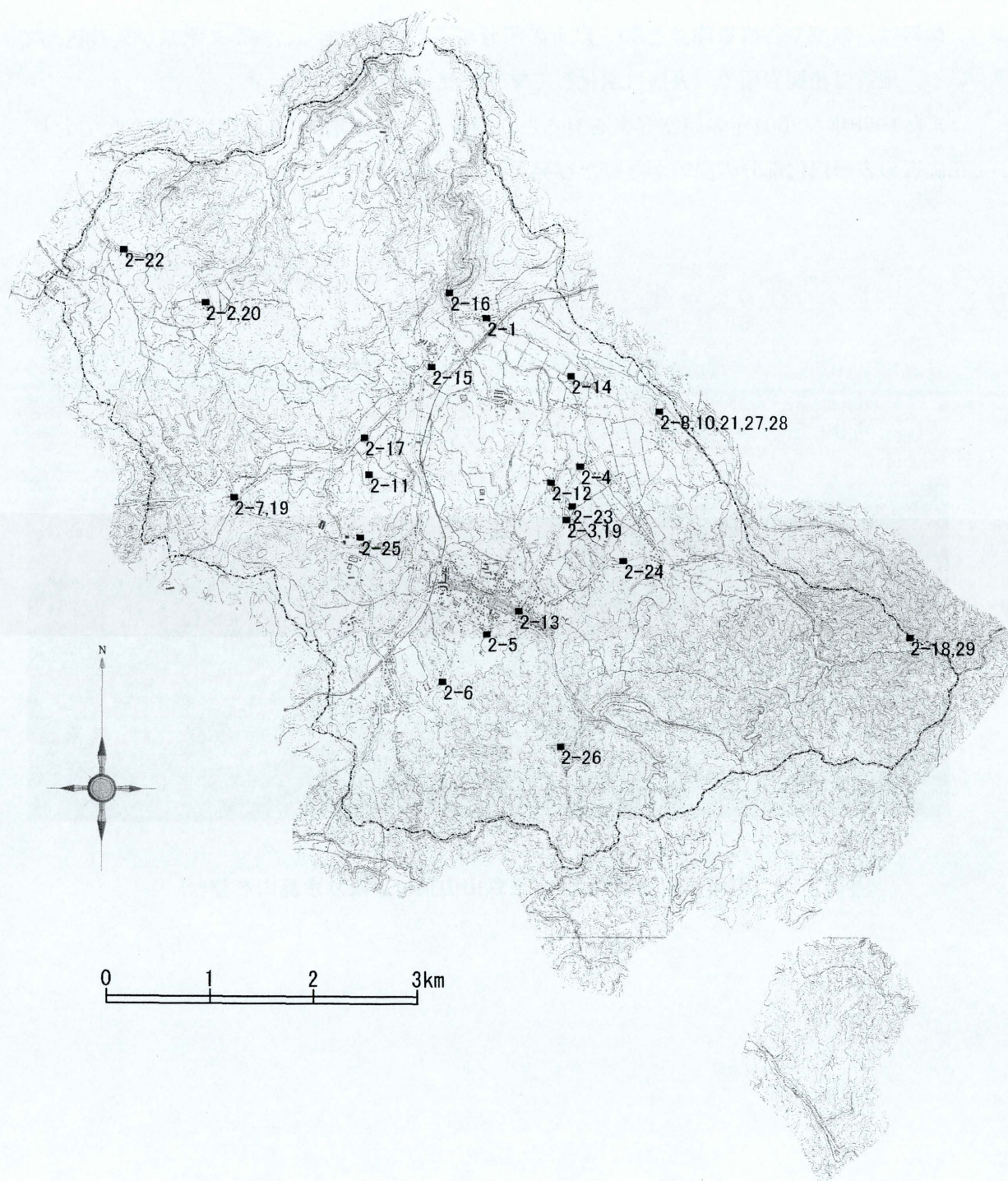


図2-5 写真撮影地点位置図 (地形分類調査)

3. 表層地質調査

3. 表層地質調査

3-1 地質の概要

(1) 地質区分と分布状況

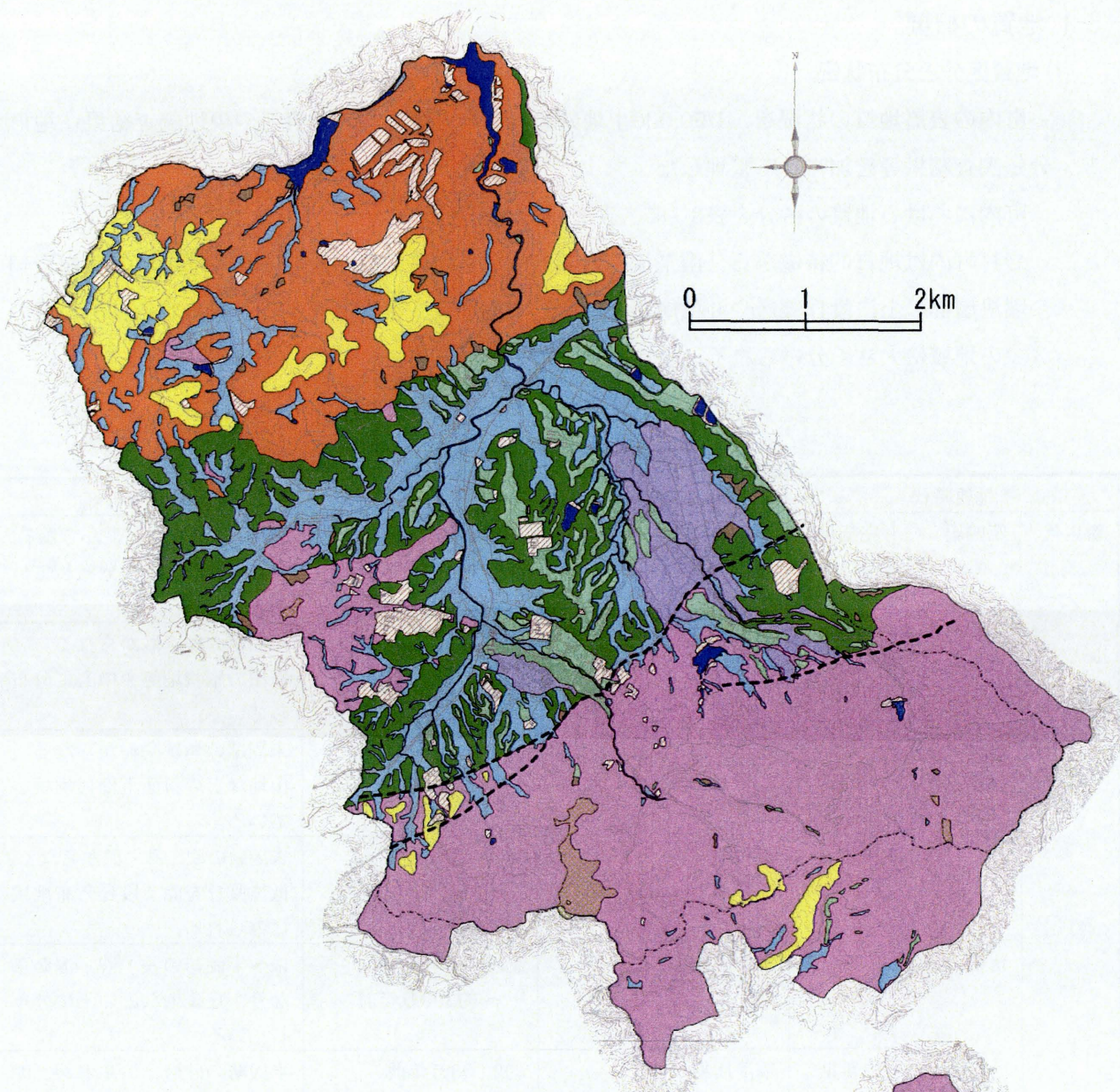
町内の表層地質の状況を、1/50,000土地分類調査をもとに、既存資料や現地調査結果、地形分類調査結果等を加味して整理した。

町内における地質の区分を表3-1に、表層地質図を図3-1に示す。

岩村町内は地質的特徴から、濃飛流紋岩類の上に土岐砂礫層が堆積する北部地域、花崗岩類や瑞浪層群の上に段丘礫層や沖積層が堆積する中部地域、花崗岩類が広く分布する南部地域の3つの地域に大きく分けられる。

表3-1 町内地質区分

| 地質時代 | | | 地層名 | 堆積・貫入年代 | 層相・分布等 |
|------|------|-----|-----------------------|-------------------------|--|
| 新生代 | 第四紀 | 完新世 | 沖積層 | 約1万年前～現在 | 未固結の礫、砂、泥からなる。谷底低地を中心に分布している。 |
| | | | 扇状地性堆積物 | | 未固結の礫、砂からなる。富田の扇状地等を中心に分布している。 |
| | | | 崖錐堆積物 | | 未固結の角礫や泥からなる。山地などの斜面下部に堆積している。 |
| | | 更新世 | 洪積層 (段丘堆積物) | 数10万年前 ～約1万年前 | 未固結の礫・砂・泥からなる。低位段丘を除く段丘分布地域にみられる。 |
| | 新第三紀 | 鮮新世 | 土岐砂礫層 | 約300万年前 ～約200万年前 | 未～半固結の礫・砂・泥からなり、丘陵地などの上に分布している。 |
| | | 中新世 | 瑞浪層群 (岩村層群) | 約2,000万年前 ～約1,600万年前 | 半固結の砂層、シルト層、泥層やそれらの互層からなり、町中部の丘陵に広く分布している。 |
| 中生代 | 白亜紀 | | 花崗岩類 | 約7,700万年前 ～約5,300万年前 | 本来は固結した岩石であるが、風化していることが多い。町内の南部を中心に各地に分布。 |
| | | | 濃飛流紋岩類 (阿木川溶結凝灰岩層) | 約8,500万年前 | 固結した岩石であり、町の北側に広く分布している。 |




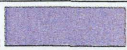


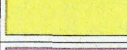




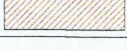

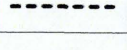
| 凡 例 | | | |
|---|----------|---|----------|
|  | 沖積層 |  | 扇状地性堆積物 |
|  | 崖錐堆積物 |  | 洪積層 |
|  | 土岐砂礫層 |  | 瑞浪層群 |
|  | 花崗岩類 |  | 濃飛流紋岩類 |
|  | 水部 |  | 人工造成土 |
|  | 風化が著しい箇所 |  | 推定される活断層 |

図3-1 表層地質図

(2) 北部地域 —濃飛流紋岩類の上に土岐砂礫層が堆積する地域—

北部地域では、濃飛流紋岩類に属する阿木川溶結凝灰岩層が基盤となっており、その上に土岐砂礫層(およそ300万年前から200万年前にかけて堆積)が載っている。阿木川溶結凝灰岩は、阿木川湖周辺から下切、上切、夕立山周辺の広い地域に分布しており、緻密な硬岩からなる。南西側の分布境界は複雑に入り組んでいて、局所的に花崗岩が貫入したり、瑞浪層群が覆っていると考えられる。土岐砂礫層は阿木川溶結凝灰岩類の上部に堆積しており、地形的には小起伏面と対応すると考えられる。この付近の小起伏面は土岐砂礫層の堆積面の名残りと考えられ、牧場の切土斜面に露出する礫層には比較的細粒のチャート礫が多く含まれ、土岐砂礫層の上部層の特徴を示している(写真3-1)。



写真3-1 牧場の切土斜面に露出する土岐砂礫層

(3) 中部地域 —花崗岩類や瑞浪層群の丘陵や台地に段丘礫層が堆積する地域—

中部地域は、西側を中心に島状に花崗岩類が分布しており、それを瑞浪層群が不整合に覆って分布している。また、それらを削った台地や低地に段丘礫層や沖積層が堆積している。

花崗岩類は武並山周辺を中心に西側の丘陵地に広くみられ、瑞浪層群に囲まれるように島状に分布している。風化が進みマサ化して軟らかくなっている箇所が多く、そのような箇所は造成しやすいことから、工業団地などになっている箇所も多い。

瑞浪層群は島状に分布する花崗岩類を取り囲むように分布しており、西側の丘陵地や東側の段丘崖など町中部の広範囲に確認できる。瑞浪層群は下位の阿木累層と上位の遠山累層に区分されており、町内に広く分布するものは上位の遠山累層で、砂岩やシルト岩、泥岩、およびそれらの互層からなる白色系をなす地層である(写真3-2)。遠山累層には植物化石や貝類の化石、生痕化石などが多くみられ、最近ではヒゲクジラの頭部から胸部にかけての化石が上切付近で発見されている。下位の阿木累層は一色付近の丘陵下部や恵那山断層の南側の隆起地域で確認されており、礫岩や砂岩～シルト岩等からなる。

中部地域には4段の段丘が分布し、高位、上位、下位、低位段丘に区分されている(写真3-3)。このうち高位、上位、下位段丘は更新世(洪積世:およそ1万年前以前)に形成されたと考えられ、低位段丘は段丘の高さなどから推定して完新世(沖積世:およそ1万年前以降)に形成されたと考えられる。これらの段丘の構成層は古い(高い)段丘ほど土岐砂礫層の堆積物(チャート等の古生層の礫や濃飛流紋岩類の礫)が混入しており、新しい(低い)段丘では現在の河床に多い花崗岩類の礫が多くなる。なお、一部には土岐砂礫層と区別のつかない礫層も存在していることから、一部の高位段丘堆積物は侵食されずに残った土岐砂礫層の可能性がある。

中部地域には広い谷底低地や扇状地などがみられ、完新世(沖積世:およそ1万年前以降)に堆積した礫や砂、泥が分布している。下流側の河成堆積物はやや細粒の堆積物が多く、上流側の扇状地堆積物や溪床堆積物は粗粒の砂礫が多い。富田地区の扇状地では上流側の水晶山や三森山が花崗岩類の分布地域であるため、堆積物中の礫の大半が花崗岩の亜角～亜円礫となっている。

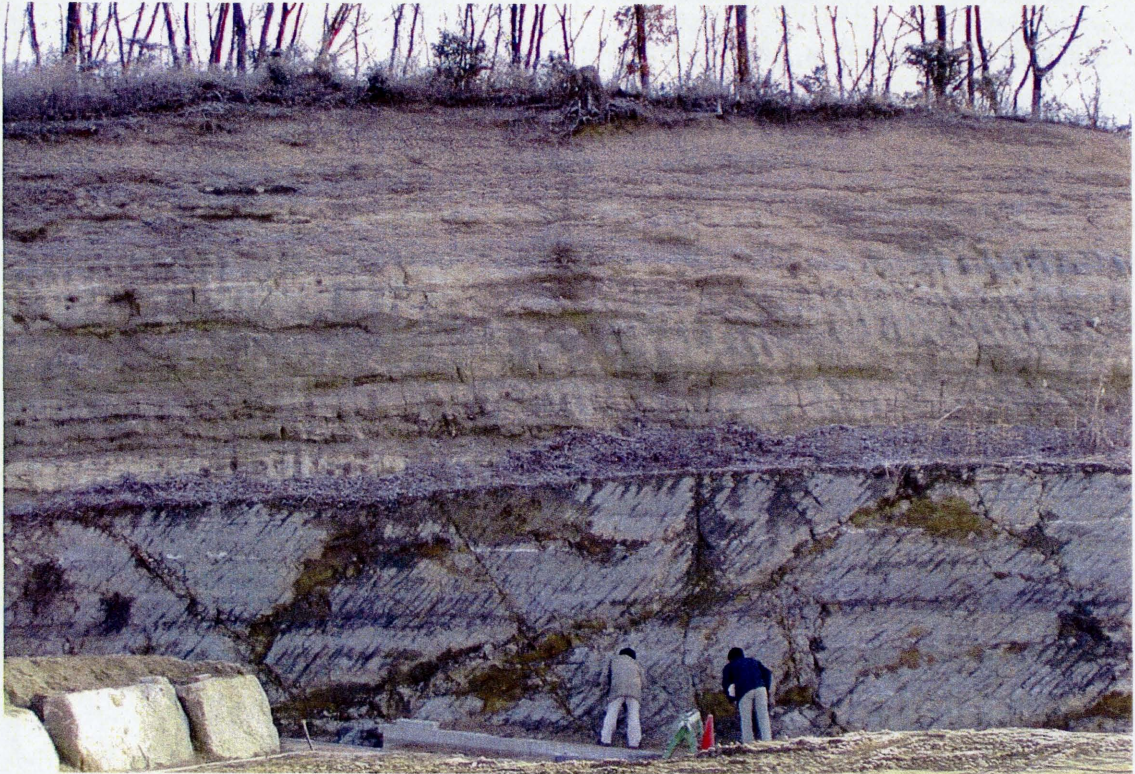


写真3-2 瑞浪層群がみられる造成地の切土斜面 (一色付近)



写真3-3 高位段丘の礫層がみられる切土斜面 (岩邑中学校付近)

(4) 南部地域 —花崗岩類が広く分布する地域—

南部地域には花崗岩類が広く分布しており、急峻な山地となっている。三森山や水晶山付近の山地には粗粒の花崗岩が分布し、城山から天瀑山にかけての山地には中～細粒の花崗岩が分布している。武並山周辺の花崗岩と同様に風化してマサ化している箇所が多く、天瀑山付近の林道支線沿いには厚いマサと風化せずに残ったコアストーンがみられる(写真3-4)。

また、土岐砂礫層と考えられる礫層が緑ヶ丘地区南方の恵南林道沿い分布しており、木ノ実峠付近の崖錐堆積物にも土岐砂礫層起源と考えられる小礫が混入している。このことから、この地域は隆起して現在のような山地になる以前は、砂礫層が堆積する低地であったと考えられる。



写真3-4 花崗岩類の風化が進みマサやコアストーンがみられる天瀑山付近の切土斜面

なお、それぞれの地質ごとの分布や層相、特性などをpp.41～49にまとめた。

| | |
|-------|--|
| 地質名 | 沖積層(河成・溪床堆積物) |
| 年代 | 約1万年前以降～現在 |
| 分布 | 谷底低地や溪流に沿って分布 |
| 層相・岩相 | 未固結の礫、砂、泥からなり、一般的には下流側ほど細粒になる傾向がみられる。沖積層分布域を流下する河川の所々で基盤が露出しており、沖積層の厚さは比較的薄いと考えられる。 |
| 特性 | 低地で水条件がよいところであるため、主に水田として利用されているが、大規模な洪水時には冠水する可能性が高い地域であり、溪流部では土石流の発生も懸念される。一般に沖積層は軟弱地盤として評価されるが、町内の場合、堆積層が薄く、砂礫分が多いため、比較的安定した地盤となっていると考えられる。 |



写真3-5 沖積層の堆積地域(下切の谷底低地)



写真3-6 現在の河床にみられる堆積物

| | |
|-------|--|
| 地質名 | 扇状地性堆積物 |
| 年代 | 約1万年前以降～現在 |
| 分布 | 富田川沿いの扇状地などに広く分布 |
| 層相・岩相 | 未固結の礫、砂、泥からなり、下流側の河成堆積物より粗粒の砂礫が多い。 富田地区では上流側の水晶山や三森山が花崗岩地域であるため、堆積物中の礫の大半が花崗岩類の垂角～垂円礫となっている。 |
| 特性 | 比較的水条件がよいところであるため、主に水田として利用されているが、大規模な洪水時には冠水したり、土砂流出により田畑が埋没する可能性がある地域であり、上流側では土石流の発生も懸念される。砂礫分が多いため、比較的安定した地盤となっていると考えられる。 |



写真3-7 扇状地性堆積物の分布地域(富田の扇状地)

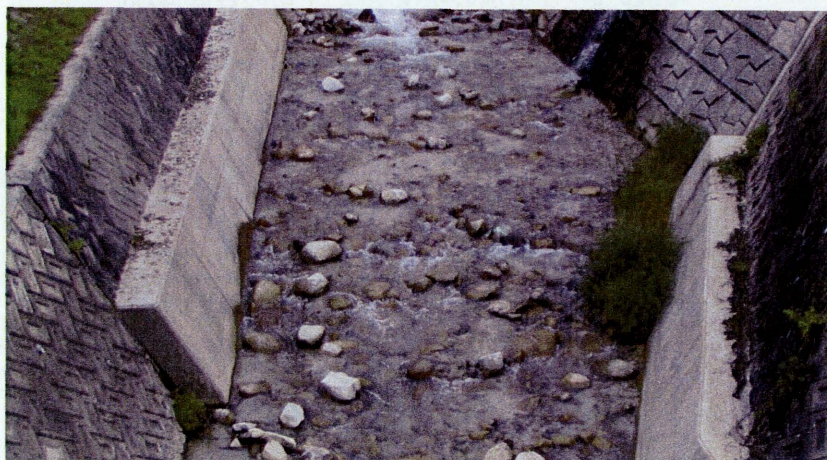


写真3-8 水路の底に見られる扇状地性堆積物

| | |
|-------|---|
| 地質名 | 崖錐堆積物 |
| 年代 | 約1万年前以降～現在 |
| 分布 | 町内の山地や丘陵などの斜面下部に広くみられる。 (表層地質図には崖錐地形が明瞭で比較的規模の大きなもののみ図示した。) |
| 層相・岩相 | 斜面上～中部から崩落した基盤の角礫などからなるが、斜面上部に段丘堆積物などが分布する場合は、亜円礫～円礫が含まれることがある。一般に斜面の下部ほど厚く堆積している。 |
| 特性 | 傾斜地であるため主に林地となっているが、斜面下端部では整地して住宅や田畑として利用している場合もみられる。比較的勾配の緩い斜面であり、手を加えなければ安定しているが、大規模な切土工事により不安定になり、崖崩れや地すべりが発生する可能性がある。 |



写真3-9 林道脇の切土法面にみられる崖錐堆積物

| | |
|-------|---|
| 地質名 | 洪積層（高位・上位・下位段丘構成層） |
| 年代 | およそ数十万年前から約1万年前にかけて堆積 |
| 分布 | 町内の丘陵上部や段丘に広く分布 |
| 層相・岩相 | 未固結の礫、砂、泥からなる。高位及び上位段丘構成層には土岐砂礫層の二次堆積の礫が多く含まれるため、現在の水系の流域内には分布しないチャートや片岩類の礫も多く含まれる。 |
| 特性 | 高位及び上位段丘構成層は高台に分布するため、主に林地や畑地として利用されてきたが、戦後の開拓で水田として利用されるようになった箇所も多い。砂礫が主体になるため一般には水持ちはよくないが、泥層が挟まれている箇所では水田としての利用も可能である。また、礫間の充填物質が砂質で未固結な箇所は、落石等の可能性があり、大規模な切土による造成行為には法面保護に注意が必要である。 |



写真3-10

町北東部の高位段丘にみられる
砂礫層（高位段丘構成層）



写真3-11

岩邑中学校周辺の高位段丘の
段丘構成層

| | |
|-------|---|
| 地質名 | 土岐砂礫層 |
| 年 代 | 約300万年前以降から約200万年前にかけて堆積 |
| 分 布 | 山地や丘陵地、尾根などの頂部に分布している。 |
| 層相・岩相 | 未～半固結の礫・砂・泥からなり、水系が北から南へ流下していた頃の堆積物のため、現在の水系の流域内には分布しないチャートや片岩類の亜角礫～亜円礫が多く含まれており、現在の扇状地性堆積物と比べると花崗岩類の礫は少ない。 |
| 特 性 | 集落から離れた山地や丘陵地などの頂部に分布するため、主に林地として利用されてきたが、町北端部では牧場地として造成されている。 |



写真3-12, 13 東濃共同模範牧場の切土にみられる土岐砂礫層 (左上・右上)



写真3-14, 15 恵南林道脇にみられる土岐砂礫層 (左下, 右下: 花崗岩と接している)

| | |
|-------|--|
| 地質名 | 瑞浪層群 |
| 年代 | 約2,000万年前以降から約1,600万年前にかけて堆積 |
| 分布 | 町内中部の丘陵地に広く分布している。 |
| 層相・岩相 | 上部の遠山累層は凝灰質で無層理の中～細粒砂岩、凝灰質シルト岩・凝灰質シルト岩～泥岩と砂岩の互層等からなり、貝類化石や植物化石などを産する。 下部の阿木累層は細粒の軽石粒を多く含む砂岩～シルト岩や礫岩等からなる。 |
| 特性 | 半固結の堆積物のため、地形改変が容易であり、造成されて宅地や農地になっている箇所がみられる。また、化石が多く産出されており、最近ではヒゲクジラの化石が上切付近で発見されている。 |



写真3-16 瑞浪層群遠山累層



写真3-17 瑞浪層群阿木累層



写真3-18 遠山累層にみられる貝化石



写真3-19 遠山累層にみられる生痕化石

| | |
|-------|--|
| 地質名 | 花崗岩類 |
| 年 代 | 約7,700万年前から約5,300万年前に貫入 |
| 分 布 | 町内の南部の山地や武並山周辺に広く分布するほか、町内の北～中部にかけて局所的に分布している。 |
| 層相・岩相 | 三森山や水晶山付近の山地や武並山周辺には粗粒の伊奈川花崗岩が分布し、城山から天瀑山にかけての山地には中～細粒の苗木花崗岩や武節花崗岩が分布している。 |
| 特 性 | 本来は固結した硬岩であるが、風化してマサになっている場所が多い。マサ化している箇所は地形改変が容易なため、造成地となっていることがあるが、のり勾配が不適切であると、のり面崩壊に至る可能性がある。また、マサの中に風化していない岩塊(コアストーン)が含まれることがあり、切土斜面で抜け落ちて落石となる危険がある。 |



写真3-20 花崗岩類の露頭



写真3-21

マサの切土斜面、コアストーンがみられる



写真3-22 花崗岩類(恵南林道：天瀑山付近)

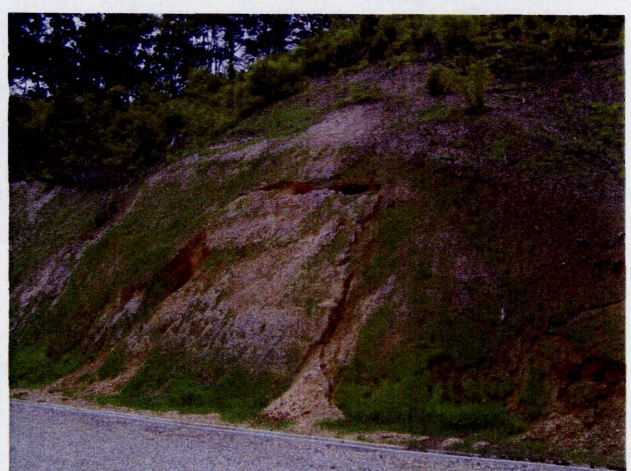


写真3-23崩れかけている風化花崗岩の切土斜面

| | |
|-------|--|
| 地質名 | 濃飛流紋岩類(阿木川溶結凝灰岩層) |
| 年代 | 約8,500万年前に堆積 |
| 分布 | 阿木川湖周辺から夕立山にかけての地域に広く分布している。 |
| 層相・岩相 | 固結した岩石であり、結晶が径2~3mmの有色鉱物が多い流紋岩~流紋デイサイト質の溶結凝灰岩からなる。 |
| 特性 | 固結した硬岩であり、風化部は薄く、硬岩が露出している箇所が多い。特に、下切から阿木川湖にかけての岩村川沿いには、阿木川溶結凝灰岩が連続して露出しており、渓谷的な景観をなしている。硬い地質のため、急斜面を形成することが多く、落石等に対して注意する必要がある。 |



写真3-24, 25 岩村川沿いにみられる濃飛流紋岩類(左上、右上ともに阿木川溶結凝灰岩)



写真3-26

阿木川溶結凝灰岩

| | |
|-------|--|
| 地質名 | 人工造成土 |
| 年 代 | 現在 |
| 分 布 | 町内各地(特に瑞浪層群や風化した花崗岩類の分布地域) |
| 層相・岩相 | 主に造成した際の切土斜面から発生した土砂を用いていると思われる。 |
| 特 性 | 排水工の配置や盛土ののり法勾配を適切に施工しないと、のり面の崩壊等の災害につながる可能性がある。 |



写真3-27 町内の造成地

(5) 地質構造及び地史

山下ほか編(1988)や氏原ほか(1992)などの既存資料の記載内容から岩村町内の地質構造及び地史を整理し、概略図にして図3-2に示す。

1) 町内の地質構造の概要

岩村町を南北方向の断面でみると、花崗岩類が広く基盤として分布しており、町北部には花崗岩類に貫入された古い濃飛流紋岩類が侵食を免れて分布しており、それを覆って土岐砂礫層等が堆積している。町の中中部には侵食された花崗岩類を覆って瑞浪層群が堆積しており、瑞浪層群も侵食されて丘陵や台地になっている。丘陵地や台地には段丘礫層などがみられ、丘陵や台地に囲まれた谷底には沖積層が堆積している。南部の山地の山麓部には恵那山断層があって花崗岩類からなる町南部の山地を隆起させている。また、南部の山地には局所的に土岐砂礫層等の堆積物がみられる。

2) 町内の地史の概要

岩村町内で最も古い時期に堆積した地層は町北部に広く分布する濃飛流紋岩類で、およそ8,500万年前に堆積したと考えられており、その後、約7,700万年前から約5,300万年前頃にかけて花崗岩類が貫入したと考えられている。

約2,000万年前頃までには、濃飛流紋岩類と花崗岩類は侵食を受けて凹凸がある地形を形成していたと考えられ、瑞浪層群が堆積する約2,000万年前～約1,600万年前頃には、花崗岩類からなる小島が点在する湖や内湾の浅い海になり、湖成層や内湾性の堆積物が堆積したと考えられている。このため、この時期の地層から貝などの化石が多く産する。

約300万年前～約200万年前にかけては、北から南へ流れる水系によって、土岐砂礫層が堆積したと考えられ、土岐砂礫層にはチャートなどの現在の水系の流域内では産しない礫を含む。その後、土岐砂礫層やその他の地層を侵食して丘陵や台地が形成されて、段丘礫層が堆積した。

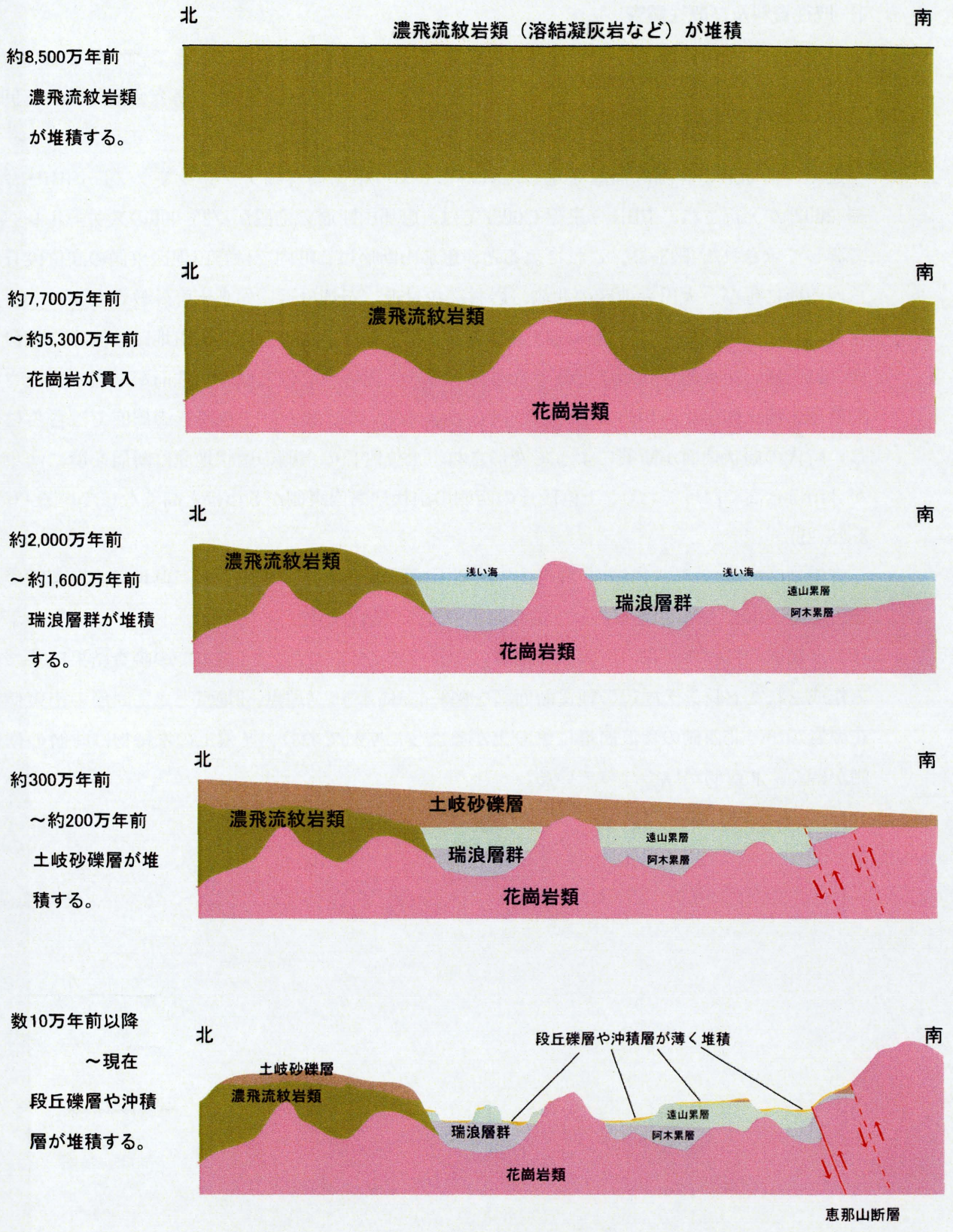


図3-2 概略地質構造及び地史図 (既存文献より整理して作成)

3-2 特筆すべき現象等

(1) 恵那山断層

1) 既往資料及び既往調査

町南部の山地の山麓部に活断層が存在することは有井(1958)の論文などで古くから知られており、全国の活断層を1/20万地形図に示した「日本の活断層」(活断層研究会編, 1980・1991)においても町南部の山麓部に活断層が図示されている。

近年、活断層の詳細な位置を示した資料として「活断層詳細デジタルマップ」(中田・今泉編, 2002)が発行され、中田・今泉編(2002)では、恵那山断層の位置が1/25,000のスケールレベルで詳しく示された(図3-3)。これによると、恵那山断層は、町内では富田地区東側の高位段丘から西南西に延び、大円寺地区の北側、岩村高校付近、石畑付近、知多市野外教育センター付近をとおり、山岡町の水口付近へ抜けているとされている。このうち、富田地区東側の高位段丘面では断層の南東側が10mほど高くなっており、大円寺の北側では扇状地面が断層で変位されて断層の南東側が比高10mほどの上位段丘となっている。また、上位段丘の周囲ではさらに新しい時代の扇状地面が断層によって変形され、上位段丘の東側の扇状地面は断層を境に南東側が3mほど高くなっており、上位段丘の西側の扇状地も南東側が5mほど高くなっている(写真3-28, 29)。

富田地区では、「平成13年度 屏風山・恵那山断層帯に関する調査」(岐阜県地域県民部防災危機管理室, 2002)においてトレンチ調査やボーリング調査が行われている。トレンチ調査やボーリング調査の投影断面線の位置(A, B地点)を図3-3に示す。また、A, B地点での調査結果に基づいて作成されたトレンチ周辺の地質断面図を図3-4, 5に示す。A地点、B地点ともに断層の南東側の花崗岩類が、北西側の瑞浪層群に乗り上がるようにずれており、基盤上の堆積物は断層の南東側が薄く、北西側が厚くなっている。

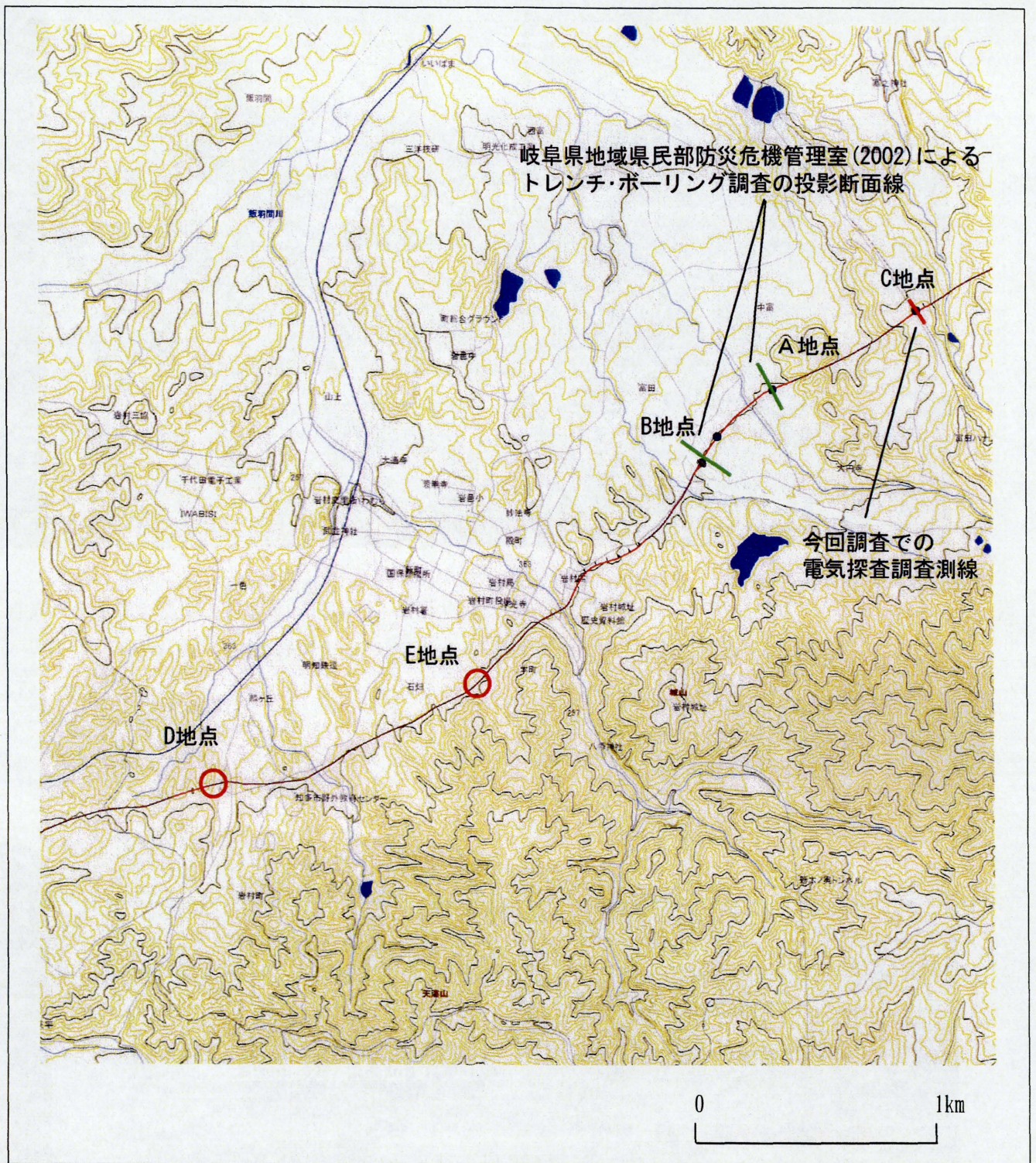


図3-3 中田・今泉編(2002)による恵那山断層の位置

中田・今泉編(2002)に測線位置等を追記



赤線：変位した扇状地面（上流側）、赤破線：断層のおよその位置

写真3-28 断層により変位（南東側隆起）した扇状地（大円寺の段丘2の東側）



赤線：変位した扇状地面（上流側）、赤破線：断層のおよその位置

写真3-29 断層運動により変位（南東側隆起）した扇状地（大円寺の段丘2の西側）

北西

南東

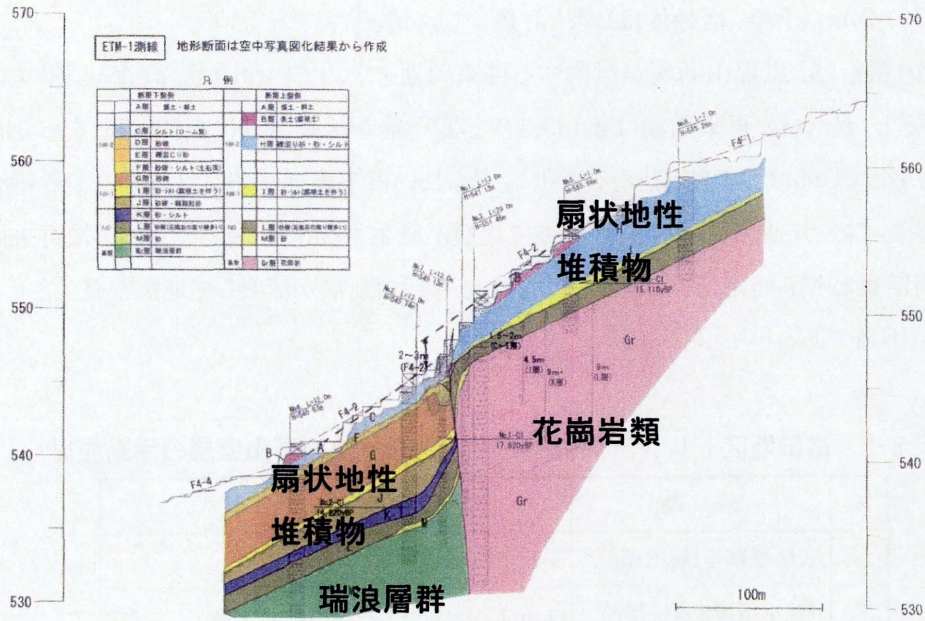


図3-4 A地点の地質断面図(岐阜県地域県民部防災危機管理室(2002)に地質区分を追記)

北西

南東

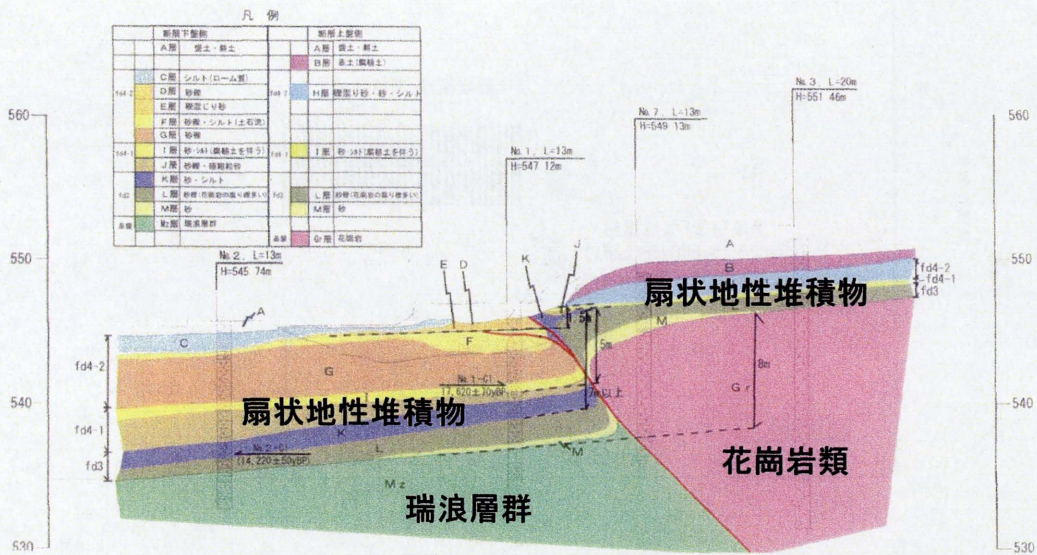


図3-5 B地点の地質断面図(岐阜県地域県民部防災危機管理室(2002)に地質区分を追記)

富田地区(図 3-3 の B 地点)でのトレンチ調査の結果から、断層を挟んだ地層の厚さの違いや堆積物の年代によって恵那山断層の活動履歴を読みとり、約3万年前以降、少なくとも4回以上の活動があったと判断している(表 3-2, 図 3-6)。最新活動時期は 6,590yBP~2,250 yBP で、恵那山断層の平均変位速度は約0.33m/千年、活動度はB級と評価している。

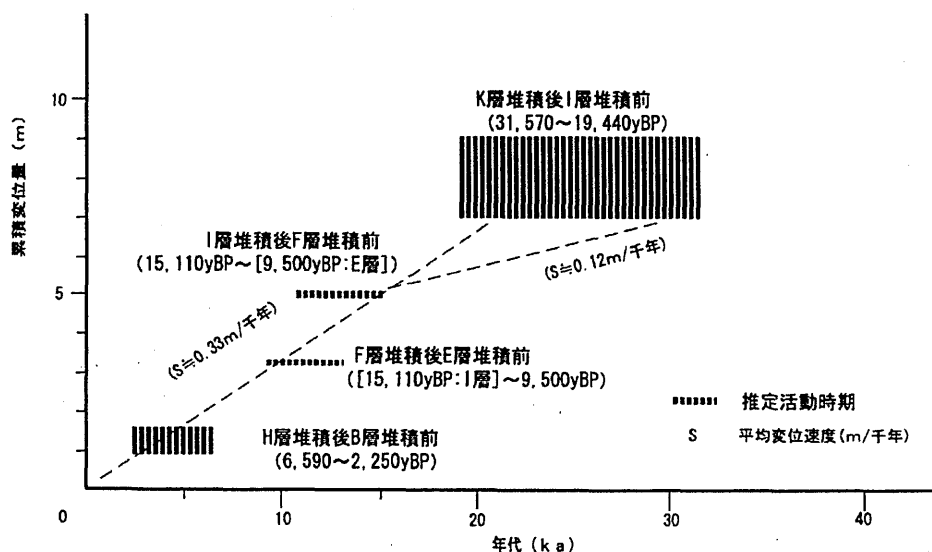
なお、この報告は、恵那山断層が活動する再来周期を求めているが、調査結果からおよその周期を算定すると、最も短い再来周期は 4,183.3 年となり、最新活動時期に 6,590yBP をあてはめると、既に地震が発生しているはずの時期となる。逆に、最も長い再来周期は 9,773.3 年で、最新活動時期に 2,250 yBP をあてはめると、およそ7,500 年後に地震が発生する計算となる。このように再来周期の幅が大きく、最新活動時期も断定できないことから、次に恵那山断層が活動して地震を発生させる時期を予測することは困難であると考えられる。

表 3-2 富田地区トレンチ調査から読みとられた恵那山断層の活動履歴

| No. | 時期 | 年代 |
|-----|------------|---------------------------|
| 1 | K層堆積後I層堆積前 | 31, 570yBP~19, 440yBP |
| 2 | I層堆積後F層堆積前 | 15, 110yBP~〔9, 500yBP:E層〕 |
| 3 | F層堆積後E層堆積前 | 〔15, 110yBP:I層〕~9, 500yBP |
| 4 | H層堆積後B層堆積前 | 6, 590yBP~2, 250yBP |

yBP:放射性炭素による年代測定値を示す。1950年から起算する。

岐阜県地域県民部防災危機管理室(2002)より



岐阜県地域県民部防災危機管理室(2002)より

図 3-6 恵那山断層富田地区トレンチ調査での推定活動時期及び平均変位速度

2) 現地調査

活断層と考えられるリニアメントに沿って踏査し、活断層に関する現象を確認した。

知多市野外教育センター西方の断層線上にあたる位置(図3-3のD地点)で花崗岩と礫層(瑞浪層群下部の礫層または土岐砂礫層)の境界が確認できる露頭がみられた(写真3-30)。この露頭は露出している部分が少なく、変位基準になるものがないため、活断層の露頭であると断定はできないが、境界部の花崗岩が変質している点や礫層の層理面が地質境界部で引きずられるように変位していることから、この地質境界は活断層である可能性が高い。

また、同様な露頭は石畑(図3-3のE地点, 写真3-31)でもみられたが、こちらはさらに不明瞭である。



赤破線：断層が推定される位置

写真3-30 知多市野外教育センター西方(D地点)の露頭



赤破線：断層が推定される位置

写真3-31 石畑(E地点)の不明瞭な地質境界の露頭

また図3-3のC地点において断層を横断する測線を設定して電気探査を行った。

断層を横断する地下の電気伝導度 (電気抵抗) の分布断面図を図3-7に示す。断層が位置すると推定される崖下部分に、電気伝導度が高い (電気抵抗の低い) 部分が確認され、断層面の存在が示唆された。

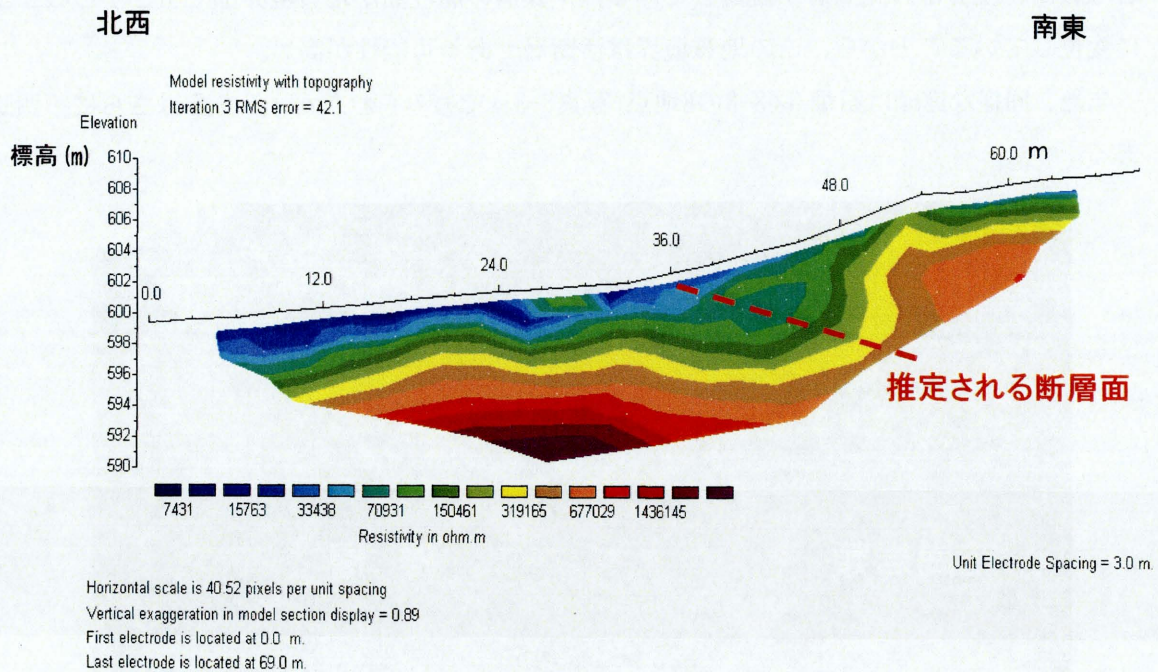


図3-7 C地点の電気探査断面図 (今回調査)

なお、活断層研究会編 (1980・1990) に示された恵那山断層は、中田・今泉編 (2002) に示された活断層と一部異なり、町の東西 (富田及び一色付近) でより南寄りに記されている。前述の地形分類調査でも両者にリニアメントが確認された (地形分類図: 前出図2-4) ため、表層地質図 (前出図3-1) には分岐したような形で「推定される活断層」を記した。

(2) 花崗岩の風化

町中部～南部にかけて広く分布する花崗岩類は風化しやすい岩石とされ、風化が進行して砂状・軟質になったものはマサと呼ばれており、土木工学的特性や防災上の観点から注目されることが多い。花崗岩が風化してマサになるまでの風化段階の区分としては、木宮(1975)の区分があり、新鮮で風化作用を全く受けていないものから、草や根が密集している「土壌」の段階までの7段階に区分している。その後、木宮(1981)は、上記区分の「土壌」段階を除いた6段階を「花崗岩」、「風化花崗岩」、「マサ」3段階に統合し、三河高原において現地調査により風化殻分布図を作成した。この風化殻分布図によると三河高原地域では、新鮮な「花崗岩」が地表に露出しているのは矢作川等の大河川やその支流の谷沿いのみで、その他の広い範囲は「風化花崗岩」や「マサ」が地表に露出しており、「風化花崗岩」は小起伏面の境界線沿いに分布する傾向があるとしている。

岩村町内に分布する花崗岩類に木宮(1981)の区分を大まかにあてはめると、岩村川上流部などの谷壁斜面下部は「花崗岩」や「風化花崗岩」にあたり、丘陵地や天瀑山付近の小起伏面などは「マサ」や「風化花崗岩」にあたる(写真3-32)。丘陵地に分布する「風化花崗岩」や「マサ」は人工的な改変が容易であり、工業団地や住宅地などとして造成されているが、造成した際の法勾配が適切でないと法面崩壊などの危険があり、コアストーンを含むマサの斜面の場合は落石が発生する危険性がある(写真3-21,23参照)。

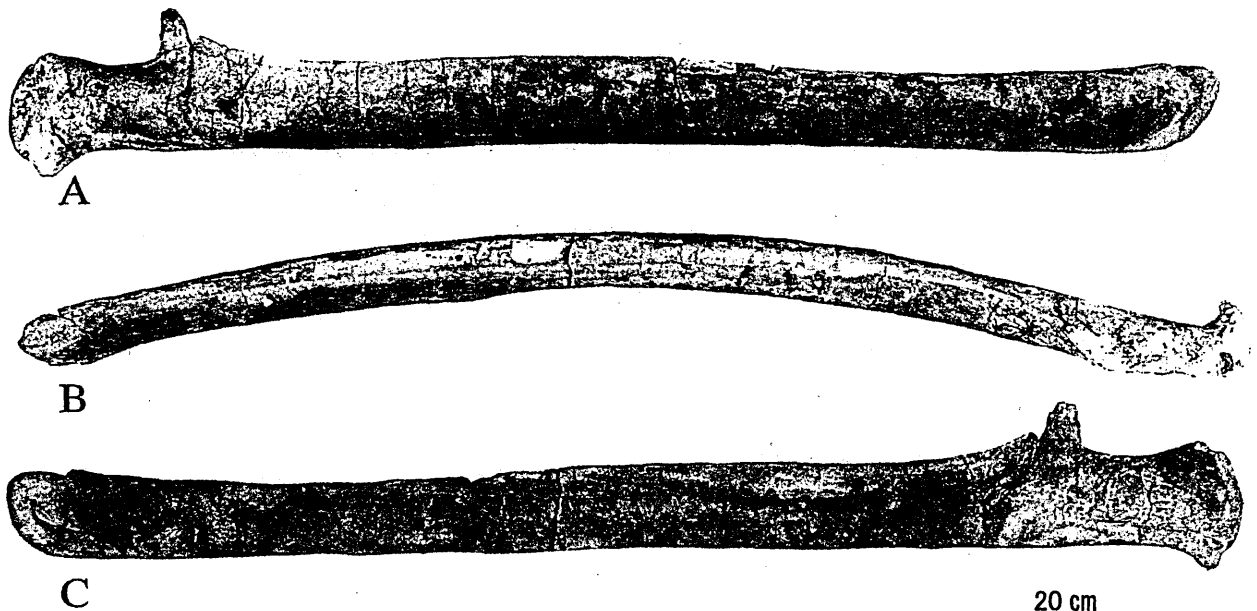


写真3-32 丘陵地(一色付近)の風化が進行した花崗岩類

(3) 瑞浪層群から産出される化石

町内に分布する瑞浪層群では多くの化石が産出され、1991年(平成3年)には飯羽間の永洞において、農道の切り割りの露頭からヒゲクジラ類の頭部から胸部にかけての化石(写真3-33,下顎骨)が発見されている(木村ほか,2000)。この他にも植物化石(写真3-34)や貝類の化石(写真3-35)、生痕化石(サンドパイプ,写真3-19参照)は町内の瑞浪層群に普通にみられ、特に上切付近の地層には多くみられる。

氏原ほか(1992)によると、瑞浪層群の中～上部を中心にオキシジミやナカムラスダレハマグリ、アツガキ、イガイ、ソデガイの仲間などの汽水～浅海性の貝類が産出されており、最上部の両伝寺部層では深海性貝類の化石を産するとされている。また、植物化石としては下部の阿木累層からマンサク科フウ属の仲間(*liquidambar miosinica*)などの化石やイネ科植物の花粉化石が産出されている。これらのことから、瑞浪層群が堆積した約2,000万年以前以降から約1,600万年前にかけての時期には、岩村盆地周辺は淡水の細長い湖から徐々に汽水湖、浅海となり、最終的には水深200m～400mの深海になったと考えられる。また、気候的には年平均気温13～15℃ぐらいで、現在とほぼ同じか若干暖かな環境だったと考えられている。



A : 外側 B : 背側 C : 内側

写真3-33 飯羽間の永洞で発掘されたヒゲクジラ類の顎骨化石

木村ほか(2000)より引用



写真3-34 木の幹の化石 (一色付近, 今回調査にて採取)



写真3-35 二枚貝の化石 (上切付近, 今回調査にて採取)

【写真撮影位置】

本章で用いた写真の撮影位置を図3-8に整理して示す。

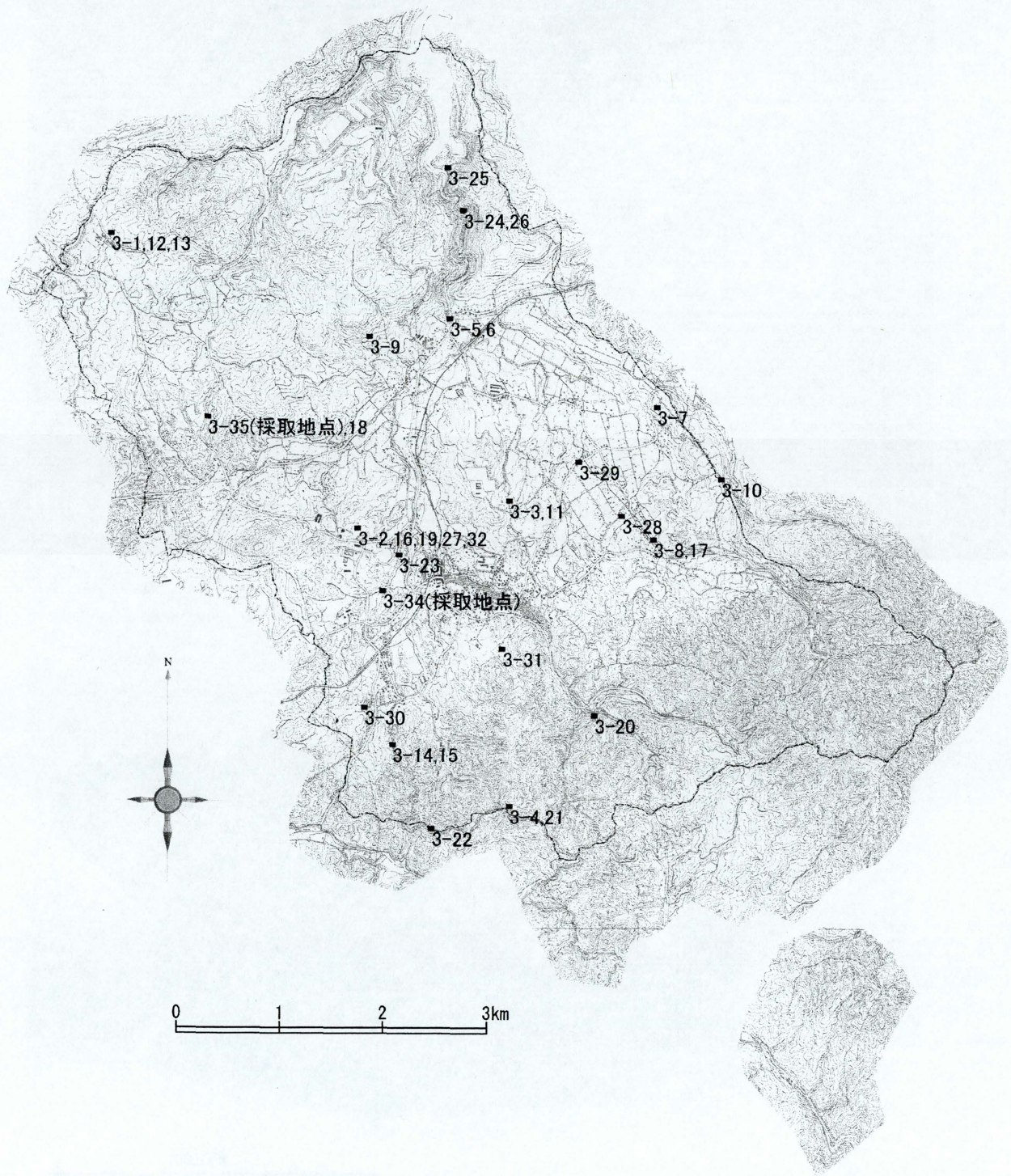


図3-8 写真撮影地点位置図(表層地質)

4. 土壤調査

4. 土壌調査

4-1 調査概要

土地分類基本調査(岐阜県,1989)により、すでに中縮尺で土壌分類が整理されている。また、農地については、「水田及び畑地土壌生産性分級図」(岐阜県農業試験場,1969)によっても把握されている。ただし町での利用を考えると、図の参照や土地利用等との比較を考えた場合、より詳細な(1/10,000程度の)スケールでの土壌図が必要であると考えられる。また土地改良等による変化も加味することが望ましいと考え、現地調査を加えた。

現地調査は、国有林を除く町全域の農地、林地より、地形・地質等の違いを考慮して58地点(農地31地点、林地27地点、図4-1)を抽出し、土壌断面調査を実施した。調査は、掘削困難あるいは稠密な層位に達するか、土壌の状態をほぼ把握できたと考えられる深さまで試掘を行い、必要に応じて深部を検土杖により確認した。

これらの結果を総合的に検討し、土地分類基本調査数値化の分類項目(経済企画庁国土調査課(1970)の基準を細区分している)の"統群 I"レベルでの分類を行い、土地分類基本調査及び地力保全基礎調査との比較を検討しつつ、土壌分類ごとの土地利用上の留意点について考えた。また統一的な分類である日本ペドロロジー学会第四次土壌分類・命名委員会(2003)との対比についても併記した。

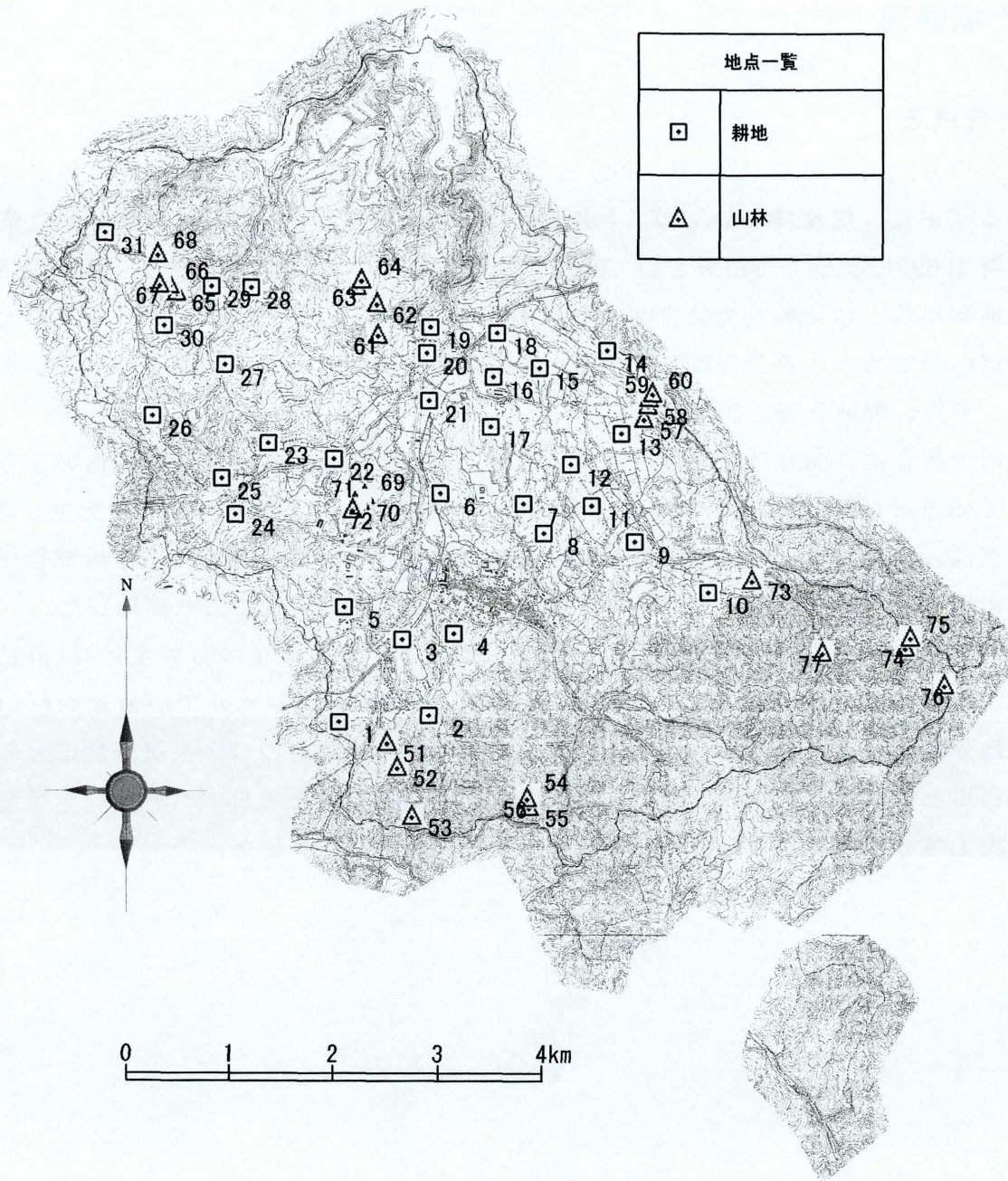


図4-1 土壤調査実施地点

4-2 土地分類基本調査の土壌区分

土地分類基本調査では、町内の土壌について、表4-1のように区分している。

分類はまず林地、農地に分けている。林地では土壌の性質による分類を行い、加えて母材等によって区分し、統名で整理している。農地では土壌の性質による分類により整理している。

表4-1 土地分類基本調査における土壌区分

| 土壌分類 | | 対応する土壌統など | | | |
|-------------|-----|-------------------------|--------|------|------|
| 黒ボク土 | | (林地) 木ノ実統 (農地) 黒ボク土壌 | | | |
| 褐色森林土 | 母材 | 花崗岩 | 濃飛流紋岩類 | 瑞浪層群 | 未固結岩 |
| 乾性褐色森林土壌 | 大起伏 | 高戸山1統 | — | — | — |
| | 小起伏 | 高根権現1統 | 丸池1統 | 明世統 | 柿野統 |
| 褐色森林土壌 | 大起伏 | 高戸山2統 | — | — | — |
| | 小起伏 | 高根権現2統 | 丸池2統 | 酒井統 | 塩川統 |
| 乾性赤褐系褐色森林土壌 | | — | 久須見統 | — | 大藪統 |
| 黄色土 | | (農地) 黄色土壌 | | | |
| 褐色低地土 | | — | | | |
| 灰色低地土 | | 細粒灰色低地土壌 粗粒灰色低地土壌 | | | |
| グライ土 | | 細粒グライ土壌 グライ土壌 | | | |

4-3 現地調査による分類

(1) 分類の概要

今回の調査を踏まえて、町内に分布する土壌を把握し、従来の調査結果との比較を行いながら分類の再編成を行った。その結果を表4-2に示す。

これに基づいて土壌図を図4-2のように作成するとともに、おもな土壌群ごとの概要について以下に記し、個々の土壌分類の特性についてpp.72～82に整理した。

表4-2 岩村町の土壌分類案

| 土壌群 | 亜群 | 分類(統群Ⅰ) | 包含する統群Ⅱ | 統一分類第二次案で およそ対応する亜群 |
|-------|---------|---------------|------------------------|------------------------|
| 未熟土 | 人工未熟土 | 台地人工未熟土壌 | | 典型固結岩屑土 |
| 黒ボク土 | 黒ボク土 | 厚層黒ボク土壌 | 多腐植質 | 厚層多腐植質アロフェン黒ぼく土 |
| | | 淡色黒ボク土壌 | | 淡色アロフェン黒ぼく土 |
| 褐色森林土 | 乾性褐色森林土 | 乾性褐色森林土壌 | 火成岩起源 堆積岩起源 | 典型風化変質赤黄色土 典型黄褐色森林土 |
| | | 乾性褐色森林土壌(赤褐色) | 堆積岩起源 | 典型風化変質赤黄色土 |
| | 褐色森林土 | 褐色森林土壌 | 火成岩起源 堆積岩起源 | 典型黄褐色森林土 |
| | 湿性褐色森林土 | 湿性褐色森林土壌 | 火成岩起源 堆積岩起源 | 典型黄褐色森林土 |
| 赤黄色土 | 黄色土 | 乾性黄色土壌 | | 典型風化変質赤黄色土 |
| | | 黄色土壌(農地) | | 典型風化変質赤黄色土 |
| 褐色低地土 | 褐色低地土 | 褐色低地土壌 | 細粒質(斑紋なし) 細粒質(斑紋あり) | 典型褐色沖積土 |
| 灰色低地土 | 灰色低地土 | 細粒灰色低地土 | 灰色系 灰褐色系 | 典型灰色沖積土 |
| | | 粗粒灰色低地土壌 | | 典型灰色沖積土 |
| グライ土 | グライ土 | 細粒グライ土壌 | 強グライ質 弱グライ質 | 典型グライ沖積土 |

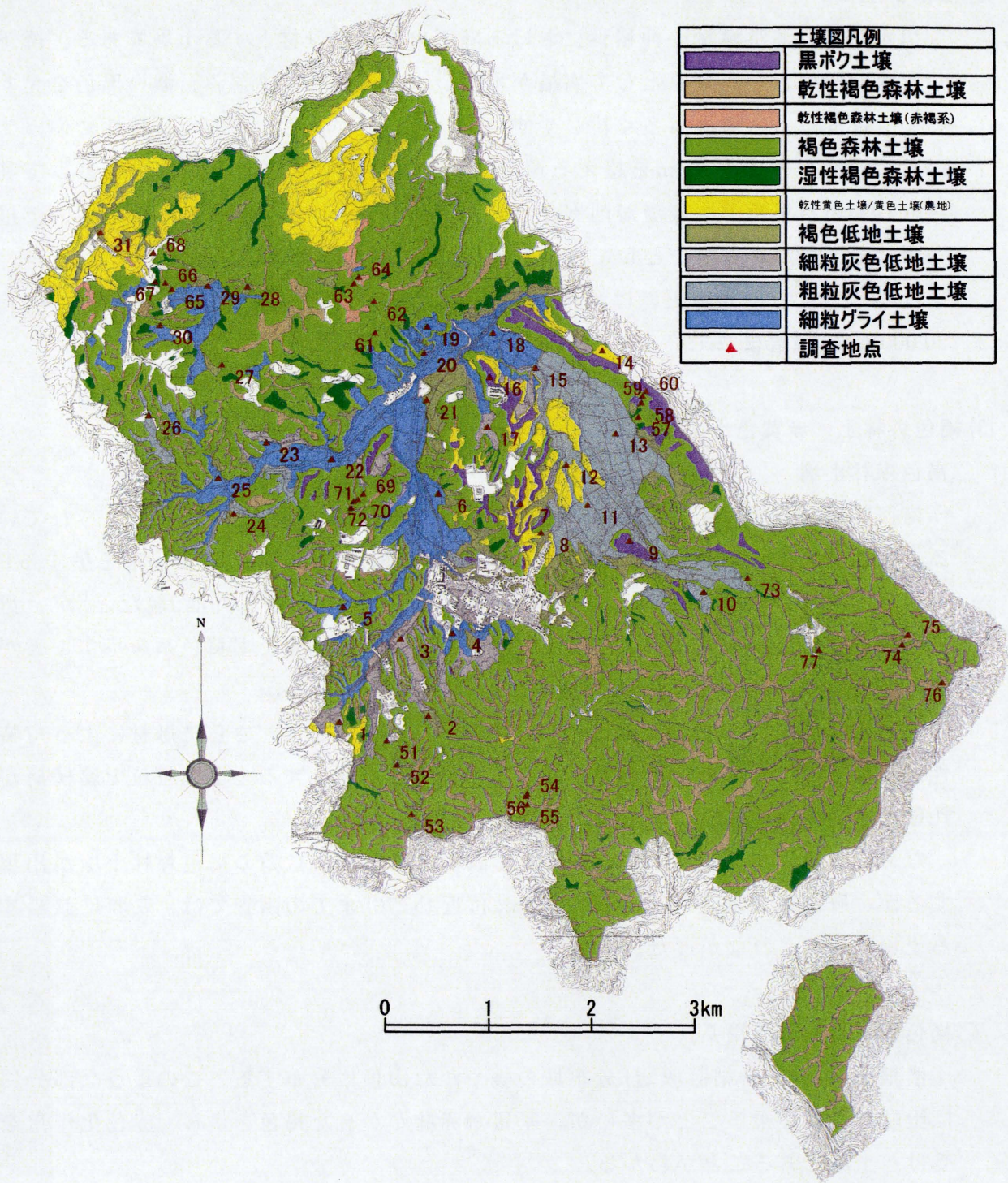


図4-2 土壤図

図中の数字は調査地点番号

(2) 黒ボク土

黒ボク土は、洪積世～沖積世における降下火山灰を母材とする土壌である。降下した火山灰の台地が草原として腐植が堆積し、有機物を多く含み、濃い黒色を呈するようになった。腐植も多く耕しやすいが、リン酸が欠乏しやすく、酸性に偏っている。腐植の厚さが50cmを超える厚層黒ボク土壌に分類されるが、農地として利用されている場所では表層が削剥され、淡色黒ボク土壌に分類された。土壌図では一括して「黒ボク土壌」として表示した。

なお、これらの火山灰には始良AT火山灰(約27,000年前)や大山ホーキ火山灰(約20,000年前)が含まれているようである。

(3) 褐色森林土・赤黄色土系の土壌

○褐色森林土壌

南西諸島などを除く、日本全域の典型的な山林土壌は褐色森林土と考えられている。土地分類基本調査(恵那図幅)でも個別の土壌柱状図をみると黄褐色系を呈するB層をもつものがある(高戸山1、2統、高根権現1統、柿野統、丸池2統など)が、母材などに起因した色調と考えられる。これに準じ、本調査でも黄色系を呈すことがあっても褐色森林土壌と区分した。

褐色森林土壌は、乾性、適潤性、湿性の3つに細分した。さらに母材によって特性が異なり、とくに町の南部を構成する花崗岩を母材とする土壌は粗粒で腐植層が比較的薄い傾向にある。

なお、中津川市の標高1400mを超える高標高地では暗色系の褐色森林土壌が出現するが、町内最高地点(三森山頂1100m)付近(No.76)までの調査では、これに該当する土壌は確認されなかった。

○褐色森林土壌(赤褐色系)

濃飛流紋岩類(溶結凝灰岩)分布域の緩やかな山頂に分布する。このような部分には土岐砂礫層が乗ることが多いが、基質が赤味がかった褐色を呈し、赤色化作用を受けた土壌であることがわかる。

○黄色土壌

土地分類基本調査では農地にのみ記述があったが、農地以外にも、山地頂部の緩斜面などに分布する。本調査では土地分類調査の分類基準により林地のものを「乾性黄色土壌」、農地のものを「黄色土壌(農地)」と分けたが、耕作による腐植の進行以外には違いはないと考えられる。土壌図では一括して表示した。

(4) 沖積土

○褐色低地土壌

沖積地のへり、台地部等にみられるが、分布は狭い。そのため土地分類基本調査では記載されていない。

○灰色低地土壌

細粒質と粗粒質に分かれ、細粒質はおもに一色川、飯羽間川流域などを中心としており、瑞浪層群、濃飛流紋岩類分布域と近い分布を示す。粗粒質はマサを含み、富田方面を中心としており、上流に花崗岩が分布する地域に出現する傾向がある。

○グライ土壌

湛水によりグライ化(鉄が還元して青～灰色となる)が進行した"グライ層"が浅い部分(深さ50cm以内)に出現する土壌。なかでもかなり浅い部分(作土層や作土直下、深さ30cm以内)に出現する、強グライ質の土壌が多くみられた。嫌氣的状態にあり、水田としても根が伸びないため、通常排水改良などが望まれる。町の北西部、飯羽間川流域や上平を中心に出現する。

表3-3 調査地点ごとの土壌分類一覧表(1/2)

| 群 | 亜群 | 分類(統群I) | 統群II(特徴的な分類) | 分類番号 | No. | 地点名 | 断面からの分類(変えたもの) | 利用 | 代表 | 統一分類(キーマント) | 統一分類(中心概念) | 基本調査の種類 | | |
|---------|---------|---------------|--------------|------------|-----|----------|----------------|-----|----------|-----------------|------------|---|--|-----------------------------|
| 黒ボク土 | 黒ボク土 | 1 黒ボク土壌 | | 04-01-02 | 9 | 上野山 | | 農 | ◎ | 厚層多腐植質アロフエン黒ぼく土 | | 黒ボク土壌 (林地:木ノ実統) | | |
| | | 黒ボク土壌 | | 04-01-02 | 59 | 木曾洞 | 厚層黒ボク土壌 | 山 | ○ | 厚層多腐植質アロフエン黒ぼく土 | | | | |
| | | 黒ボク土壌 | | 04-01-02 | 16 | 下本郷 | 淡色黒ボク土壌 | 農 | □ | 淡色アロフエン黒ぼく土 | | | | |
| 褐色森林土 | 乾性褐色森林土 | 2 乾性褐色森林土壌 | | 03-05-01 | 53 | 高松 | | 山 | ○ | 典型非固結岩屑土 | | 乾性褐色森林土壌 (高戸山1、2統、柳野統、 高根権頭1統:花崗岩系母材) | | |
| | | 乾性褐色森林土壌 | | 03-05-01 | 54 | 高松 | | 山 | ○ | 典型非固結岩屑土 | | | | |
| | | 乾性褐色森林土壌 | | 03-05-01 | 72 | 上根 | | 山 | ○ | 典型非固結岩屑土 | | | | |
| | | 乾性褐色森林土壌 | | 05-01-02 | 63 | 大平 | | 山 | ◎ | 典型風化変質赤黄色土 | | 乾性褐色森林土壌 (丸池統、明世統) | | |
| | | 乾性褐色森林土壌 | | 05-01-02 | 71 | 上根 | | 山 | ○ | 典型黄褐色森林土 | | | | |
| | | 乾性褐色森林土壌 | | 05-01-02 | 74 | 筒ヶ根 | | 山 | ○ | 典型黄褐色森林土 | | | | |
| | | 乾性褐色森林土壌 | | 05-01-02 | 75 | 三森神社 | | 山 | ○ | 典型黄褐色森林土 | | | | |
| | | 乾性褐色森林土壌 | | 05-01-02 | 76 | 三森山 | | 山 | □ | 典型黄褐色森林土 | | | | |
| | | 乾性褐色森林土壌 | | 05-01-02 | 77 | 三森夕ム | | 山 | ○ | 典型黄褐色森林土 | | | | |
| | | 乾性褐色森林土壌(赤褐系) | | 05-01-03 | 64 | 大平 | | 山 | ◎ | 典型風化変質赤黄色土 | | 乾性赤褐色系褐色森林土壌(大森統) | | |
| | | 褐色森林土 | 褐色森林土 | 4 褐色森林土壌 | | 05-02-02 | 8 | 東分根 | | 農 | 一 | 典型黄褐色森林土 | | 褐色森林土壌 (丸池2統、酒井統、高根権頭2統) |
| | | | | 褐色森林土壌 | | 05-02-02 | 27 | 小沢山 | 褐色森林土壌 | 農 | 一 | 典型普通褐色森林土 | | |
| | | | | 褐色森林土壌 | | 05-02-02 | 51 | 高松 | | 山 | ○ | 典型黄褐色森林土 | | |
| 褐色森林土壌 | | | | 05-02-02 | 52 | 高松 | | 山 | ○ | 典型黄褐色森林土 | | | | |
| 褐色森林土壌 | | | | 05-02-02 | 55 | 高松 | | 山 | ○ | 典型黄褐色森林土 | | | | |
| 褐色森林土壌 | | | | 03-05-01 | 56 | 高松 | | 山 | ◎ | 典型非固結岩屑土 | | | | |
| 褐色森林土壌 | | | | 05-02-02 | 58 | 木曾洞 | | 山 | ○ | 典型黄褐色森林土 | | 高根権頭1統) | | |
| 褐色森林土壌 | | | | 05-02-02 | 62 | 大平 | | 山 | ◎ | 典型黄褐色森林土 | | | | |
| 褐色森林土壌 | | | | 05-02-02 | 66 | 小沢山 | | 山 | ○ | 典型黄褐色森林土 | | | | |
| 褐色森林土壌 | | | | 05-02-02 | 69 | 上葉種 | | 山 | ○ | 典型黄褐色森林土 | | | | |
| 褐色森林土壌 | | | | 05-02-02 | 70 | 上根 | | 山 | ○ | 典型黄褐色森林土 | | | | |
| 褐色森林土壌 | | | | 05-02-02 | 73 | 下り松 | | 山 | 一 | 典型褐色沖積土 | | | | |
| 湿性褐色森林土 | 湿性褐色森林土 | | | 5 湿性褐色森林土壌 | | 05-03-02 | 57 | 打植 | 湿性褐色森林土壌 | 山 | 一 | 典型普通褐色森林土 | | |
| | | 湿性褐色森林土壌 | | 05-03-02 | 61 | 中根 | | 山 | 一 | 典型風化変質赤黄色土 | | | | |
| | | 湿性褐色森林土壌 | | 05-03-02 | 65 | 小沢山 | | 山 | ○ | 典型黄褐色森林土 | | | | |
| | | 湿性褐色森林土壌 | | 05-03-02 | 67 | 小沢山 | | 山 | ◎ | 典型黄褐色森林土 | | | | |
| 赤黄色土 | 黄色土 | 6 乾性黄色土壌 | | 07-02-01 | 60 | 木曾洞 | | 山 | 一 | 典型風化変質赤黄色土 | | 黄色土壌 | | |
| | | 乾性黄色土壌 | | 07-02-01 | 68 | 小沢山 | | 山 | □ | 典型風化変質赤黄色土 | | | | |
| | | 黄色土壌(陸地) | | 07-02-04 | 7 | 西分根 | | 農 | ◎ | 典型風化変質赤黄色土 | | 黄色土壌 | | |
| | | 黄色土壌(陸地) | | 07-02-04 | 12 | 古市場 | | 農 | ○ | 典型風化変質赤黄色土 | | | | |
| | | 黄色土壌(陸地) | | 07-02-04 | 14 | 上豊田 | | 農 | ○ | 典型風化変質赤黄色土 | | | | |
| | | 黄色土壌(陸地) | | 07-02-04 | 31 | 小沢山 | 台地人工未熟土壌 | 農 | 一 | 典型固結岩屑土 | | | | |

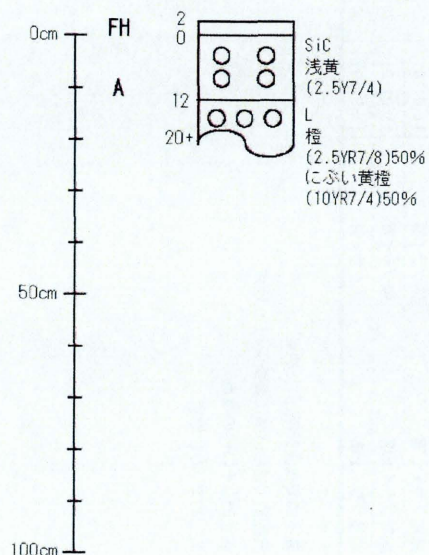
表3-3 調査地点ごとの土壌分類一覧表(2/2)

| 群 | 亜群 | 分類(統群I) | 統群II(特徴的な分類) | 分類番号 | № | 地点名 | 断面からの分類(変えたもの) | 利用 | 代表 | 統一分類(キーマント) | 統一分類(中心概念) | 基本調査の分類 |
|--------|-------|----------|--------------|----------|-------|----------|----------------|---------|----------|-------------|------------|----------|
| 褐色低地土 | 褐色低地土 | 褐色低地土 | 細粒質(凝軟なし) | 09-01-01 | 2 | 大根洞 | | 農 | ○ | 典型褐色沖積土 | | 褐色低地土壌 |
| | | | 細粒質(凝軟あり) | 09-01-01 | 21 | 玉取 | | 農 | ○ | 典型褐色沖積土 | | |
| | | | 細粒質(凝軟なし) | 09-01-01 | 28 | 小沢山 | | 農 | ◎ | 典型褐色沖積土 | | |
| 灰色低地土 | 灰色低地土 | 細粒灰色低地土 | 灰色系 | 10-01-01 | 1 | 新柱 | 灰色低地土壌(灰色系) | 農 | — | 典型褐色沖積土 | 典型灰色沖積土 | 細粒灰色低地土壌 |
| | | 細粒灰色低地土 | 灰色系 | 10-01-01 | 3 | 大根洞 | 細粒灰色低地土壌(灰場系) | 農 | ○ | 典型褐色沖積土 | | |
| | | 細粒灰色低地土 | 灰色系 | 10-01-01 | 17 | 分根 | | 農 | ○ | 典型褐色沖積土 | グライ化灰色沖積土 | |
| | | 細粒灰色低地土 | 灰色系 | 10-01-01 | 22 | 柳ヶ坪 | | 農 | ◎ | 典型褐色沖積土 | | |
| | | 粗粒灰色低地土 | 灰色系 | 10-01-03 | 10 | 水島山下 | 灰色低地土壌(灰色系) | 農 | — | 典型褐色沖積土 | 典型灰色沖積土 | 粗粒灰色低地土壌 |
| | | 粗粒灰色低地土 | 灰色系 | 10-01-03 | 11 | 鷹匠 | | 農 | ◎ | 典型褐色沖積土 | 典型灰色沖積土 | |
| | | 粗粒灰色低地土 | 灰色系 | 10-01-03 | 13 | 上田中 | | 農 | ○ | 典型褐色沖積土 | 典型灰色沖積土 | |
| | | 粗粒灰色低地土 | 灰色系 | 10-01-03 | 15 | 廣田 | | 農 | ○ | 典型褐色沖積土 | 典型灰色沖積土 | |
| | | 粗粒灰色低地土 | 灰色系 | 10-01-01 | 26 | 大見屋洞 | 灰色低地土壌(灰色系) | 農 | — | 粘性非固結岩屑土 | | |
| | | グライ土 | グライ土 | 細粒グライ土 | 強グライ質 | 11-01-01 | 4 | 須戸 | | 農 | ○ | 典型灰色沖積土 |
| 細粒グライ土 | 強グライ質 | | | 11-01-01 | 5 | 塩坪 | | 農 | ○ | 典型灰色沖積土 | 典型グライ沖積土 | |
| 細粒グライ土 | 弱グライ質 | | | 11-01-01 | 6 | 山上 | | 農 | — | 典型グライ沖積土 | | |
| 細粒グライ土 | 強グライ質 | | | 11-01-01 | 18 | 蔵前 | | 農 | ○ | 典型灰色沖積土 | 典型グライ沖積土 | |
| 細粒グライ土 | 強グライ質 | | | 11-01-01 | 19 | 八本木 | | 農 | ○ | 典型褐色沖積土 | 典型グライ沖積土 | |
| 細粒グライ土 | 強グライ質 | | | 11-01-01 | 20 | 草輪 | | 農 | ○ | 典型灰色沖積土 | 典型グライ沖積土 | |
| 細粒グライ土 | 強グライ質 | | | 11-01-01 | 23 | 寺洞 | | 農 | ◎ | 典型グライ沖積土 | | |
| 細粒グライ土 | 強グライ質 | | | 11-01-01 | 24 | 森下 | | 農 | ○ | 典型グライ沖積土 | | |
| 細粒グライ土 | 強グライ質 | | | 11-01-01 | 25 | 寺洞 | | 農 | ○ | 典型グライ沖積土 | | |
| 細粒グライ土 | 強グライ質 | | | 11-01-01 | 29 | 上平 | | 農 | ○ | 典型グライ沖積土 | | |
| 細粒グライ土 | 強グライ質 | 11-01-01 | 30 | 小沢山 | | 農 | ○ | 典型褐色沖積土 | 典型グライ沖積土 | 典型グライ沖積土 | | |

- ◎ 典型的で代表断面とした地点
- 典型的ではないが代表断面とした地点
- 典型的なその他の地点
- 典型的ではない地点

| | | |
|---------|--|-----------------------|
| 土壌名 | 台地人工未熟土壌 | |
| 性質 | 造成を加えた土地を農地として利用している土壌である。 土壌生成的には未成熟であり、切土・盛土両者が考えられるが、どちらの場合も基岩が地表面近くに現れることが多い。 | |
| 確認位置と分布 | 今回の調査では東濃牧場（No.31）で見られた。分布範囲が不明瞭なため、土壌図には示していない。 | |
| 対比 | 基本調査 | 特に抽出されていない。 |
| | 統一分類 | 未熟土大群－典型固結岩屑土亜群に相当する。 |
| 留意点 | 土層が浅いので、深根性の作物などには向かない。また腐植に乏しいため、作物によっては十分な施肥を必要とする。 | |

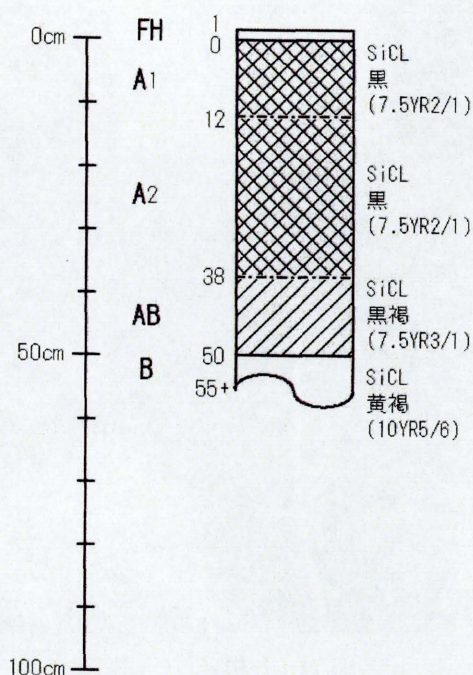
断面図・写真



No.31 (小沢山)

| | | |
|---------|--|--|
| 土壌名 | 黒ボク土壌（厚層黒ボク土壌・淡色黒ボク土壌） | |
| 性質 | 火山灰が堆積し、腐植化して強い黒色を呈すようになる。2箇所ではA層が25cmを超える厚層黒ボク土壌であった。耕地 (No.16) では表層の腐植質が削剥された様相の淡色黒ボク土壌が確認された。 | |
| 確認位置と分布 | 厚層黒ボク土壌はNo.9(上野山)、No.59(木曾洞)で、淡色黒ボク土壌はNo.16(下本郷)で確認された。富田、打杭、分根などの台地あるいは丘陵の緩傾斜地で見られる。 | |
| 対比 | 基本調査 | 林地、農地両方に出現する黒ボク土壌、多湿黒ボク土壌に相当する。林地では木ノ実統。 |
| | 地力保全 | (田) 深井沢統、(畑) 畑谷統、大津統、大里統 |
| | 統一分類 | 厚層黒ボク土壌は「厚層多腐植質アロフェン黒ぼく土」亜群 淡色黒ボク土壌は「淡色アロフェン黒ぼく土」亜群 |
| 留意点 | 火山灰中の活性アルミニウムがリンを吸収し、養分としてはリンが不足しがちであり、酸性に偏るため、農耕地においてはリンと石灰を中心とした施肥を行う必要がある。腐植に富むため、畑作・果樹等には比較的良好である。 | |

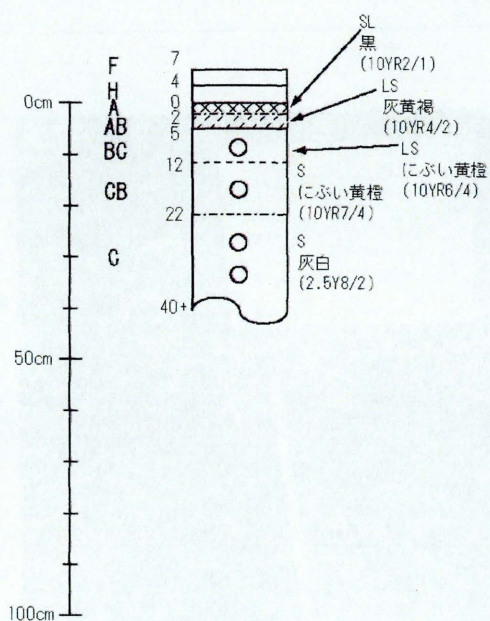
断面図・写真



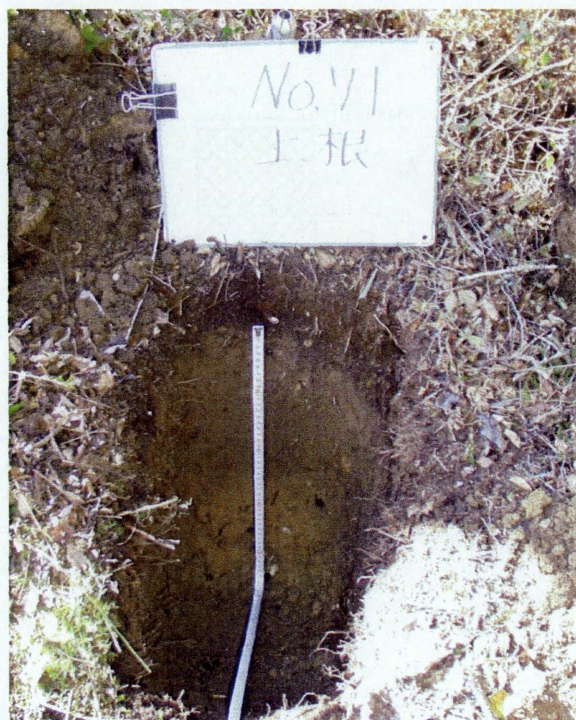
No.9 (上野山)

| | | |
|---------|---|--|
| 土壌名 | 乾性褐色森林土壌 | |
| 性質 | 山地上部の緩傾斜地などに分布する土壌で、主に残積性。BA,Bb,Bcに相当する。 | |
| 確認位置と分布 | 山地の尾根や斜面上部などに広範囲に分布する。 | |
| 対比 | 基本調査 | 林地土壌の乾性褐色森林土壌（丸池1統、明世統、高戸山1統、高根権現1統） |
| | 統一分類 | 赤黄色土大群－典型風化変質赤黄色土亜群 と 褐色森林土大群－典型黄褐色森林土亜群 の場合がある |
| 留意点 | 乾性褐色森林土壌の生産力は高くはない。アカマツ林となっているところが多いことからわかるが、水分条件が十分ではないため、スギやヒノキの植林としては望ましくない。稜線や山頂などに分布することから、景観上の重要性は高い。 | |

断面図・写真



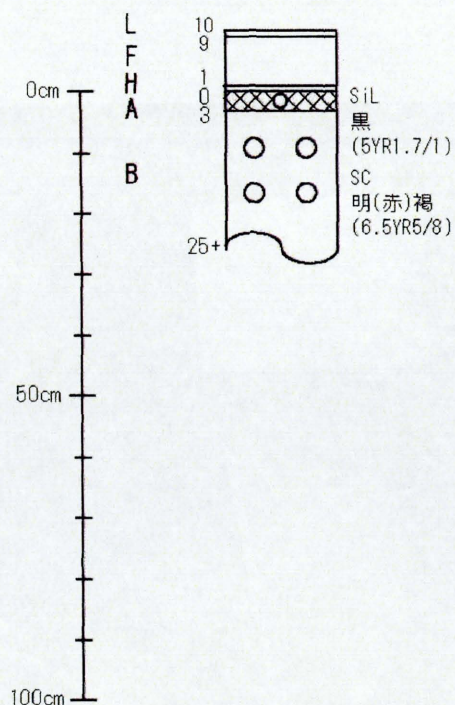
No.56 (高松)



No.71 (上根)

| | | |
|---------|---|-------------------------------|
| 土壌名 | 乾性褐色森林土壌（赤褐色系） | |
| 性質 | 北部の、溶結凝灰岩に土岐砂礫層が乗る山地上部の緩傾斜地に分布。残積性。B層が赤みがかかった色調（7.5YRより赤）を呈しており、粘性が高い。赤色化作用を受けているために、乾性褐色森林土壌（黄褐色系）よりも粘土化が進んでいる | |
| 確認位置と分布 | No.64（大平）。北部（溶結凝灰岩分布域）の山頂付近にある緩傾斜地に分布する。分布範囲は広くはない。 | |
| 対比 | 基本調査 | 林地土壌の乾性褐色森林土壌（赤褐色系）。大藪統に相当する。 |
| | 統一分類 | 赤黄色土大群－典型風化変質赤黄色土亜群 |
| 留意点 | 乾性褐色森林土壌のうちでも、上述の黄褐色系土壌よりも粘土化が進んでおり、養分の保持力が低いと考えられる。 | |

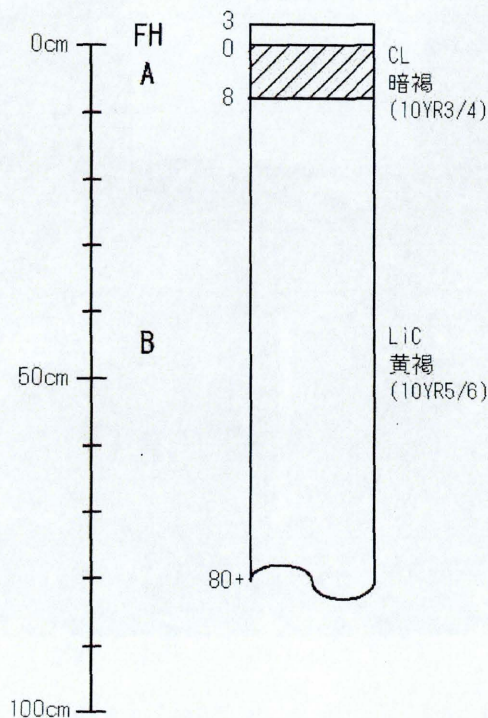
断面図・写真



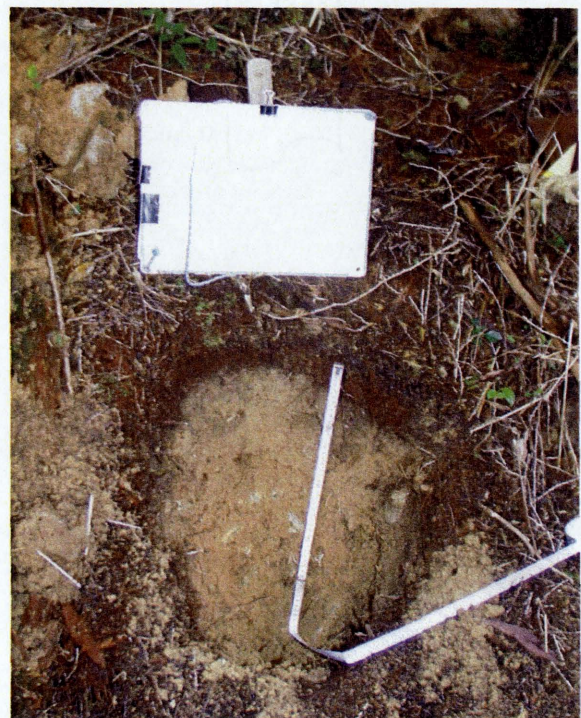
No.64 (大平)

| | | |
|---------|---|-------------------------------------|
| 土壌名 | 褐色森林土壌 | |
| 性質 | 斜面中腹から下部に分布する圃行土。母材は花崗岩、溶結凝灰岩(濃飛流紋岩)か弱固結シルト岩(瑞浪層群)に別れる。やや強い風化作用を受けているが、勾配や微地形の形態、母材などの条件によって様相はさまざまである。傾斜の緩い部分では、本土壌を開墾して茶畑等として利用している場所も見られた。 | |
| 確認位置と分布 | No.58(木曾洞)、No.62(大平)、No.66(小沢山)など。北部～中部の山腹に広く分布する。 | |
| 対比 | 基本調査 | 林地土壌の褐色森林土壌。丸池2統、高戸山2統、高根権現2統、酒井統など |
| | 統一分類 | 褐色森林土大群－典型黄褐色森林土にほぼ相当する。 |
| 留意点 | 礫が適度に混入している場所では土壌の通気・透水性が良く、材木の生育の面から望ましい。造林されたヒノキの成長はよく、スギも中程度以上の成長が期待できる。 | |

断面図・写真



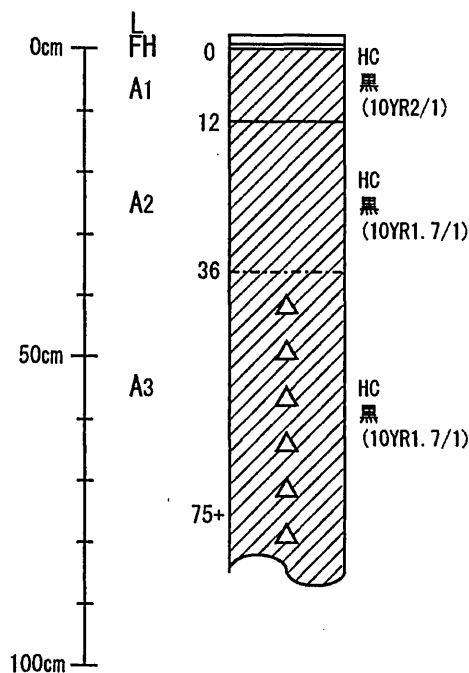
No.62 (大平)



No.66 (小沢山)

| | | |
|---------|--|--|
| 土壌名 | 湿性褐色森林土壌（黄褐色系） | |
| 性質 | 斜面下部の崖錐や谷底に分布する崩積土。崩積によるため、斜面上部の土壌の性質を反映しており、土層も礫質、壤質、埴質と変化に富む。 | |
| 確認位置と分布 | No.57 (打杭)、No.61 (中根)、No.65、67 (小沢山) など。北部～中部の山腹に広く分布する。町内全域に分布するが、それぞれの分布位置は小面積である。 | |
| 対比 | 基本調査 | 分布域が狭いため、抽出されていない |
| | 統一分類 | 褐色森林土大群－典型黄褐色森林土亜群にほぼ相当するが、一部は赤黄色土大群－典型風化変質赤黄色土亜群に相当 |
| 留意点 | 硬い土壌でも礫が深く堆積していると考えられ、また水分条件も良好である。そのため、スギなども旺盛な成長を期待できると考えられる。 No.67はシデコブシ自生地 (町天然記念物) で、降雨時には下層の礫間を水が流れる湿性環境となっている。 | |

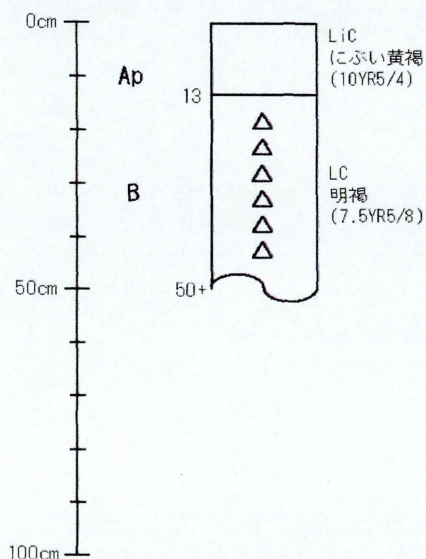
断面図



No.57 (打杭)

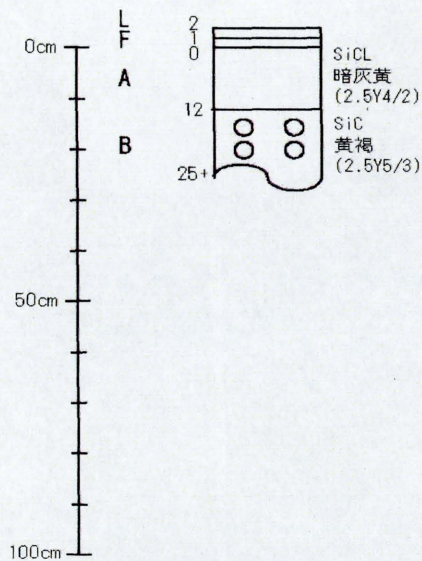
| | | |
|---------|---|--|
| 土壌名 | 乾性黄色土壌、黄色土壌（農地） | |
| 性質 | 次表層位が黄色または黄褐色の土壌である。安定した土地で、長期にわたる粘土化作用が起こり、黄色化が進行した。そのため、細粒質の土壌断面となっているところが多い。 農地は開拓により水田として利用され、黄色味の退色が見られた。 | |
| 確認位置と分布 | 乾性黄色土壌：No.60（木曾洞）、No.68（小沢山）。黄色土壌（農地）：No.7（中根）、No.12（古市場）、No.14（打杭） 丘陵地などの頂部付近の緩やかな傾斜地に分布する。 | |
| 対比 | 基本調査 | 分布域が狭いため、抽出されていない |
| | 地力保全 | （田）新野統、（畑）鶴木山統 |
| | 統一分類 | 褐色森林土大群－典型黄褐色森林土亜群にほぼ相当するが、一部は赤黄色土大群－典型風化変質赤黄色土亜群に相当 |
| 留意点 | 養分保持容量などはそれほど高くなく、有機物施用などが効果的である。細粒質で粘性であるため、畑や果樹園として利用するためには、深耕、あるいは粗粒質の投入などによる土壌改良が望ましい。 | |

断面図・写真



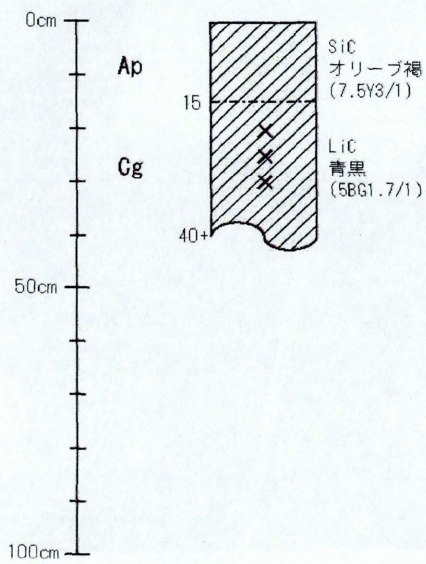
| | | |
|---------|---|------------------------|
| 土壌名 | 褐色低地土壌 | |
| 性質 | 次表層が褐色を示す土壌。谷の出口、段丘化した扇状地、沖積地でも緩傾斜を伴う部分などで確認した。斑紋のない2地点は、水田としての利用が短期間である場所である(あった)と考えられる。 黄色土壌に近い特性を持っており、台地などで黄色化した土壌が灌漑によりやや灰色化変成した場合や、二次堆積した場合などが考えられる。 | |
| 確認位置と分布 | No.2(大根洞)、No.21(土取)、No.28(小沢山) 町内に点在している。 | |
| 対比 | 基本調査 | 農地の褐色低地土壌に相当。町内には多くない。 |
| | 地力保全 | (畑)外城統 |
| | 統一分類 | 沖積土大群－典型褐色沖積土に相当 |
| 留意点 | 台地性の黄色土壌の性質を持っており、粘質が強い傾向にある。確認した3地点のうち2地点(2、28)は水田から畑へと転作しているが、狭矮なため利用しにくいことが考えられる。畑として利用する場合は、砂などの沖積物質が混入している場所を除いて、有機質を投入するなどの改良が望まれる。 | |

断面図・写真



| | | |
|---------|--|--|
| 土壌名 | 細粒灰色低地土壌 | |
| 性質 | 次表層が灰色を示し、土性が強粘質ないしは粘質である土壌。 町内の土壌は、全体に明度がかなり低く、耕作着手前の状況が灰色低地土であったと考えられる。 成因は、風化した母材が沖積地を灰色化変成しつつ流下して堆積したものと考えられる。 | |
| 確認位置と分布 | No.1(新柱)、3(大根洞)、No.17(分根)、No.22(柳ヶ坪) 確認場所は、瑞浪層群の分布域と重なり、母材の影響があると考えられる。 | |
| 対比 | 基本調査 | 農地の細粒灰色低地土壌に相当。 |
| | 地力保全 | (田)佐賀統、諸橋統、多々良統。なお灰色低地土下層黒ボクの野市統があげられている。 |
| | 統一分類 | 沖積土大群－典型灰色沖積土亜群にほぼ相当するが、一部はグライ化灰色沖積土亜群となる。 |
| 留意点 | 地下水位はやや低く、水田として利用する場合は表面水型の乾田である。しかし、土性は細粒質であるため、第1層の排水性はあまりよくない。畑地として利用する場合は、鋤床層を破碎するなど、排水性にも留意する必要がある。 | |

断面図・写真

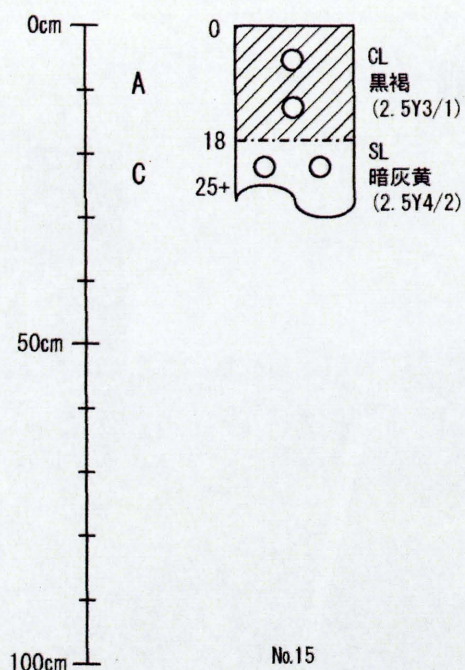


No.22 柳ヶ坪



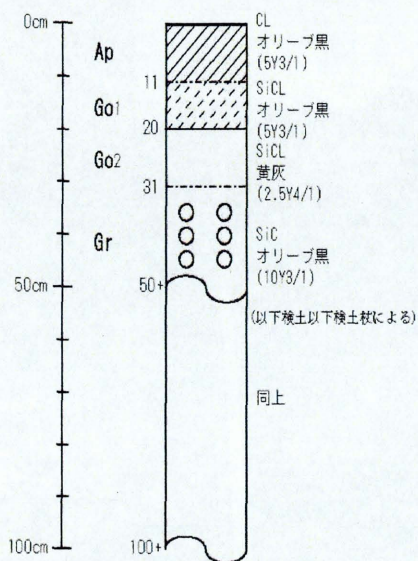
| | | |
|---------|--|---|
| 土壌名 | 粗粒灰色低地土壌 | |
| 性質 | 次表層が灰色を示し、土性が壤質ないし砂質である。粗粒質のため水はけが良好である。マサを母材とした土壌が多く見られた。また富田の一部では、活性アルミニウム反応を若干示した。 成因は、マサなどが灰色化変成しつつ流下し、堆積してできたものと考えられる。 | |
| 確認位置と分布 | No.10 (水晶山下)、No.11 (鷹匠)、No.13 (上田中)、No.15 (廣田)、No.26 (大見屋洞) 5点とも母材にマサを含んでいる土壌である。 | |
| 対比 | 基本調査 | 農地の粗粒灰色低地土壌に相当。 |
| | 地力保全 | 礫質灰色低地土灰褐系の赤池統が相当すると考えられる。 |
| | 統一分類 | 沖積土大群－典型灰色沖積土亜群にほぼ相当するが、一部は未熟土大群－湿性非固結岩屑土となる。 |
| 留意点 | 地下水位はやや低く、水田として利用した場合は表面水型の乾田である。土性が粗粒のため、下層まで粗粒の場合、水落ちが懸念される。水落防止のために、鋤床を十分に固めておく必要がある。畑地として利用する場合は、鋤床を破碎すると、排水に対応ができる箇所が多い。 | |

断面図・写真



| | | |
|---------|---|---|
| 土壌名 | 細粒グライ土壌 | |
| 性質 | <p>作土または同直下から深さ50cm以内にグライ層(ジピリジル反応が即時鮮明な土層)が出現し、土性が粘質な土壌。なかでも、ほとんどの場所が深さ30cm以内にグライ層が出現する強グライ質の土壌である。</p> <p>地下水位が高い地下水型の湿田であり、溶脱は小さく、保肥力は高いことが多い。</p> | |
| 確認位置と分布 | <p>No.4など岩村北部、No.23など飯羽間川沿い、No.29上平など、町西部で多く確認された。</p> <p>流域の地質を見ると、おもに溶結凝灰岩、瑞浪層群からなる。</p> | |
| 対比 | 基本調査 | 農地の細粒グライ土壌に相当。 |
| | 地力保全 | (田) 保倉統。細粒強グライ土に富曾亀統。また中粗粒強グライ土に芝井統がある。 |
| | 統一分類 | 沖積土大群－典型グライ沖積土亜群に相当する。 |
| 留意点 | <p>地下水位が高く、畑利用のためには暗渠、明渠など用排水の改良が必要である。水田として利用する場合も、用排水改良をすることが望ましい。溶脱は小さく、保肥力は高いことが多いので、元肥中心の施肥とし、中干し、間断灌漑を励行する。有機物は分解が遅れるので、与える場合には完熟堆肥を与え、その施用には注意が必要である。耕耘も重要である。</p> | |

断面図・写真



No.23 寺洞



5. 防災関連調査

5. 防災関連調査

5-1 自然災害等の履歴

(1) 豪雨災害

岩村町に被害を与えた豪雨災害を「岐阜県災異誌」（岐阜地方気象台編, 1965）や「岐阜県災害史」（岐阜新聞社出版局編, 1998）、町の広報（広報いわむら）などの資料から抽出し、表5-1に整理した。

表5-1 町内の豪雨災害

| 西暦 | 発生年月日 | 災害概要 | 資料 |
|------|--------------|---|--------|
| 1882 | 明治15.10.1 | 岩村川氾濫のため、橋梁や護岸、農地が流失、城山の一部崩壊。 | 岐阜県災異誌 |
| 1959 | 昭和34.9.26 | 伊勢湾台風。負傷者4名、全壊39戸、半壊472戸、非住家被害202戸等の多大な被害が発生。 | 町広報ほか |
| 1961 | 昭和36.6.24～29 | 道路、河川、橋梁、林道などに被害が発生し、農地の流失埋没も数町歩に達したが、人的被害はなかった。 | 町広報ほか |
| 1967 | 昭和42.7.9～10 | 106mmの雨量が集中的に降り、若干の被害が出た。 | 町広報ほか |
| 1970 | 昭和45.6.15 | 日雨量が211.6mmに達し、町内各所に被害が出たが、人的被害はなかった。 | 町広報ほか |
| 1972 | 昭和47.7.9～13 | 床上浸水13戸、床下浸水112戸のほか、国道257号線は7月末まで通行止めとなった。被害総額は3億1,637万円に達した。 | 町広報ほか |
| 1974 | 昭和49.4.9 | 国道257号線の山王付近で災害。 | 町広報 |
| 1982 | 昭和57.8.16 | 国道257号線木の実トンネル手前にてがけ崩れ。町内床下浸水2戸。 | 町広報 |
| 1983 | 昭和58.9.28 | 崖崩れ等により道路の通行止めや家屋損壊の被害発生。床上浸水1戸、床下浸水68戸などで、被害総額は約15億円。 | 町広報ほか |
| 1988 | 昭和63.9.23～25 | 道路の欠壊11カ所、河川の護岸欠壊26カ所などの被害があり、床下浸水も9件発生した。被害総額は2億1,600万円になった。 | 町広報ほか |
| 1989 | 平成元.9.19～20 | 岩村川等では流木が橋梁につき家屋の流失が起るなど大被害となった。その他天瀑山の堤の欠壊等で被害総額は39億円。 | 町広報ほか |
| 2000 | 平成12.9.10～11 | 床下浸水1戸や富田川などの氾濫による道路や橋梁の損壊や、山林、田畑への被害が発生し、被害総額は約2億5,000万円。 | 町広報ほか |

豪雨時に町内では、岩村川や飯羽間川、富田川の増水、氾濫や山地の小溪流からの土砂流出、崖崩れなどの災害が多く発生しており、古い記録では、明治15年(1882年)に岩村川が氾濫して橋梁や護岸、農地が流失したり、城山の一部が崩壊したという記録がある。戦後、岩村町内に被害を与えた豪雨災害としては、昭和34年の伊勢湾台風、昭和47年7月の集中豪雨、昭和58年の台風10号、平成元年の台風22号、平成12年9月の集中豪雨などがあげられ、家屋や公共施設、農作物などに被害が発生している。戦後の豪雨災害の発生状況等を以降に示す。

なお、地形・地質的に岩村町と共通点が多い東濃の他地域では、阿木川などの木曾川支川の増水による洪水被害や、集中豪雨などによる土石流(山津波)や山崩れなどが発生しており、岩村町内も潜在的に同様な災害が発生する可能性がある。

①伊勢湾台風

昭和34年9月26日に東海地方に大きな被害を出した伊勢湾台風では、岩村町内にも大きな被害が発生した。人的被害は負傷者4名、家屋被害としては全壊39戸、半壊472戸、非住家被害202戸であり、その他、公共施設や土木・農業などに多大な被害が発生した。当時の広報誌によると、「家が倒れたり壊れたり、立木は折れたり倒れ、屋根や壁の小被害は殆どの家屋がこうむって、全町の被害は莫大なものにのぼると思われる」とされ、家屋被害の多くは暴風による被害であった。

②昭和36年6月の集中豪雨(36.6豪雨)

6月24日から29日にかけてまとまった降雨があり、特に27日の降雨は255mmに達した。この豪雨により、岩村町内では道路、河川、橋梁、林道などに被害が発生し、農地の流失埋没も数町歩に達した。その他、本三の裏山の崩壊によって自動車が埋まったり、明知線が不通になるなど被害があったが、人的被害はなかった。

表5-2 36.6豪雨発生時の日雨量

| 月 日 | 日雨量(9時～翌日9時) |
|-------|--------------|
| 6月24日 | 29mm |
| 25日 | 22mm |
| 26日 | 95mm |
| 27日 | 255mm |
| 28日 | 40mm |
| 29日 | 50mm |

③昭和42年7月の集中豪雨

7月9日から10日にかけて全国を襲った豪雨では、長崎、広島、神戸などで300名を超える死者を出し、行方不明も100名を超えた。岩村町では、106mmの雨量が集中的に降り、特に、9日の午後11時からの1時間雨量は32mmという豪雨で、また、この前後に雨量が集中したため、岩村町でも山崩れなどの若干の被害が出た。

④昭和45年6月集中豪雨

6月15日の日雨量（午前9時から翌日午前9時までの雨量）が211.6mmに達し、この集中豪雨により町内各所に被害が出た。恵那市、中津川市では死者を出す被害があったが、岩村町では人的被害はなかった。

表5-3 昭和45年6月集中豪雨発生時の日雨量

観測所：町役場

| 月 日 | 日雨量(9時～翌日9時) |
|-------|--------------|
| 6月14日 | 76.0mm |
| 15日 | 211.6mm |

⑤昭和47年7月の集中豪雨(47.7豪雨)

昭和47年7月9日から13日にかけて降り続いた雨によって、東濃地方をはじめとする県下各地で中小河川の氾濫、山崩れ、崖崩れ等が発生し、明智町、瑞浪市では山崩れなどにより27名の死者を出した。岩村町内でも、13日未明の午前2時頃をピークに猛烈な勢いで雨が降り、家屋の浸水、山崩れ、崖崩れ、土砂流入、田畑埋没などが発生した。町内の被害は床上浸水13戸、床下浸水112戸のほか、国道257号線は東野や小沢地区内で欠壊して7月末まで通行止めとなり、青少年スケート場は土砂に埋まり、大円寺の農地は水晶山からの水や土砂、材木によって被害を受けた。被害額は農業関係で8,984万円、林業関係で4,365万円、土木関係で1億6,283万円など総額3億1,637円に達した。

表5-4 47.7豪雨発生時の日雨量

観測所：町役場

| 月 日 | 日雨量(9時～翌日9時) |
|------|--------------|
| 7月9日 | 38.2mm |
| 10日 | 84.2mm |
| 11日 | 25.2mm |
| 12日 | 192.0mm |

⑥昭和49年4月9日の豪雨

国道257号線の山王付近で災害。

⑦昭和57年8月豪雨

8月16日に国道257号線木の実トンネル手前にてがけ崩れ。町内床下浸水2戸。

⑧昭和58年の台風10号

トラック島付近の海上で9月19日に発生した台風10号の北上に伴って、停滞していた前線が25日から活発となり、九州から関東地方の太平洋側を中心に強い雨が降り始め、特に26日から27日にかけて、九州と四国を中心に大雨となり、28日は台風（及び台風から変わった低気圧）の通過により四国から関東までの広い地域で大雨となった。県内では、飛騨地方及び東濃地方で特に雨量が多く、高山市を流れる川上川の堤防を削り、東濃では木曾川が増水し、美濃加茂市で総世帯数の約15%、坂祝町で約12%が被害を受けた。

岩村町内では、台風くずれの温帯低気圧の接近に伴って、28日の昼頃から激しくなった雨が夕方頃から一段と強くなり、午後4時から5時までの1時間の降雨が49mmを記録した。被害はこの時間帯の豪雨と出水により発生し、国道257号線の木の実峠(写真5-1)や山王橋、国道363号線の打杭、山岡町境などでは崖崩れや護岸の決壊が発生して通行止めとなったり、富田六区では山地が崩壊して家屋の一部を壊したり、飯羽間三区では収穫前の耕地に土砂が流出するなどした。この災害による町内の家屋被害は、床上浸水1戸、床下浸水68戸、非住家破損18棟であり、そのほか被害額では、農業関係が2億2,240万円、林業関係は4億7,983万円、土木関係は7億5,820万円などとなっており、被害総額は15億1,881万円にのぼった。



(広報いわむらより)

写真5-1 昭和58年の台風10号災害で通行が遮断された国道257号木の実峠付近

⑨昭和63年9月豪雨

秋雨前線の影響で9月23日午後より徐々に降り始めた雨が25日午前には大雨となり岩村町でも土砂崩れ、床下浸水や河川等に被害が発生した。町内では、24日15時から翌25日15時の間に207.5mm、25日13時から14時までの1時間には51.0mmの降雨があり（連続雨量は233.5mm）、このため道路の欠壊11カ所、河川の護岸欠壊26カ所、林道10カ所、その他農地、農業用施設、農林産物などに被害があり、床下浸水も9件発生した。この災害による被害額はおよそ2億1,600万円になった。

⑩平成元年の台風22号(9.20災害)

平成元年9月17日台風22号が発生し、次第に発達しながら北上、19日午後1時すぎ、鹿児島県に上陸し、やや東よりに進路を変え、夜半過ぎには遠州灘を通過した。県内では台風が最も接近した19日午後11時から20日午前3時にかけて、東濃地方を中心に激しい雨となり、山崩れ、がけ崩れなどが発生し、中小河川のはん濫により、床上、床下浸水や道路損壊などの被害が相次いだ。

岩村町内でも19日から20日にかけて豪雨に見舞われ、19日午前9時から20日午前9時にかけての24時間の雨量は235mmに達した。そのうち、20日0時から1時が72mm、1時から2時が59.5mmでこの2時間に特に降雨が集中し、岩村川や他の各河川では、流木が橋梁につまり、西町・朝日町では家屋の流失が起るなど大被害となった(写真5-2,3)。また、天瀑山の堤の欠壊(写真5-4)や、飯羽間川の増水などにより被害が発生した。道路では、国道257号線の上矢作町への通行が不通になるほか、各地で欠壊や土砂流出、橋梁の流失が発生し通行不能となった。また、簡易水道の破損、全町断水、農林関係など各方面に被害を生じ、町内の被害額は総額39億円を超えた。



(岐阜県防災・災害のホームページより)

写真5-2 9.20災害で岩村川がはん濫して家屋流失(西町地内)



(広報いわむらより)

写真5-3 9.20災害で川のようになった道路(朝日町)



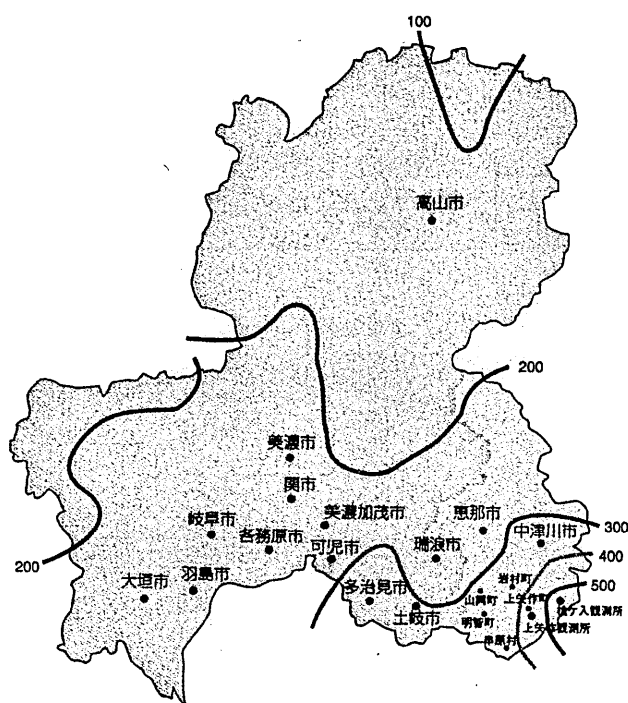
(広報いわむらより)

写真5-4 9.20災害で堰堤が決壊した天瀑山溜池

⑪平成12年9月の集中豪雨(恵南豪雨災害)

9月10日頃から北陸沿岸に停滞した秋雨前線に、台風14号の影響で南から湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となり、岐阜県内では10日午後から雨が降り始めた。11日未明から岐阜、西濃地方を中心に雨が降り始め、以降、県下各地域に断続的に大雨が降り続いた。このため、上矢作町を中心とする東濃地方に土砂災害が発生し、上矢作町では1名が死亡し、家屋全壊・流失11戸、家屋半壊12戸、床上浸水13戸、床下浸水49戸という大きな被害となった。

岩村町内では、11日午前3時から12日午前8時までの総雨量は、370mmに達し、12日午前4時～5時までの時間雨量は38mmと最も激しく、12日午前5時40分に災害対策本部を設置し警戒にあたったが、上矢作町と比較すると雨量は少なく(図5-1)、床下浸水1戸の家屋被害や富田川などの氾濫による道路や橋梁の損壊、山林、田畑への被害が発生したものの、人的被害は出さずに済んだ。町内の被害総額は2億5,000万円ほどであった。



上矢作町役場企画課編(2001)より

図5-1 恵南災害時の総雨量の分布

(2) 地震災害

1) 既往地震災害

岩村町内や周辺地域で被害が発生したり、震度が比較的大きかった地震を抽出して表5-5に整理した。地震災害の抽出にあたっては「岐阜県災異誌」(岐阜地方気象台編, 1965)や「日本被害地震総覧」(宇佐美, 1996)、町の広報誌などの資料を用いた。

岩村町内に大きな被害をもたらした地震は少なく、濃尾地震や東南海地震、三河地震などの中京地域に大きな被害を与えた地震の際にも、町内では被害がほとんどなかった。記録に残っている中で最も大きな被害は、1718年(享保3年)に伊那から三河にかけての地域に被害をもたらした地震で、岩村城の石垣が44ヶ所も崩れたとされており、城下の被害に関しては記録がないが、震度5を超えるような激しい揺れであったと考えられる。

表5-5 岩村町および周辺の地震災害

| 西暦 | 年号年月日 | 災害概要(地震諸元は宇佐美(1996)による) | 参考資料 |
|------|------------|---|---------------------|
| 1681 | 天和1.2.9 | 東濃地震。 | 岐阜県災異誌 |
| 1718 | 享保3.7.26 | 三河・伊那地方で地震。推定震央は東経137.9° 北緯35.3°、M=7.0±1/4 岩村城の石垣が4ヶ所崩れたとされる。 | 被害地震総覧 |
| 1854 | 安政1.11.4 | 安政東海地震。推定震央は東経137.8° 北緯34.0°、M=8.4 4日五ツ時。畿内、東海、東山道の諸国に大地震。高須、大垣、加納、不破郡、土岐郡、恵那郡にては倒壊家屋少なからず。堤防道路の割裂あり。且つ家屋の小破、壁の剥落等甚だ多く、余震が1ヶ月にわたり数10回あったとされる。 | 岐阜県災異誌 |
| 1891 | 明治24.10.28 | 濃尾地震。東経136.6° 北緯35.6°、M=8.0 28日午前6時38分に発生。岐阜県美濃地方、愛知県尾張地方を突然猛烈な地震がおそった。震源地は本巣郡根尾谷(現本巣市根尾)。地震の及んだ範囲は東北地方から九州地方にまで達した。激震地域は岐阜県的美濃地方を中心に、愛知県尾張地方、滋賀県東部、福井県南部。死者は全国で7,273人、全壊・焼失家屋142,000戸という大きな被害となったが、岩村町および周辺町村には家屋損壊等の被害はなかった。 | 岐阜県災異誌 県防災ホームページ |
| 1944 | 昭和19.12.7 | 東南海地震。東経136.62° 北緯33.80°、M=7.9 戦時下のため報道が規制され被害状況が正確に把握されていないが、岐阜県内の被害は、死者15、負傷者38、家屋全壊865戸、家屋半壊936戸とされる。岩村町周辺では阿木村で全壊3戸、半壊1戸の被害であった。 | 岐阜県災害史 |
| 1945 | 昭和20.1.13 | 三河地震。東経137.0° 北緯34.7°、M=6.8 愛知県を中心に死者1,961名、住家全壊5,539戸、住家半壊1万1,706戸等の被害。県内では西、南濃地方に被害あるが、詳細不明。岩村の震度は3であったとされる。 | 岐阜県災異誌 岐阜県災害史 |
| 1946 | 昭和21.12.21 | 南海(道)地震。東経135.62° 北緯33.03° M=8.0 被害は中部地方から九州まで及び、全体で死者1,330名、家屋全壊1万1,591戸、家屋半壊2万3,487戸などとされ、県内の被害は死者32名、家屋全壊586戸、家屋半壊952戸とされるが、資料により異なる。恵那地方では時計の振り子が止まり、郡内一帯が停電したが、人畜に被害はなかったとされる。 | 岐阜県災異誌 岐阜県災害史 |
| 1969 | 昭和44.9.9 | 岐阜県中部を震源とする地震。東経137° 04' 北緯35° 47' M=6.6 郡上郡奥明方村・和泉村で被害が大きく、死者1名、負傷者10名、住家の一部損壊86戸などの被害が発生。岩村での震度は4であった。 | 被害地震総覧 |

2) 地域防災計画での内陸直下型地震の被害想定

「岩村町地域防災計画」(岩村町,2000)の「地震対策編」では、「岐阜県地震被害想定調査報告書」を引用して内陸直下型地震発生時の岩村町内での被害想定をしている(表5-6)。これは、内陸直下型地震として阿寺断層系を震源とする地震(M=7.9)を想定し、このような地震が発生した場合には、町内の建物のうち1.7%にあたる70棟が全壊し、死者1名、重傷者5名等の被害が発生すると想定している。

表5-6 地域防災計画での地震災害の想定内容

| 項 目 | | 想定内容 |
|------|-----------|-------|
| 想定地震 | 震源断層 | 阿寺断層系 |
| | 地震の規模 | M=7.9 |
| 想定被害 | 建物全壊(棟) | 70棟 |
| | 〃 (%) | 1.7% |
| | 炎上出火件数 | 0件 |
| | 焼失棟数 | 0棟 |
| | 死者数 | 1人 |
| | 重傷者数 | 5人 |
| | 救出が必要な人の数 | 2人 |
| | 住家を失う人の数 | 391人 |
| | 上水道埋設管の被害 | 52箇所 |

岩村町(2000)より

(3) その他の災害

・ 大火

「岩村町史」(岩村町,1961)及び「広報いわむら」(平成3年7月10日号)によると、岩村町では明和2年(1765年)に2度の大火が発生している。10月2日夜に発生した相原の大火は「岩村相原大火浄光寺類焼」し(町史)、63戸を焼き(広報いわむら)、続いて10月21日新屋敷にて出火20数戸を焼いた(広報いわむら)とされている。

5-2 地理情報システムによる分析例

(1) 土地の評価の可能性

土地条件調査等で作成した各種の情報を応用することによって、土地の危険性や開発時の安全性の評価を検討することができる。ここではポリゴンを重ね合わせる手法による危険箇所に関連する土地を抽出する事例を紹介する。手法はさまざまに考えられ、ハザードマップの作成なども考えられる。また検討方法も流域単位、字単位、メッシュ単位などの方法も考えられる。検討の段階で、パラメータの変更なども考えられる。

(2) 検討フロー

例示する検討フローを図5-2に示す。現在指定されている「急傾斜地崩壊危険箇所」の傾斜・地形分類・地質傾斜の特性を抽出し、これらの個々のパラメータに設定したランクごとに掛け合わせる手順とした。

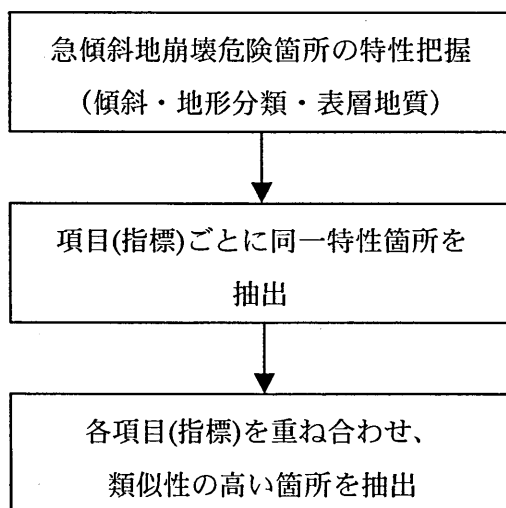


図5-2 検討フロー

(3) 検討結果

① 急傾斜地崩壊危険箇所の特性抽出

町内には、3ヶ所の急傾斜地崩壊危険箇所(ランク I)がある。土地条件調査(傾斜、地形分類、表層地質)におけるこれらの土地の区分は以下のとおりである。

表5-7 急傾斜地崩壊危険箇所の区分一覧

| 名称 | 場所※1 | 傾斜 (斜面部) | 地形分類 (斜面部) | 表層地質 (斜面部) |
|-----|------|--------------------|---------------|---------------|
| 坂下① | 坂下 | 20~30° , 30~40° | 山腹斜面 | 花崗岩類 |
| 坂下③ | 滝頭 | 3~8° ※2 | 山腹斜面 | 瑞浪層群 |
| 裏山 | 裏山 | 20~30° | 溪岸急斜面 | 花崗岩類 |

※1 危険箇所の場所は後述図6-4参照。

※2 坂下③地点は、急傾斜の崖の幅が狭く1/10,000スケールの傾斜区分図には図化できず、周辺の台地・低地の傾斜(3~8°)で示されている。

② 項目ごとの同一特性地域の抽出

表5-7より、急傾斜地崩壊危険箇所と同一特性を持つ土地として抽出する区分を検討した。傾斜については、坂下③は傾斜区分図では3~8°と示されたが、実際には20~40°程度の幅の狭い急斜面であることから、抽出対象は20~30°及び30~40°とし、3~8°は除外した。

表5-8 抽出する区分

| 項目 | 該当区分 | 備考 |
|------|--------------------|----------------------------------|
| 傾斜 | 20~30° , 30~40° | 坂下③が位置する3~8°は抽出対象としない。(表5-5の注参照) |
| 地形分類 | 山腹斜面, 溪岸急斜面 | |
| 表層地質 | 花崗岩類, 瑞浪層群 | |

それぞれの項目ごとに、同一特性が見られる地域を図5-3~5に示した。

- ・傾斜(図5-3)：傾斜20~40°の勾配を持つ斜面は、特に町南部に広く分布する。北部、中部にも見られる。
- ・地形分類(図5-4)：抽出した山腹斜面、溪岸急斜面の範囲は、傾斜における抽出と似ているが、北部・中部にも多く分布している。

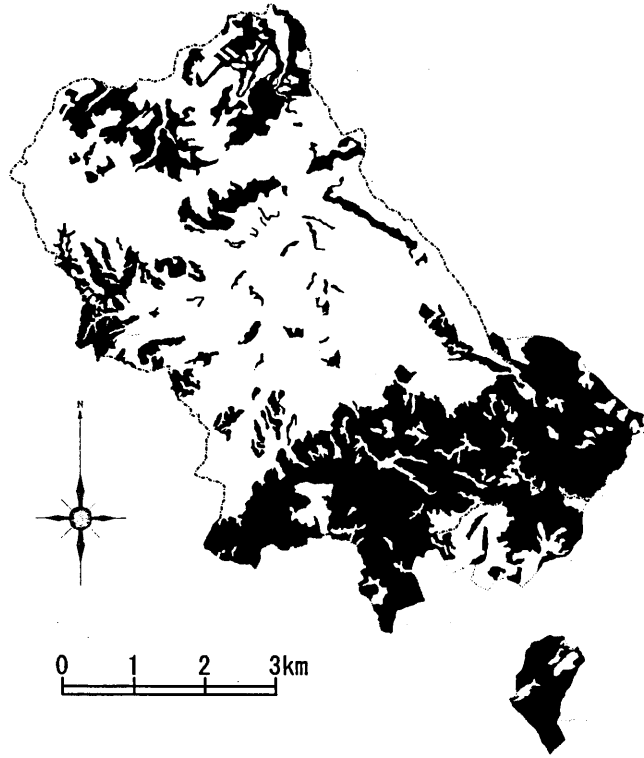


図5-3 傾斜区分図に基づく急傾斜崩壊危険箇所と同一特性地域

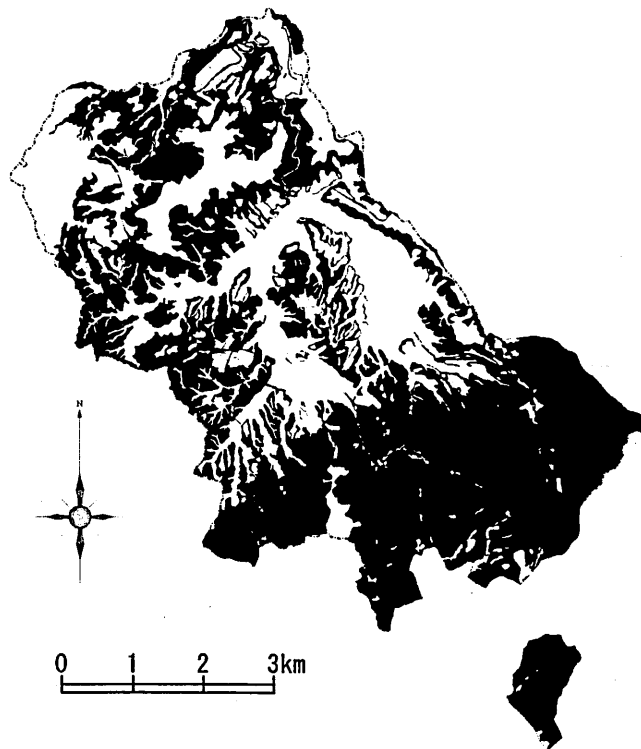


図5-4 地形分類図に基づく急傾斜崩壊危険箇所と同一特性地域

・表層地質（図5-5）：抽出した花崗岩類及び瑞浪層群は、町の中中部、南部に広く分布する。

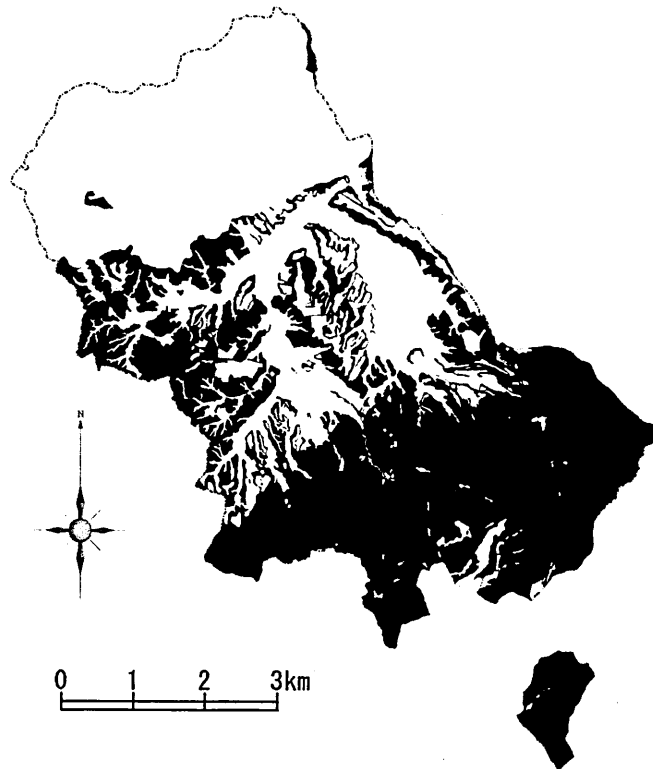


図5-5 表層地質図に基づく急傾斜崩壊危険箇所と同一特性地域

③ 指標の重ね合わせによる加点

傾斜区分図、地形分類図、表層地質図の3指標の重ね合わせにより、急傾斜地崩壊危険箇所との類似性を検討することができる。作業はGISソフトウェアの、ポリゴンのオーバーレイ機能を利用して実施した。

表5-9 類似性の検討

| 一致状況 | 類似性 |
|---------|------|
| 3項目一致 | 高い |
| 2項目一致 | あり |
| 1項目のみ一致 | 一部あり |
| 一致しない | 低い |

検討結果を図5-6 に示す。土地条件調査で検討した傾斜区分、地形分類、表層地質の3要素による類似性の高い区域は、特に岩村町南部の山地部に広く分布しているほか、富田北東部や飯羽間上切地区などにみられる。

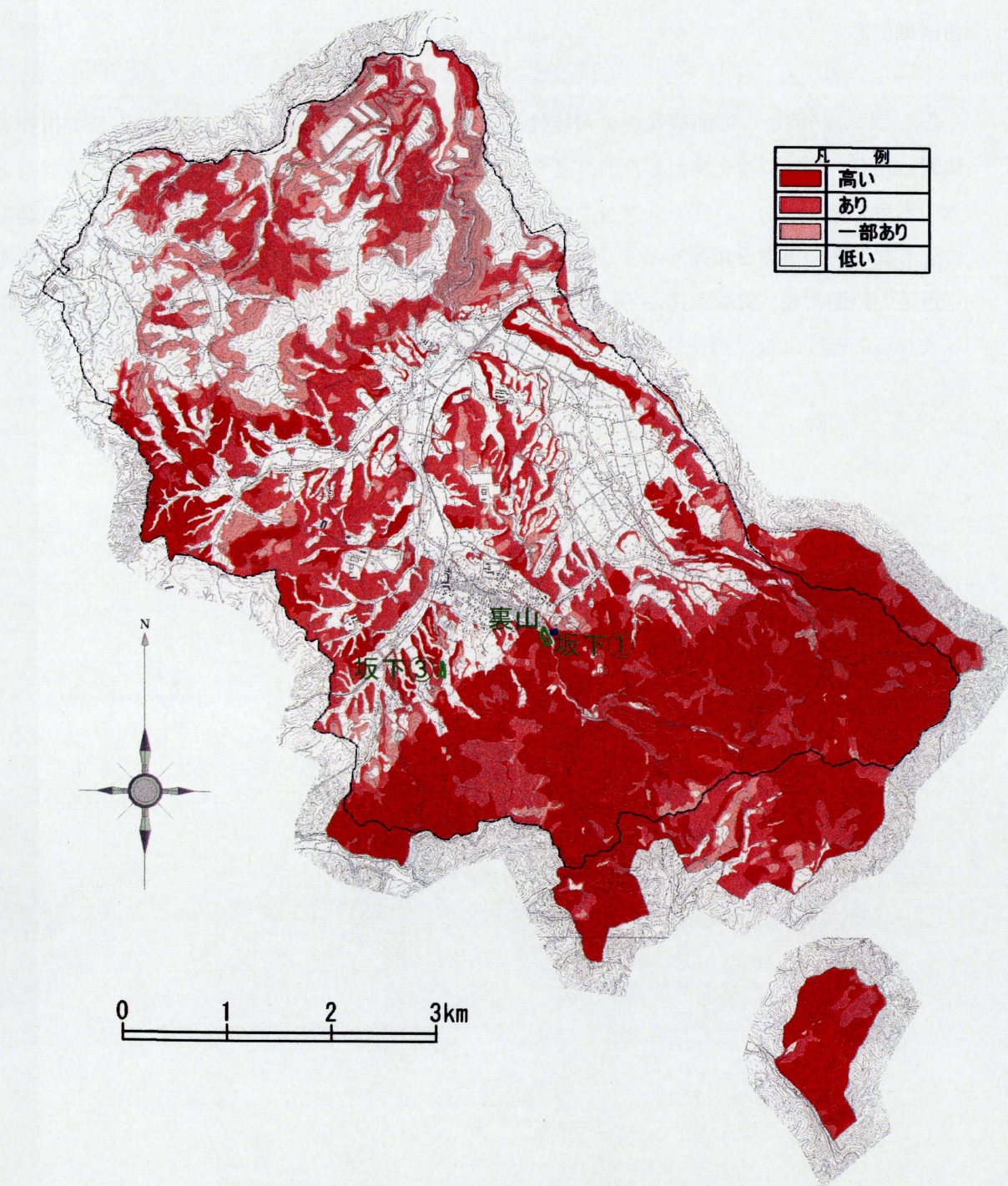


図5-6 傾斜区分、地形分類、表層地質からの抽出に基いた、急傾斜崩壊危険箇所と類似性の高い区域
(急傾斜地崩壊危険箇所は岐阜県恵那建設事務所資料による)

南部の山地は保全対象となる住家などが少ないが、山腹斜面には地形調査(2章)でも記したように風化花崗岩の表層崩壊が点在しており、崩壊発生の可能性のある区域であると考えられる。富田北東部は急傾斜の段丘崖が連続している区域である。飯羽間上切地区は、谷底から山頂までの比高が小さく傾斜も20~30°とやや緩いが、瑞浪層群の表層の小規模な崩落が考えられる区域である。

ここでは、一例として崩壊発生の可能性を求める作業を試みたが、町の特性に応じて指標を検討したり、点数づけを検討したりすることにより、他の自然災害や土地の生産性の検討などへの応用も考えられ、ハザードマップの作成なども考えられる。もちろん土地分類調査の結果に限らない別の指標を用意することも考えられる。また自然的な指標に限らず、社会的な指標(道路の整備状況、幹線道路からの距離、住宅密集状況、消火栓・防火水槽の分布など)を採り入れることにより、利便性や安全性についての検討にも活用できるものと考えられる。

6. 土地利用現況調査

6. 土地利用現況調査

6-1 土地利用現況

(1) 土地利用現況図

本作業では、とくに土地保全に関連のある、森林の土地利用状況について検討した。作業は岐阜県森林計画課が所有する森林計画図を地理情報とし、これに森林簿に記された樹種を表現した。また国有林部分についても同様に、林班図から森林の状況を把握できるようにした。

図 6-1 には、第一樹種による林層の区分を示した。またこれより樹種ごとの面積を集計し、表 6-1 に示した。町内及び町外町有地の樹林は、スギ、ヒノキの人工林が広面積を占める。特に町南部の高松及び国有林、また町北部の上平周辺はスギ、ヒノキ林が多い。一方、おもに雑木林が主体と考えられる広葉樹林は、集落周辺の小規模に区切られた小林班と、岩村川下流狭窄部の急峻な斜面に多い。アカマツは町全域に点在するが、中央西部の塩坪、矢坪一帯はアカマツを主体とした樹林となっている。

表 6-1 樹種ごとの面積

(単位：ha)

| 樹種 | 民有林 | 国有林 | 計 | 町外町有地 | 合計 | % |
|--------|--------|-------|---------|-------|---------|--------|
| スギ | 206.9 | 245.8 | 452.7 | 101.2 | 553.9 | 20.2% |
| ヒノキ | 860.0 | 96.5 | 956.5 | 267.2 | 1,223.7 | 44.6% |
| アカマツ* | 313.3 | 0.1 | 313.4 | 48.7 | 362.1 | 13.2% |
| その他広葉樹 | 342.4 | 0.0 | 342.4 | 131.3 | 473.7 | 17.2% |
| 草生地等 | 52.9 | 0.0 | 52.9 | 7.2 | 60.1 | 2.2% |
| 記載なし | 62.3 | 9.9 | 72.2 | 0.3 | 72.5 | 2.6% |
| 計 | 1837.8 | 352.3 | 2,190.1 | 555.9 | 2,746.0 | 100.0% |

※ おおよその樹林の分布傾向を把握するため、小林班ごとに面積を図上測定し、第一樹種の区分により集計した。

※ アカマツには一部クロマツを含む。

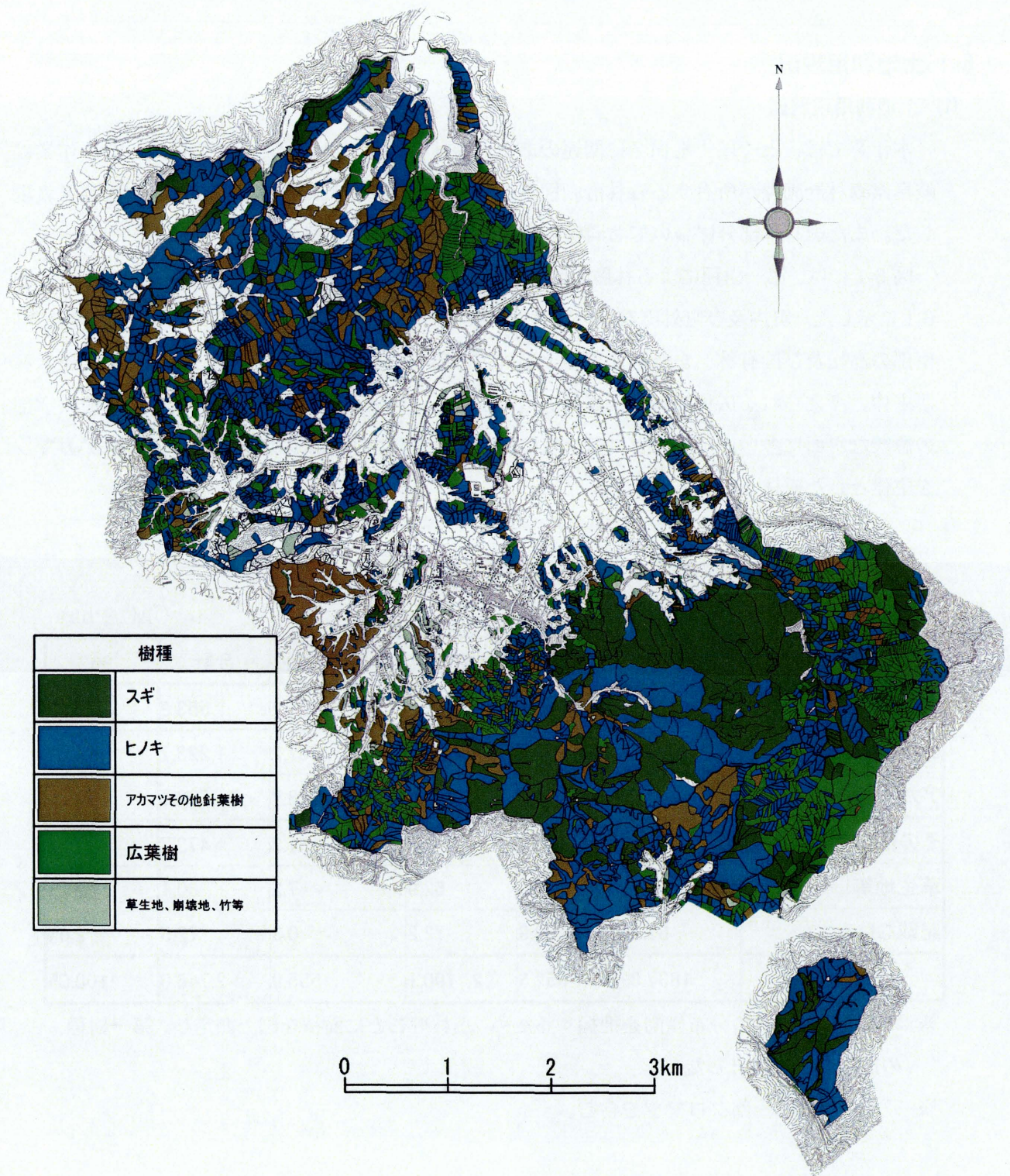


図 6-1 森林の土地利用現況（樹種区分）

(2) 字界図

筆に与えられる地番は字ごとにつけられており、地籍図から字界図を作成することができる。地籍調査の登記・数値化が完了した部分について、地番によって字を整理し、字界図を作成した。登記・数値化は、大字岩村の全域と、国有林を除く富田の大部分、飯羽間の一部まで終了している。

字界作成作業の際、公有地については公図を参照しながら字への編入を検討したが、道路の拡幅や圃場整備によって本来の字界が不明瞭になった部分については道路のほぼ中央などとし、相対的な位置関係には狂いが生じないようにした。また登記が終了していない範囲については、従来使用されていた字明細図から、尾根、川、道路などの地形地物等を字界と推定した。

図 6-2 には大字名と小字境界を示した。小字界名称は縮尺 1/15,000 にまとめ、巻末に添付した。

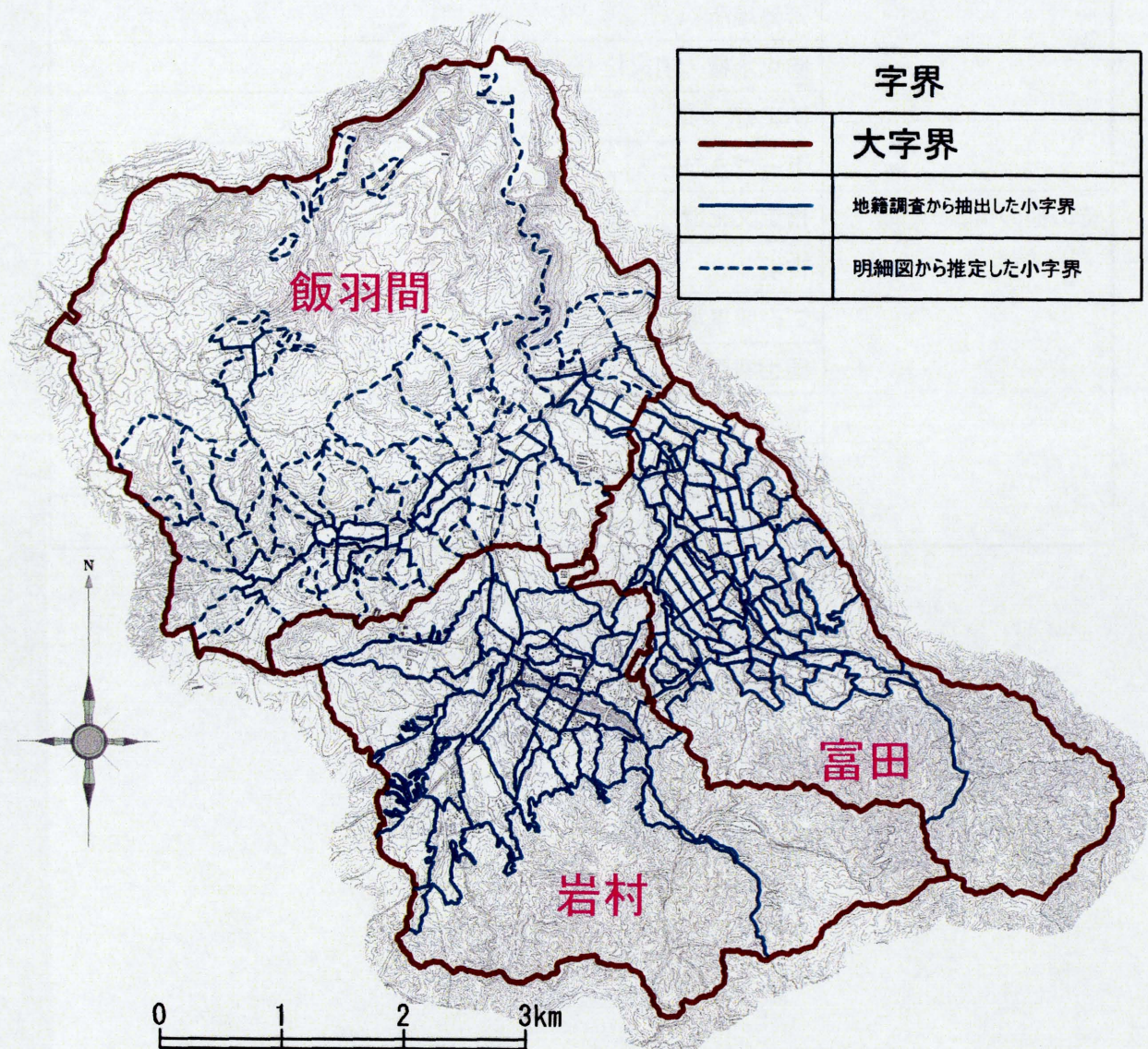


図 6-2 字界図

6-2 土地利用現況関連調査

土地利用現況に関連する調査としては、行政として使用する地図情報及び属性を数値化した。

表 6-2 数値化した関連情報の一覧

| 区分 | 項目 | 備考 |
|------------|----------|---|
| ライフライン関連情報 | 道路網 | |
| | 下水道 | |
| 保全関連情報 | 防災指定地 | 砂防指定地 土石流危険渓流 急傾斜地崩壊危険区域・箇所 地すべり危険箇所 |
| | 避難場所 | |
| | 防火水槽・消火栓 | |
| | 防犯灯 | |
| | カーブミラー | |
| その他の情報 | 指定文化財 | |
| | 古墳 | |
| | ごみ収集場所 | |
| | 国土利用計画 | |
| | 福祉バス | |
| | 保育園送迎バス | |
| | 町営住宅 | |

(1) ライフライン関連情報

1) 道路網

岩村町の管理する、町道、農道、林道について、道路位置、名称(路線番号)、方向について地理情報システムとして入力した。併せて参考的に国県道について入力した。

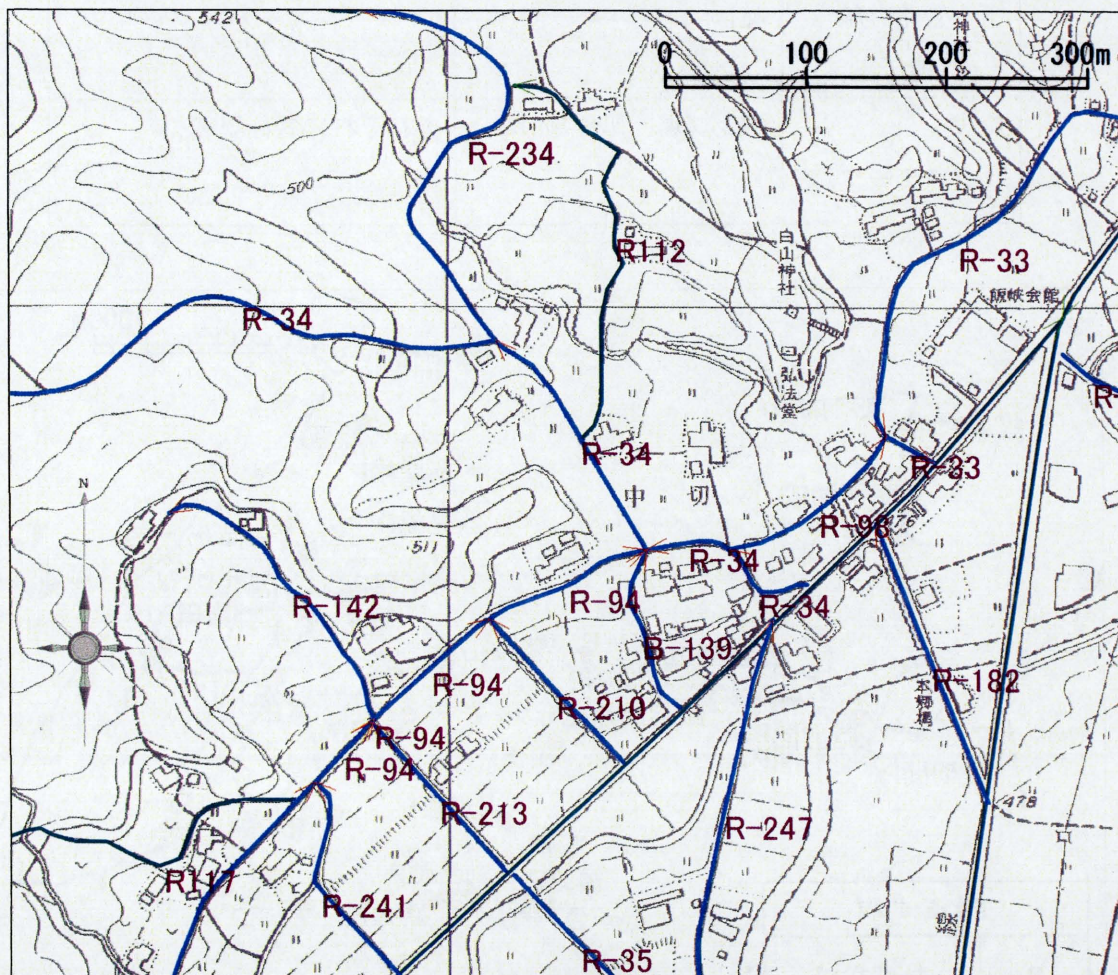


図 6-3 道路網図 (部分)

2) 下水道

岩村町役場の資料により、下水道に関する情報を数値情報化した。

表 6-3 下水道の入力内容

| 地図情報 | 属性 | 備考 |
|------------------|-----------|-----------|
| 下水管路幹線 (線データ) | なし | |
| 施設 (点データ) | ポンプ場、処理施設 | それぞれに名称記載 |

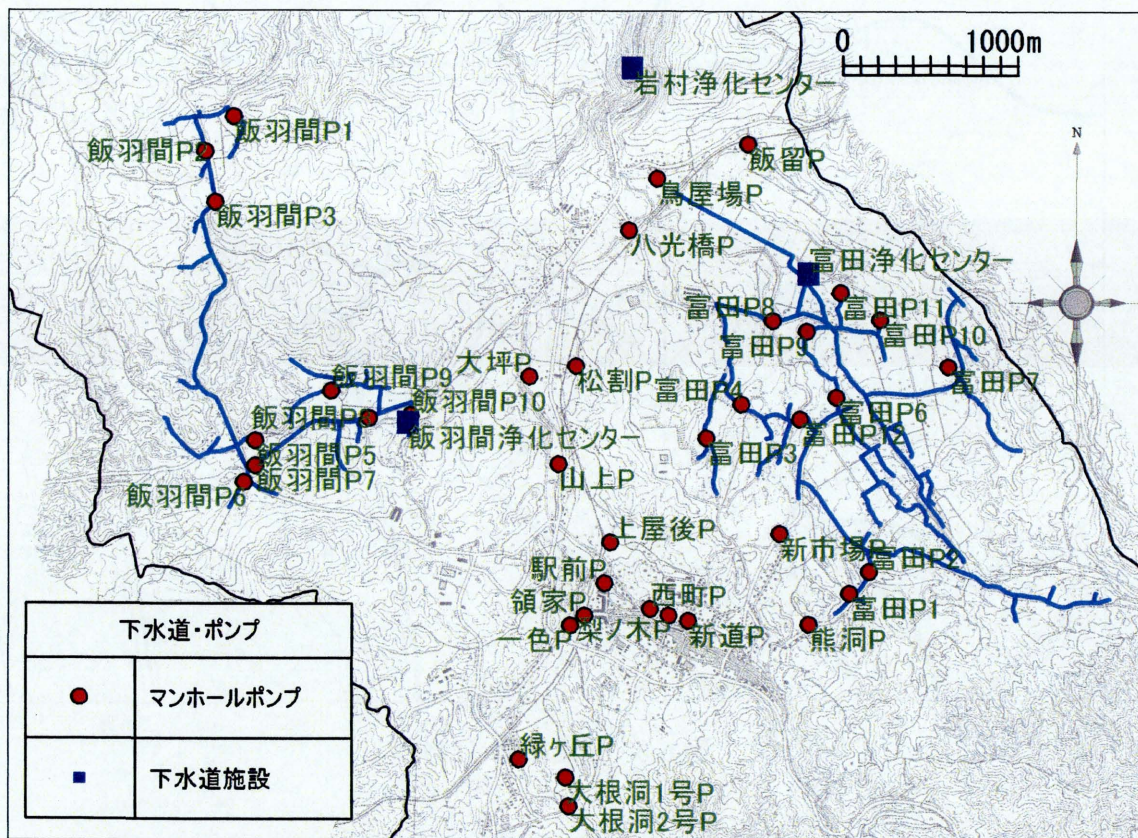


図 6-3 下水道管路及び施設位置図

(2) 保全関連情報

1) 防災指定地

土砂災害に関する危険箇所について、危険箇所の資料を元に数値情報化した。

表 6-4 土砂災害危険箇所の入力内容

| 地図情報 | 属性 | 備考 |
|------------------|------------|---|
| 危険箇所 (線・面データ) | ・種別 ・名称 | 砂防指定地 土石流危険溪流(I) 急傾斜地崩壊危険区域・箇所(I) 地すべり危険箇所 |

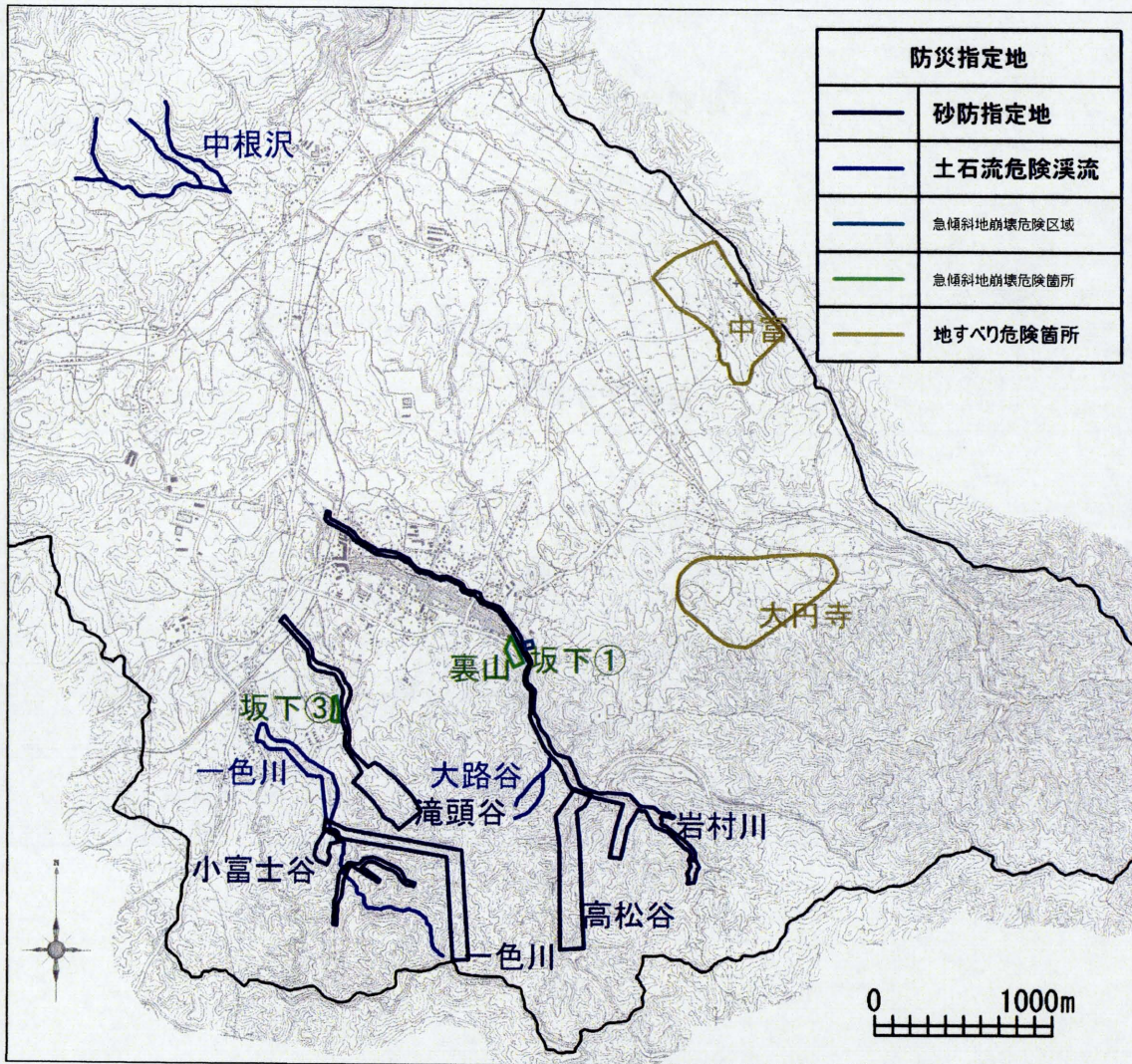


図 6-4 防災指定地

(恵那建設事務所資料より)

2) 避難場所

「岩村町地域防災計画」(岩村町,2000)に指定されている避難場所（7箇所）について、数値情報化した。

表 6-5 避難場所の入力内容

| 地図情報 | 属性 | 備考 |
|----------------|----|----|
| 避難場所 (点データ) | 名称 | |

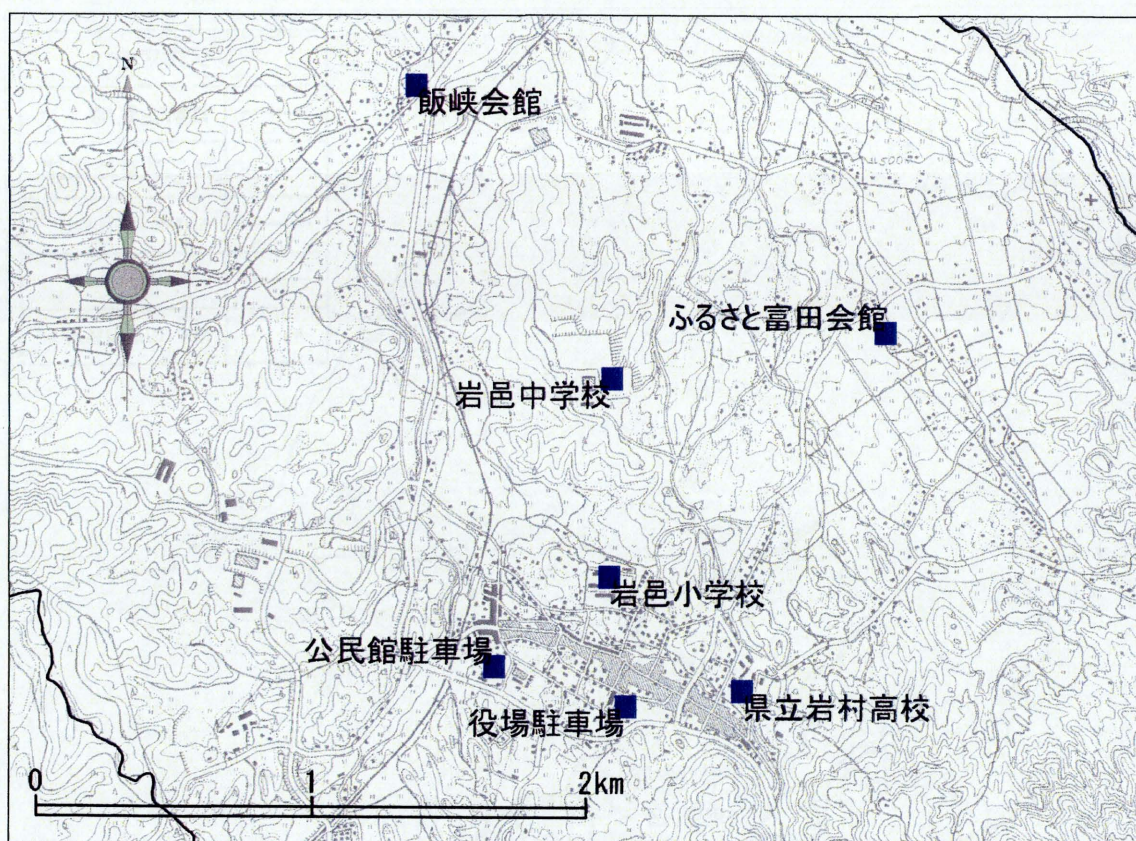


図 6-5 避難場所

3) 防火水槽・消火栓

岩村町役場の資料により、防火水槽の位置を数値情報化した。

表 6-6 避難場所の入力内容

| 地図情報 | 属性 | 備考 |
|------------------|----|-----------------|
| 防火水槽位置 (点データ) | 種別 | 防火水槽 1、2 消火栓 |

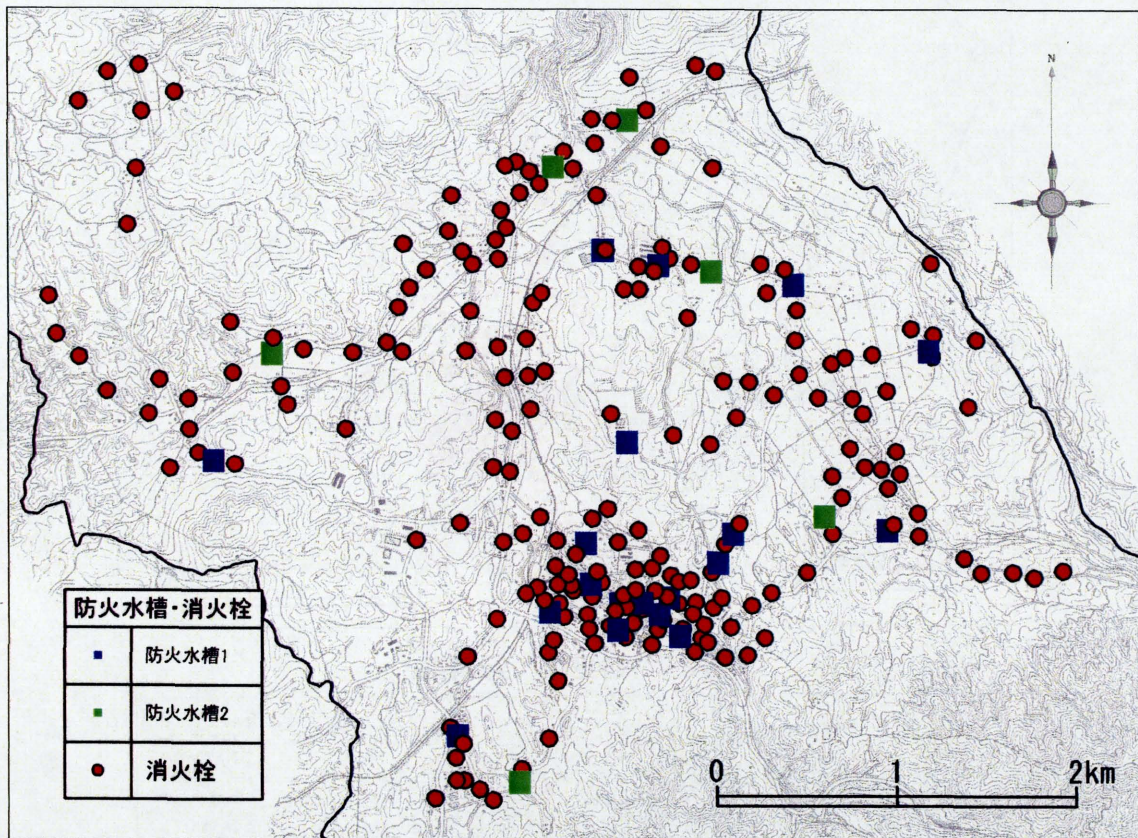


図 6-6 防火水槽・消火栓位置図

4) 防犯灯

岩村町役場の資料により、防犯灯について数値情報化した。

表 6-7 防犯灯の入力内容

| 地図情報 | 属性 | 備考 |
|---------------|------|----------|
| 防犯灯 (点データ) | 管理区分 | 町管理、区管理 |
| | 電柱番号 | 路線及び電柱番号 |

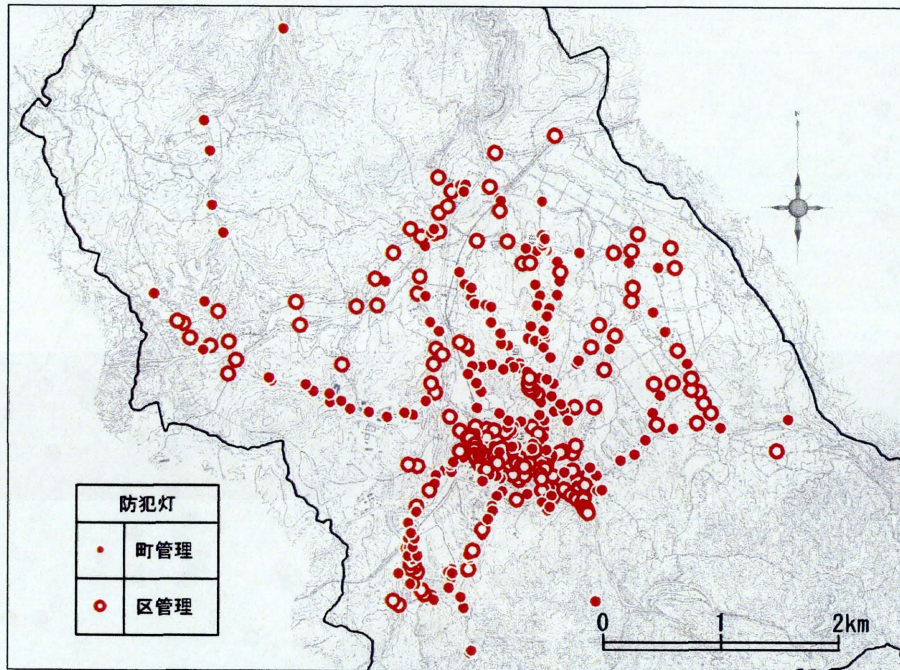


図 6-7 防犯灯 (全体図)

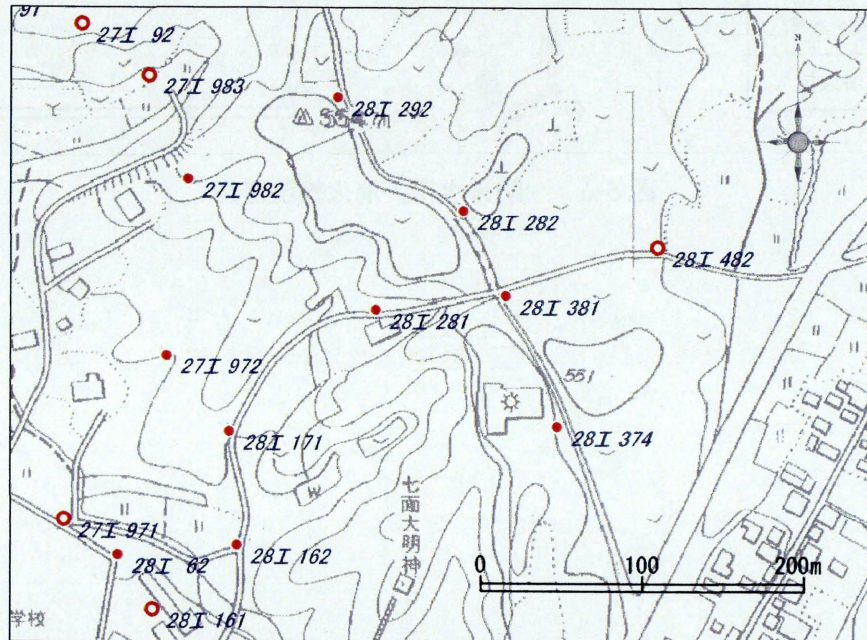


図 6-8 防犯灯 (拡大図)

5) カーブミラー

岩村町役場の資料により、カーブミラー位置を数値情報化した。

表 6-8 カーブミラーの入力内容

| 地図情報 | 属性 | 備考 |
|------------------|----------------|----|
| カーブミラー (点データ) | なし (位置情報のみ) | |

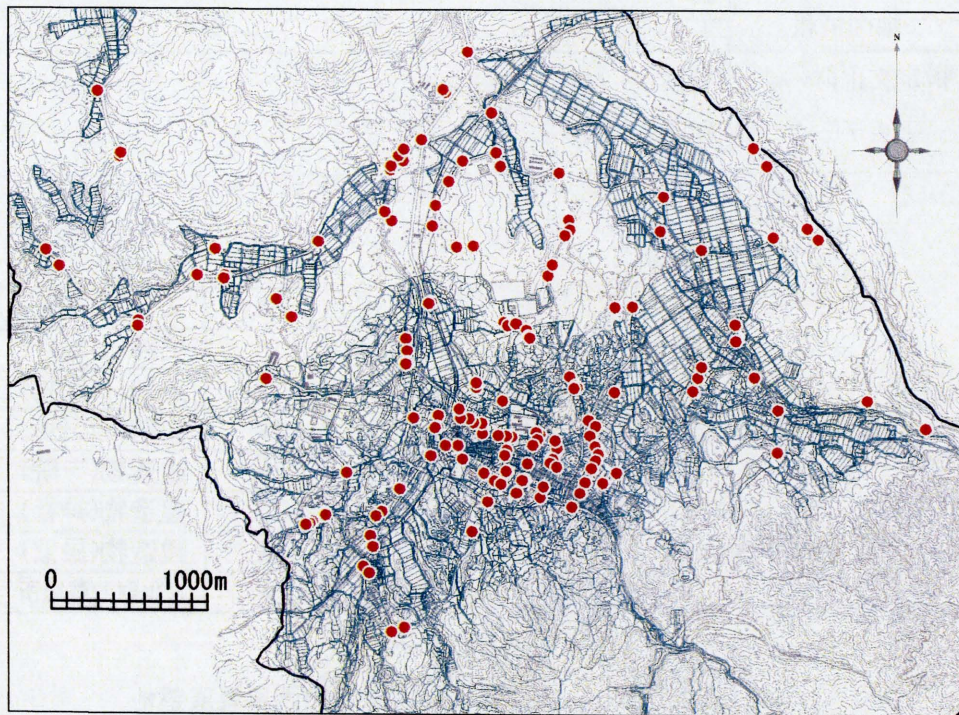


図 6-9 カーブミラー配置 (全体図)



図 6-10 カーブミラー配置 (拡大図)

(3) その他の情報

1) 指定文化財

岩村町役場の資料により、指定文化財の位置を数値情報化した。文化財は天然記念物や史跡など土地に固有のもの、彫刻、絵画など移動可能なものがある。移動可能な文化財は、寺院や資料館などに集中している。そのため、天然記念物、史跡など、土地に固有の指定文化財と、移動可能な文化財の収蔵箇所について整理した。

表 6-9 指定文化財の入力内容

| 地図情報 | 属性 | 備考 |
|-----------------|----------|----|
| 指定文化財 (点データ) | 名称 種別 | |

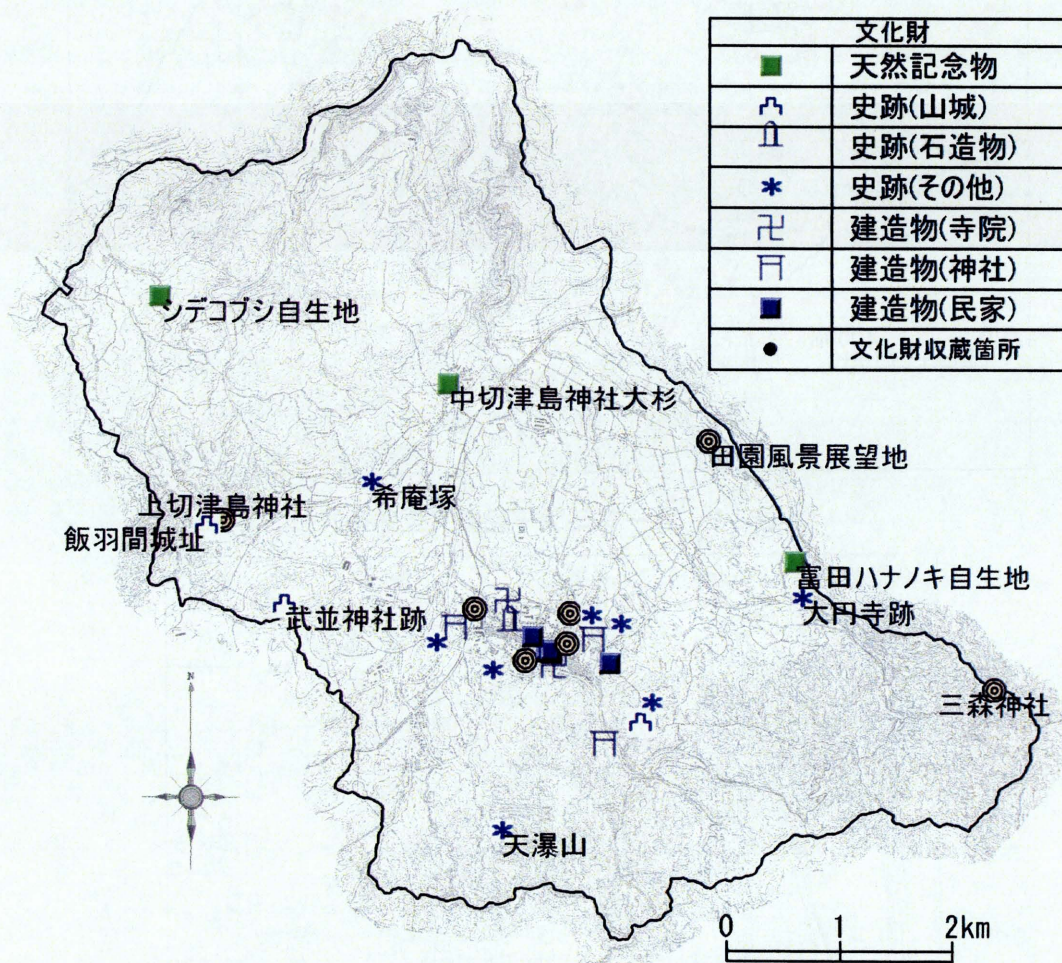


図 6-11 指定文化財位置図 (全体図)

市街地部の名称は図 6-12 参照

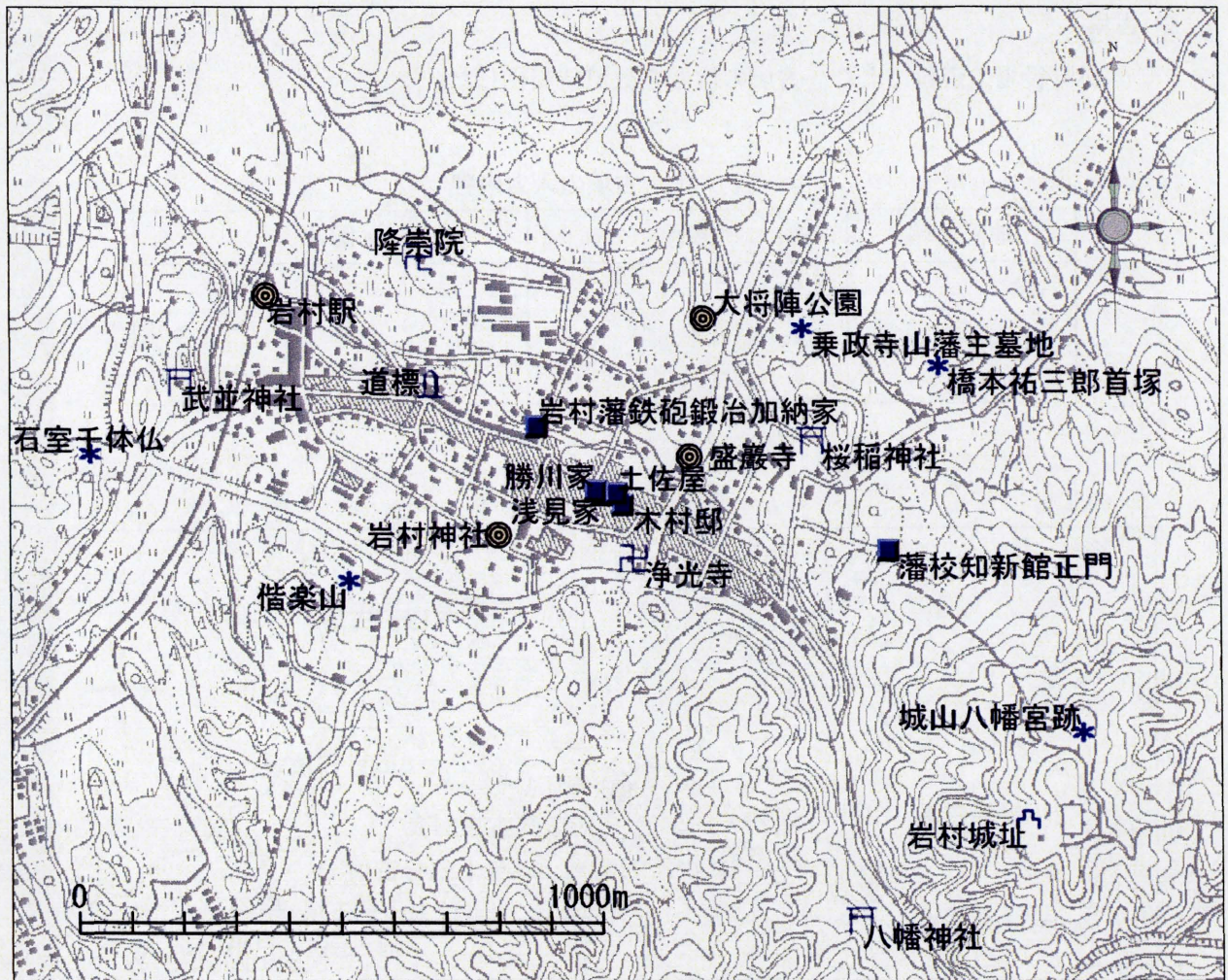


图 6-12 指定文化財位置图 (町中央部)

2) 古墳

岩村町役場の資料により、古墳の位置を数値情報化した。

表 6-10 古墳の入力内容

| 地図情報 | 属性 | 備考 |
|--------------|----------|----|
| 古墳 (点データ) | 番号 名称 | |

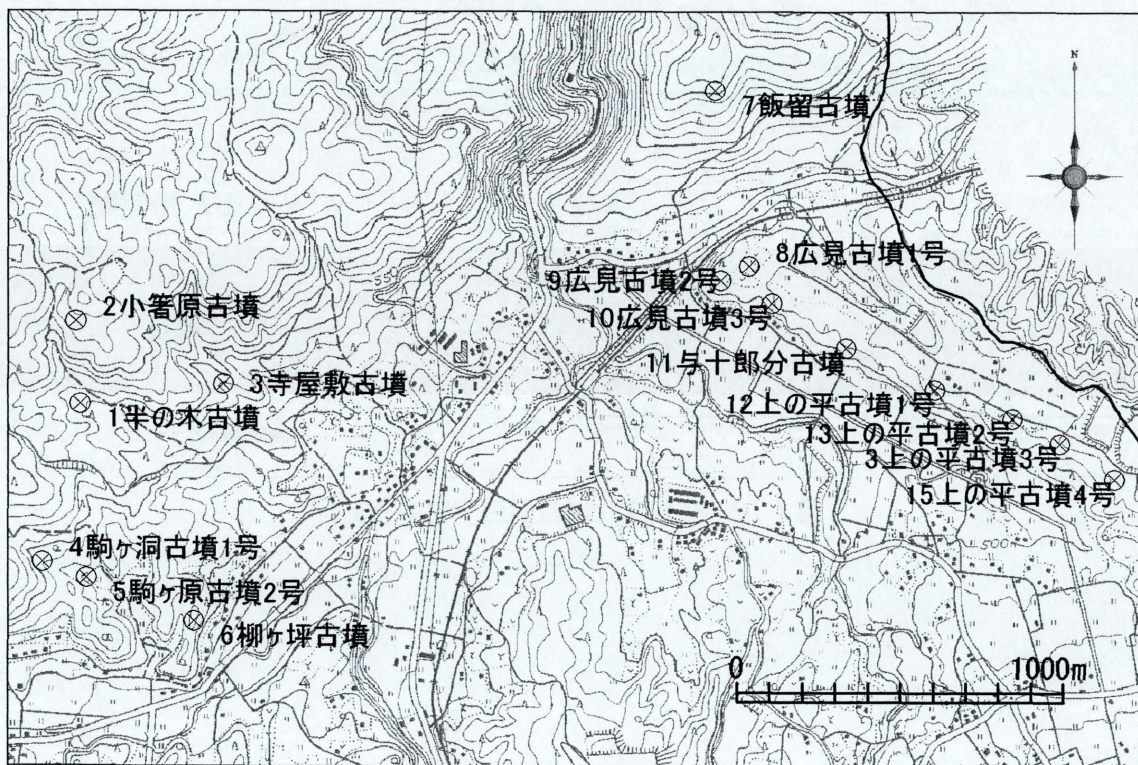


図 6-13 古墳位置図

3) ごみ収集場所

岩村町役場の資料により、ごみ収集場所を数値情報化した。

表 6-11 ごみ収集箇所の入力内容

| 地図情報 | 属性 | 備考 |
|------------------|---------|--------------|
| ごみ収集場所 (点データ) | ボックスの有無 | ボックスの有無による着色 |

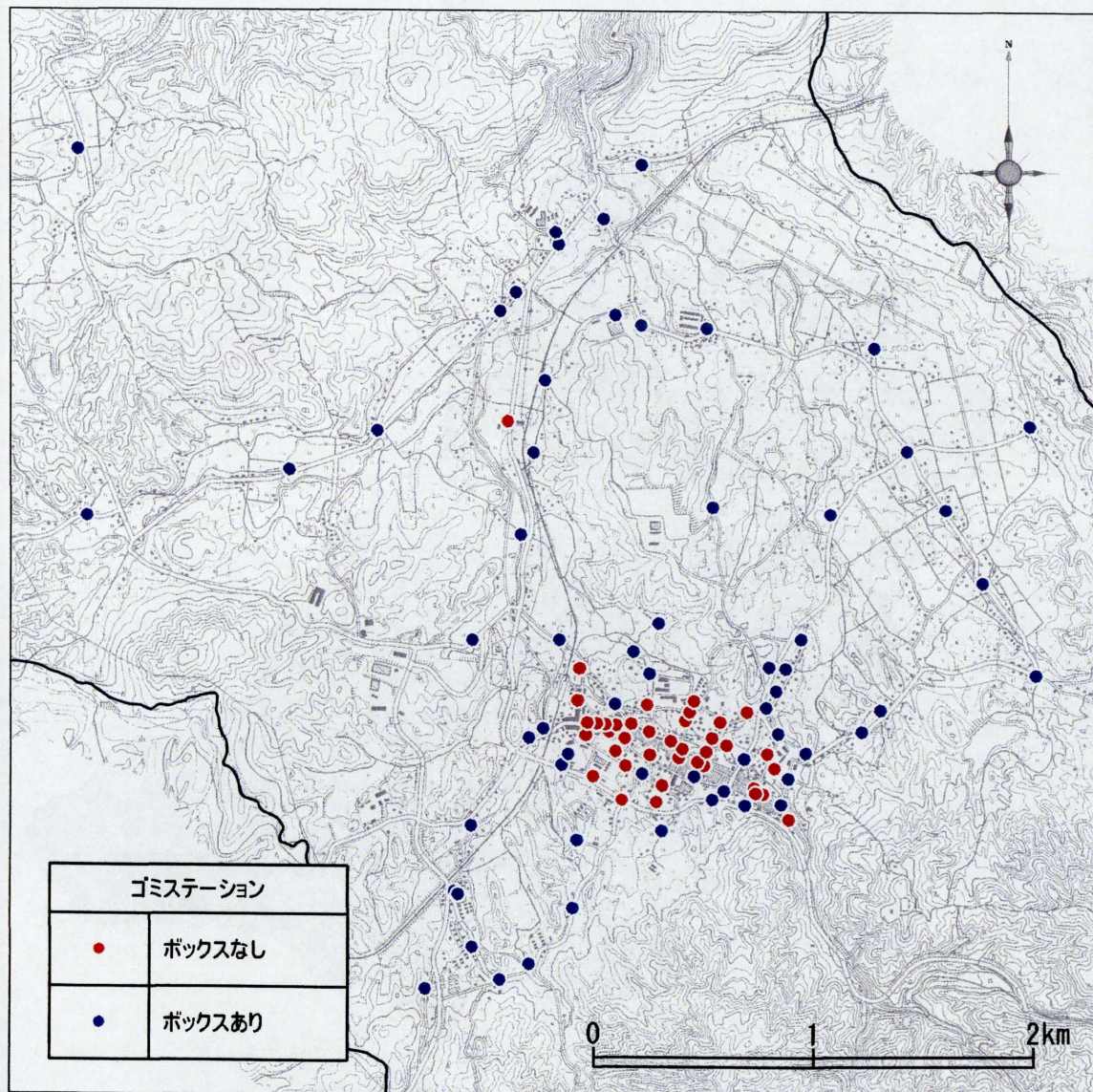


図 6-14 ごみ収集箇所配置図

4) 国土利用計画（土地利用現況図）

「岩村町国土利用計画」（岩村町,2001）より、国土利用計画の土地利用現況図を数値情報化した。

表 6-12 土地利用現況図の入力内容

| 地図情報 | 属性 | 備考 |
|-------------------|--------|--|
| 土地利用現況図 (面データ) | 土地利用状況 | 農用地 森林 水面・河川・水路 道路 宅地 その他 |

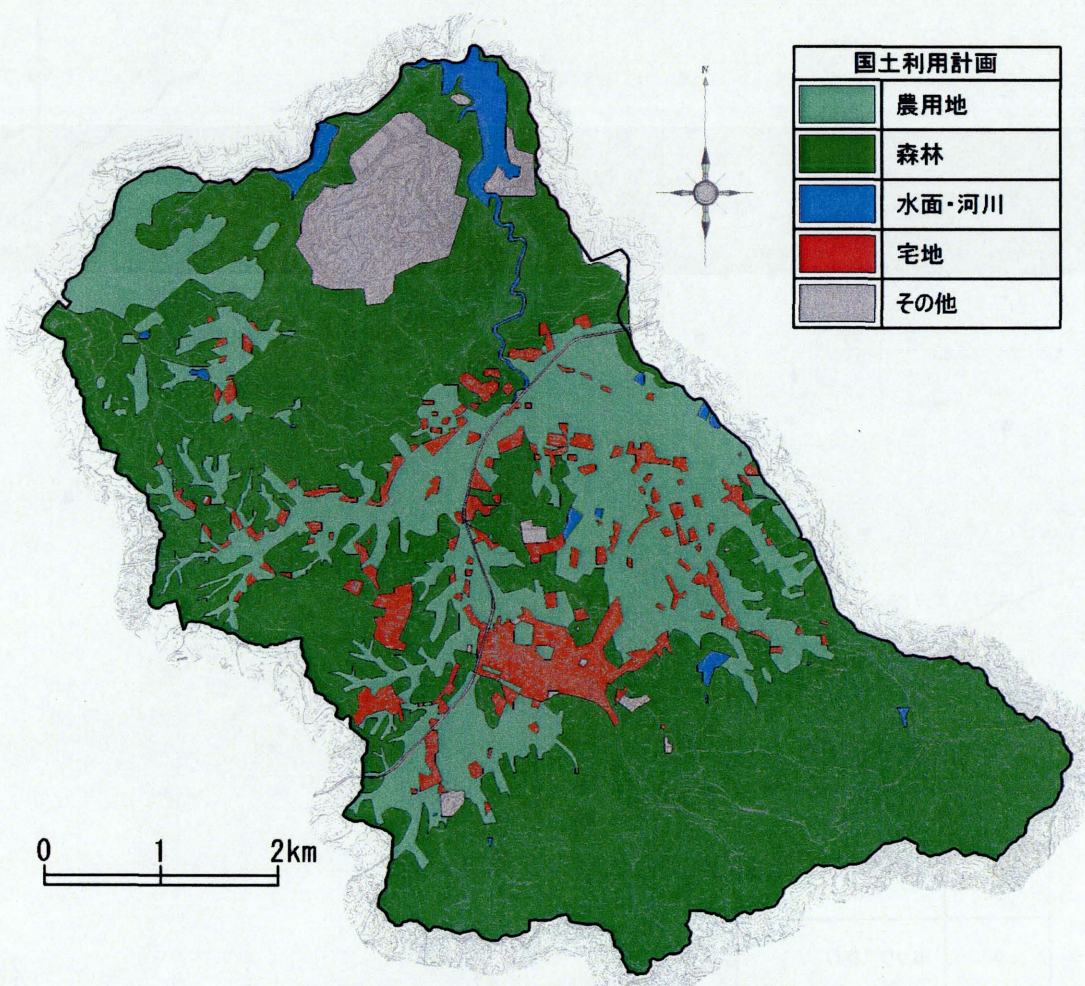


図 6-15 国土利用計画・土地利用現況図

5) 福祉バス

岩村町役場の資料により、福祉バスの停留所を数値情報化した。

表 6-13 福祉バス停留所の入力内容

| 地図情報 | 属性 | 備考 |
|-----------------|----|----|
| バス停留所 (点データ) | 名称 | |

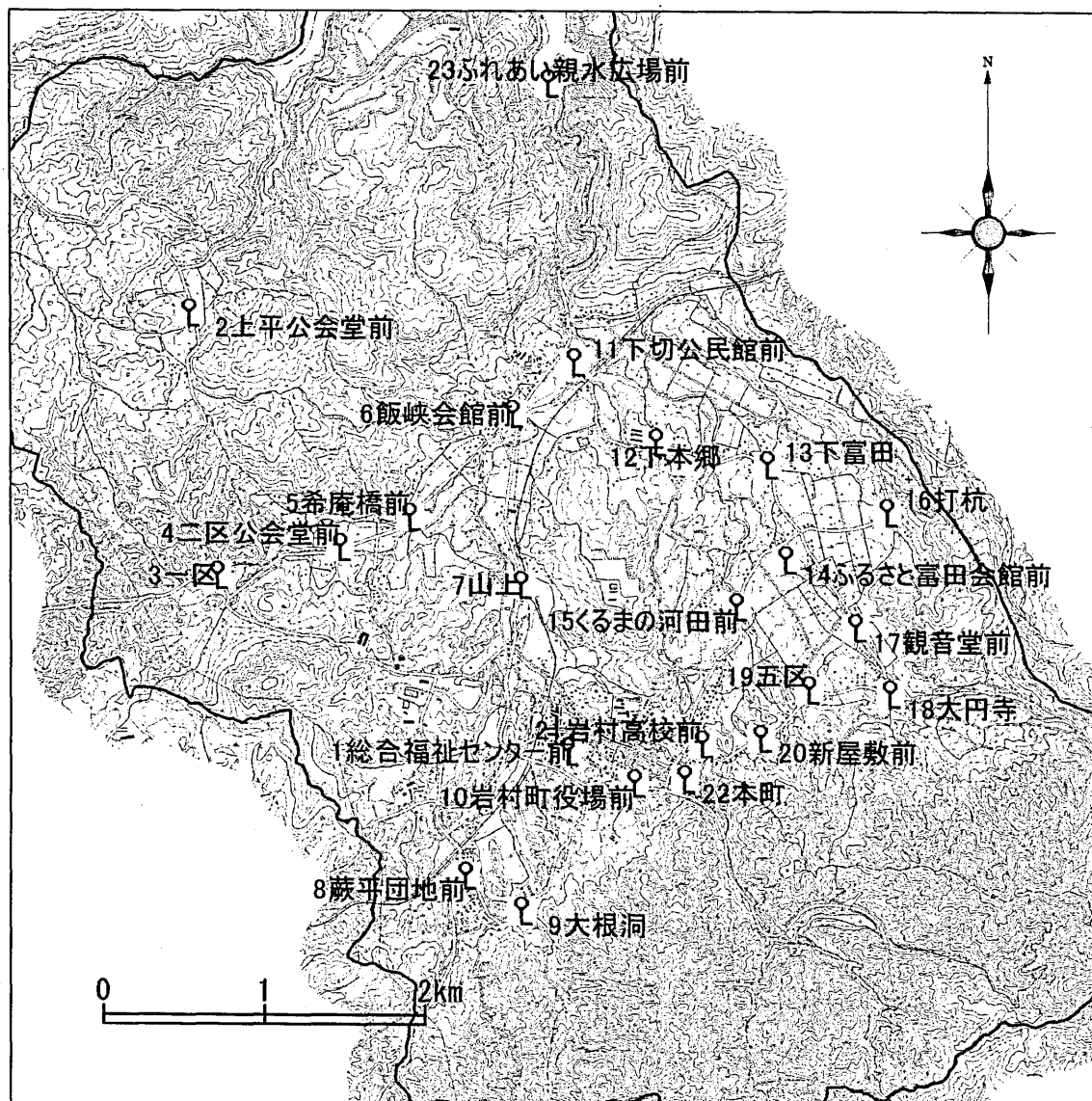


図 6-16 福祉バス停留所位置図

6) 保育園送迎バス

岩村町役場の資料により、保育園送迎バスの停留所を数値情報化した。

表 6-14 保育園送迎バス停留所の入力内容

| 地図情報 | 属性 | 備考 |
|-----------------|----|----|
| バス停留所 (点データ) | 名称 | |

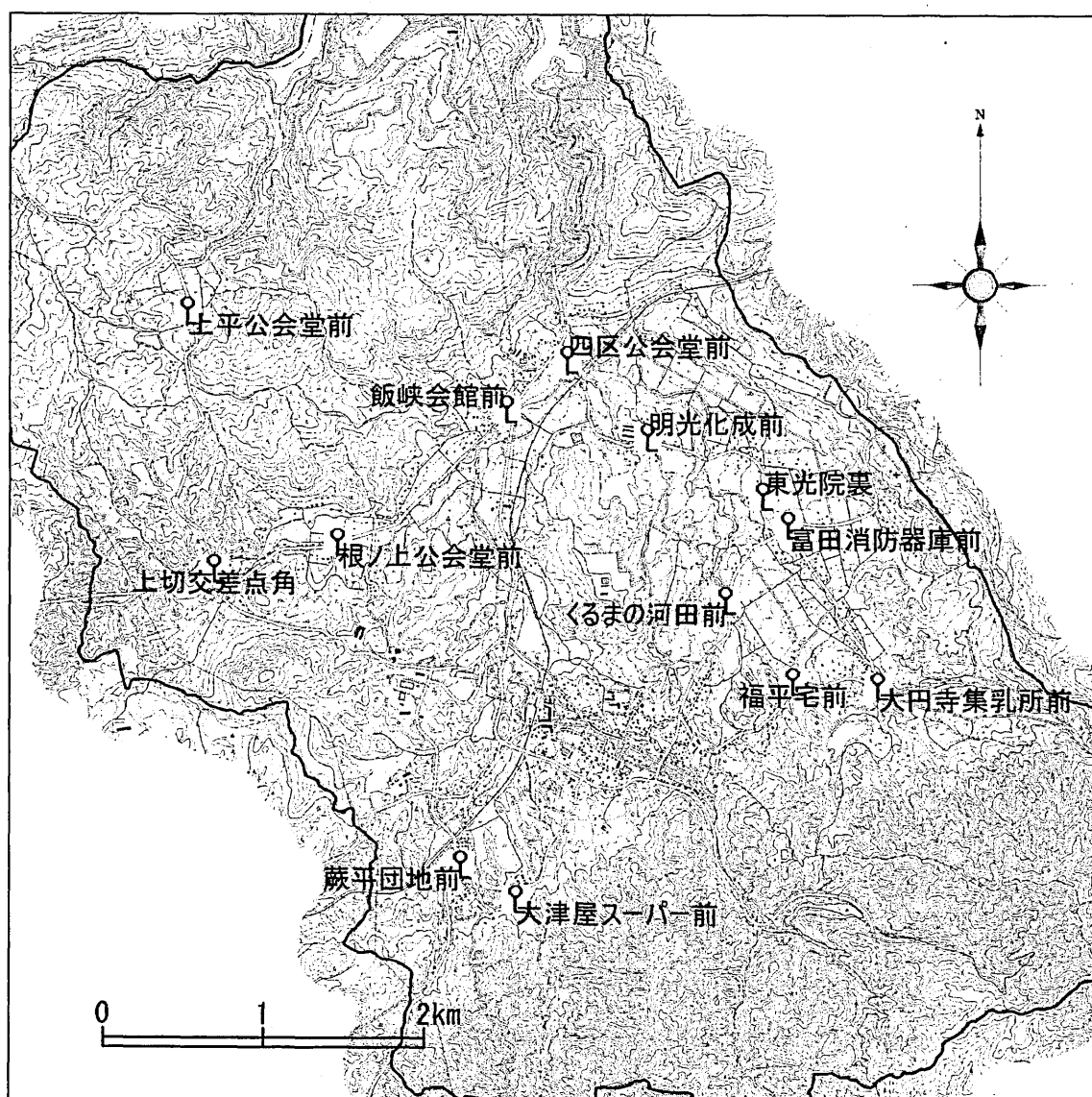


図 6-17 保育園送迎バス停留所位置図

7) 町営住宅

岩村町役場の資料により、町営住宅位置を数値情報化した。

表 6-15 町営住宅位置の入力内容

| 地図情報 | 属性 | 備考 |
|----------------|----|----|
| 町営住宅 (点データ) | 名称 | |

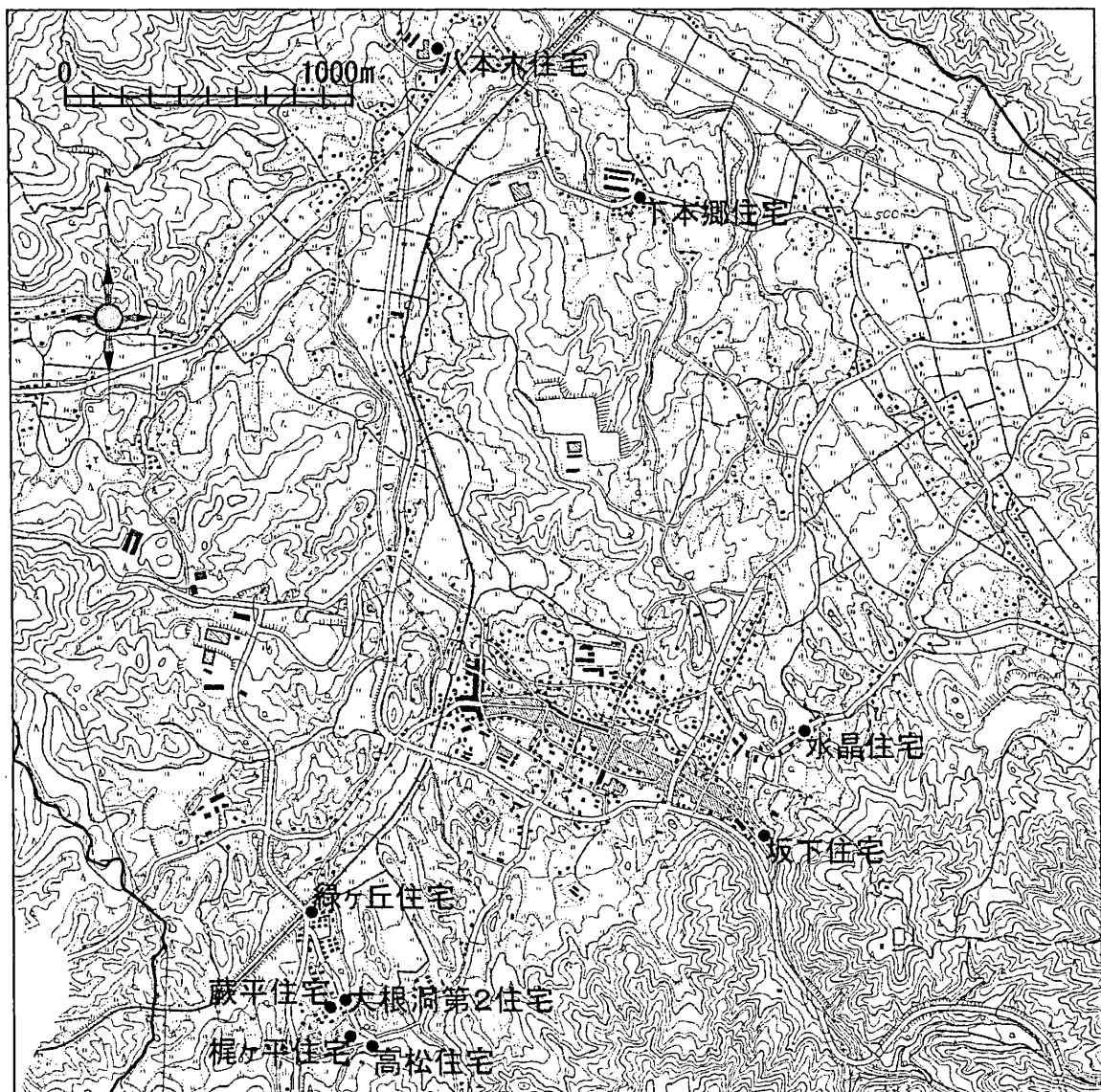


図 6-18 町営住宅位置図

参考文献

○全般

岐阜県(1989) 土地分類基本調査『恵那』

○地形分類調査・表層地質調査

山下昇・鮎野義夫・糸魚川淳二編(1988) 日本の地質 5 中部地方Ⅱ. 共立出版.

氏原温・細山光也・齋藤毅・柴田浩治・伊奈治行・山岡雅俊・若松尚則・柴田律子・柴田博(1992)
岐阜県岩村盆地の中新統の層序及び古地理. 瑞浪市化石博物館研究報告, No.19, pp.33-55.

木村敏之・奥村好次・岩村町教育委員会(2000) 岐阜県の中新統岩村層群より産出したヒゲ鯨類化石とその採餌機構. 瑞浪市化石博物館研究報告, No.27 pp.1-12.

有井琢磨(1958) 岐阜県岩村町付近の断層地形. 新地理, 7, 110~120.

活断層研究会編(1980) 日本の活断層—分布図と資料. 東京大学出版会.

活断層研究会編(1991) 新編 日本の活断層—分布図と資料. 東京大学出版会.

中田高・今泉俊文編(2002) 活断層詳細デジタルマップ. 東京大学出版会.

岐阜県地域県民部防災危機管理室(2002) 平成 13 年度 屏風山・恵那山断層帯に関する調査. (地震関係基礎調査交付金による活断層調査)

木宮一邦(1975) 花こう岩類の物理的風化指標としての引張強度—花こう岩の風化・第 1 報—. 地質学雑誌, vol.81, No.6, pp.349-364.

木宮一邦(1981) 三河高原の風化殻とその形成時期—花崗岩の風化・第 3 報—. 地質学雑誌, vol.87, No.2, pp.91-102.

森山昭雄(1987) 木曾川・矢作川流域の地形と地殻変動. 地理学評論, 60A, No.2, pp.67-92.

○土壌調査

岐阜県農業試験場(1963) 昭和 37 年度畑地土壌調査成績書

岐阜県農業試験場(1969) 水田及び畑地土壌生産性分級図 岐阜県恵那地域(東濃)(岩村町、山岡町、明智町、串原村、上矢作町).

経済企画庁国土調査課(1970) 縮尺 20 万分の 1 土地分類図のための調査要領.

農耕地土壌分類委員会(1995) 農耕地の土壌分類 第 3 次改訂版. 農業環境技術研究所資料, 第 17 号, 79p.

林業試験場土じょう部(1976) 林野土壌の分類(1975). 林業試験場研究報告, No.280, pp.1-28.

日本ペドロジー学会第四次土壌分類・命名委員会(2003) 日本の統一的土壌分類体系—第二次案(2002)—, 博友社.

○土地保全調査

岐阜地方気象台編(1965) 岐阜県災異誌.

岐阜新聞社出版局編(1998) 特集と年表でつづる岐阜県災害史. 岐阜県, 191p.

岩村町(1948～) 広報いわむら(公民館報含む). 災害関連記事など

上矢作町役場企画課編(2001) 2000.9.12 恵南豪雨災害記録誌. 上矢作町, 111p.

宇佐美龍夫(1996) 新編日本被害地震総覧 [増補改訂版 416-1995]. 東京大学出版会, 493p.

岐阜県地域県民部防災危機管理室(2002) 平成13年度 屏風山・恵那山断層帯に関する調査. (地震
関係基礎調査交付金による活断層調査)

岩村町(2000) 岩村町地域防災計画.

岩村町(1961) 岩村町史.

○土地利用現況調査

岐阜県森林課 森林計画図・森林簿

岩村町(2000) 岩村町地域防災計画

岩村町(2001) 国土利用計画

岩村町(関係各課) 各種資料.

資料 1 土地分類調査関係資料

- ・岩村町土地分類調査（細部調査）作業規程
- ・岩村町土地分類細部調査委員会要綱
- ・調査委員会名簿

岩村町土地分類調査（細部調査）作業規程

国土調査法（昭和26年法律第180号。以下「法」という。）第6条第2項の規定に基づき、岩村町土地分類調査作業規程を次の通り定める。

（目的）

第1条 岩村町において実施する法第2条第3項に規定する土地分類調査に関する作業は、この規程の定めるところによる。

（土地分類調査の内容）

第2条 土地分類調査においては、当該土地をその利用の可能性により分類する目的をもって土地利用現況調査及び土地条件調査、土地保全調査、土地生産力調査並びに土地利用適正診断調査を行い、その結果を地図及び簿冊に作成するものとする。

（土地分類調査の作業）

第3条 土地分類調査の作業は、準備作業、現地作業、分析作業及び整理作業とする。

（準備作業）

第4条 準備作業とは、調査計画の作成、既存資料の収集整理及び基図の作成を行う作業をいう。

その2 前項の基図は、法第2条第5項に規定する地図、当該地図に基づいて作成された縮尺2,500分の1、5,000分の1若しくは10,000分の1の地図、又はこれに準ずる地図とする。

これらの地図を基図とする場合には、当該地図に国土調査施行令（昭和27年政令第59号）別表第1に掲げる地域ごとに定められた座標原点から距離を図上に500m方眼で明示するものとする。

（実施計画）

第5条 調査の効率的実施を図るため、調査の各作業について、それぞれ調査担当区分、所要労務及び資材、実施期間等に関する実施計画を作成するものとする。

（資料の収集整理）

第6条 岩村町は、調査の的確化と効率的な実施を期するため、調査地域につい

ての土地分類調査に係る既存資料の収集を行うものとする。

(現地調査)

第7条 現地調査とは、現地を踏査し、必要な事項について観察、計測、聞き取り及び試料の採取等を行う作業をいう。

(分析作業)

第8条 分析作業とは、土壌の区分及び生産力の区分に関して、必要な事項を明らかにするため、現地作業において採取された試料について理科学的分析を行う作業をいう。

(整理作業)

第9条 整理作業とは、準備作業、現地作業及び分析作業の結果の整理及び取りまとめを行い、第2条に規定する分類調査について地図及び簿冊を作成する作業をいう。

(調査委員会)

第10条 岩村町は、調査の実施に当たって、調査の効率的かつ円滑な実施を図るため、学識経験者及び地域計画専門家等で構成する調査委員会を設ける。

- 2 調査委員会は、調査の企画管理業務を行うほか、調査結果に基づく土地利用上の問題点を分析し、地域総合診断手法の検討を行うものとする。

(土地利用現況調査)

第11条 土地利用現況調査は、当該土地の利用現況により、主要な土地利用形態区分を行うものとする。

- 2 前項の調査のほか、土地利用現況の詳細を明らかにするため、主要な土地利用形態区分の細分及び土地利用の法的規制の状況等についての調査を行うものとする。

(土地条件調査)

第12条 土地条件調査は、地形、表層地質及び土壌調査を行うものとする。

- 2 地形調査の調査事項及び調査内容は、地形調査作業規程準則（昭和29年総理府令第50号）に準じて行うものとする。
- 3 表層地質及び土壌調査の調査事例及び調査内容は、表層地質調査作

業規程準則（昭和29年総理府令第65号）及び土壌調査作業規程準則（昭和30年総理府令第3号）に準じて行うものとする。

（土地保全調査）

第13条 土地保全調査は、当該土地の保全の必要性を明らかにするため、災害の状況及び保全すべき自然環境や文化財の状況について行うものとする。

（土地利用適正診断調査）

第14条 土地利用適正診断調査は、第11条から第14条の調査を解析し、現在の土地利用の適性と今後の土地利用の可能性等について総合的に診断を行うものとする。

（調査結果の取りまとめ）

第15条 調査の結果は、地図及び簿冊として、とりまとめるものとする。

（地図の作成）

第16条 地図は次の地図を作成するものとし、表示及び彩色は土地分類調査に準じて行う。

- （1）土地利用現況図
- （2）土地条件区分図
- （3）土地保全図
- （4）土地利用適正診断図

（土地利用現況図）

第17条 土地利用現況調査の第11条第1項に規定する調査結果は、土地利用形態別に整理区分し、これを整理基図に転記して土地利用現況図を作成するものとする。

（土地条件区分図）

第18条 土地条件調査の第12条に規定する調査結果は、地形、表層地質及び土壌のそれぞれについて、ほぼ同一の種類別に整理区分し、これを整理基図に転記して土地条件区分図を作成するものとする。

（土地保全図）

第19条 土地保全調査の第13条に規定する調査結果は、調査項目それぞれについて、同一の調査事項別に整理区分し、これを整理基図に転記

して土地保全図及び自然環境保全図を作成するものとする。

(土地利用適正診断図)

第20条 土地利用適正診断調査の第15条に規定する調査結果は、土地利用現況図、土地条件区分図、土地保全図、土地生産力等級区分図から土地の利用の可能性について総合診断を行い、これを整理基図に転記して、地域総合診断図を作成するものとする。

(土地分類調査簿)

第21条 土地分類調査簿は、調査単位ごとに調査結果を整理して取りまとめるものとする。

(土地分類調査説明書)

第22条 地図及び土地分類調査簿に表現出来ない事項を明らかにするとともに、調査結果の活用を図るため、土地利用の適正、可能性並びに土地利用上の問題点と課題等について分析し、これを次の各号に掲げる事項に整理して土地分類調査説明書を作成するものとする。

- (1) 調査地域の概要
- (2) 土地利用の現況
- (3) 自然的土地条件の状況
- (4) 主要災害及び土地保全施設の状況
- (5) 土地利用上の課題と課題
- (6) その他必要な事項

岩村町土地分類細部調査委員会要綱

(設 置)

第 1 条 岩村町土地分類調査を実施するにあたり、調査を円滑に遂行するため岩村町土地分類細部調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(職 務)

第 2 条 委員会は、次の各項に掲げる事項について、町長の求めに応じて、技術的見地から、研究を行い、その結果を報告する。

- 1 土地分類調査の企画に関すること。
- 2 土地分類調査の管理業務に関すること。
- 3 その他、町長が必要と認めることに関すること。

(組 織)

第 3 条 委員会は、学識経験者及び関係機関の職員、町職員のうちから町長が委嘱する。

- 2 委員会は、委員及び調査委員で構成する。

(任 期)

第 4 条 委員の任期は調査終了までとする。ただし、関係機関の職員、町職員にあってはその職を離れたときは、委員の職を失うものとする。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長をおく。

- 2 委員長は、委員の中から町長が指名する。
- 3 委員長は会議を総理し、会議の議長となる。
- 4 委員長に事故あるときは、委員長に指名された者が職務を代行する。

(会 議)

第 6 条 委員会の会議は、委員長が招集する。

- 2 委員長は、会議を招集するときは、あらかじめ開催日時、場所及び会議に付す議題を、委員会に通知するものとする。
- 3 委員長は、必要があると認めたときは、会議に関係職員を出席させ、議題の説明及び資料の提出を求めることが出来る。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、岩村町総務課に置いて行う。

附 則

この要綱は、平成13年9月20日から施行する。

調査委員会名簿

| 担当 | 氏名 | 所属 | 備考 |
|------|-------|-------------------------------|-----------|
| 委員長 | 小井土由光 | 岐阜大学教育学部 教授 | 平成13～16年度 |
| 委員 | 関根 清 | 岐阜大学名誉教授 | 平成13～16年度 |
| | 木村 正信 | 岐阜大学応用生物科学部 助教授 | 平成13～16年度 |
| | 花田 美晴 | 岩村町 助役 | 平成13～16年度 |
| | 湯佐 泰久 | 核燃料サイクル開発機構 東濃地科学センター 研究主席 | 平成13～14年度 |
| | 武田 精悦 | 核燃料サイクル開発機構 東濃地科学センター 副所長 | 平成15～16年度 |
| | 渡邊 仁志 | 岐阜県森林科学研究所育林研究部 主任研究員 | 平成13～16年度 |
| | 小林 忠彦 | 岐阜県農業技術研究所環境部 部長 | 平成13～14年度 |
| | 平 正博 | 岐阜県農業技術研究所環境部 部長 | 平成15年度 |
| | 矢野 秀治 | 岐阜県農業技術研究所環境部 部長 | 平成16年度 |
| 指導助言 | 杉山 正憲 | 国土交通省土地・水資源局 国土調査課 専門調査官 | 平成13年度 |
| | 中江 訓 | 国土交通省土地・水資源局 国土調査課 (併任) | 平成13～14年度 |
| | 菱山 剛秀 | 国土交通省土地・水資源局 国土調査課 専門調査官 | 平成14～15年度 |
| | 小野塚良三 | 国土交通省土地・水資源局 国土調査課 専門調査官 | 平成16年度 |
| | 内藤 公男 | 岐阜県地域計画局 土地対策室長 | 平成13～14年度 |
| | 大場 一郎 | 岐阜県地域県民部 土地対策室長 | 平成15～16年度 |
| | 大重隆太郎 | 岐阜県地域計画局 土地対策室 技術主査 | 平成13年度 |
| | 原 栄作 | 岐阜県地域計画局 土地対策室 主任技師 | 平成13年度 |
| | 森岡 哲矢 | 岐阜県地域県民部 土地対策室 主任技師 | 平成14～16年度 |

| 担当 | 氏名 | 所属 | 備考 |
|------|-----------------|---------------------|-----------|
| 調査委員 | 安藤 敏郎 | 岩村町 総務課長（調査班長） | 平成13～16年度 |
| | 三園 了三 | 岩村町 企画商工観光課長・企画情報課長 | 平成13～16年度 |
| | 河合 成俊 | 岩村町 農林課長・産業振興課長 | 平成13～16年度 |
| | 大島 正己 | 岩村町 健康福祉課長 | 平成15～16年度 |
| | 柴田 正樹 | 岩村町 上下水道課長 | 平成13～14年度 |
| | 成瀬 博章 | 岩村町 建設課長・基盤整備課長 | 平成13～16年度 |
| | 後藤 典正 | 岩村町 教育課長 | 平成13～16年度 |
| | 丸山 早苗 | 岩村町 住民課長 | 平成13～16年度 |
| 事務局 | 岩村町役場 総務課 地籍調査係 | | |
| 調査機関 | 社団法人 全国国土調査協会 | | |

資料 2 土壤断面調査票

土壤断面調査票

調査番号

No. 1

地形・標高

平坦地

日時 H15.10.24 16:20

調査地点

新柱

傾斜・方向

0°

天候 晴

土壌型・母材

(国土) 灰色低地土壌(灰色系)
(統一) 典型褐色沖積土

植生

大豆(緑肥?)

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|-------------------|------|------|----|---------------------|----------------|----------------|----|----|----|----|----|
| 0cm Ap | 2.5Y3/3 暗オリーブ褐 | SiCL | 亜角塊 | 含む | なし | あり | 14 14 15 | | 半湿 | 含む | | |
| 13 A | 2.5Y3/3 暗オリーブ褐 | CL | 弱亜角塊 | 含む | なし | あり | 18 20 16 | | 半湿 | あり | | |
| 17 C | 2.5Y4/1 黄灰 | SiL | 亜角塊 | あり | Fe系根状 Fe膜状 含む | 含む (風化礫が多い) | 17 20 19 | | 半乾 | なし | | |
| 40+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号

No. 2

地形・標高

段丘

日時 H15.10.24 14:45

調査地点

大根洞

傾斜・方向

0°

天候 晴

土壌型・母材

(国土) 褐色低地土壌(細粒質・斑紋なし)
(統一) 典型褐色沖積土

植生

畑(サトイモ、フキ、ウメ他)

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|------------|------------------|------|------|----|----|--------|---------------------|----|----|----|----|-----|
| 0cm Ap1 | 2.5Y4/4 オリーブ褐 | CL | 弱亜角塊 | 含む | なし | 含む(マサ) | 12 9 12 | | 半湿 | 含む | | 旧水田 |
| 14 Ap2 | 2.5Y4/3 オリーブ褐 | SiCL | 弱亜角塊 | 含む | なし | 含む(マサ) | 14 18 16 | | 半湿 | あり | | 旧水田 |
| 25 Bw1 | 7.5YR5/6 明褐 | SiC | 亜角塊 | あり | なし | まれ | 18 17 17 | | 半乾 | なし | | A1- |
| 40 Bw2 | 10YR5/4 にぶい黄褐 | SL | 屑状 | なし | なし | 含む | 20 12 11 7 | | 半湿 | なし | | |
| 50 Bw3 | 7.5YR5/6 明褐 | SiC | 亜角塊 | なし | なし | まれ | 15 12 14 | | 半湿 | なし | | |
| 60+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 3
 調査地点 大根洞
 土壤型・母材 (国土) 細粒灰色低地土壤(灰褐色)
 (統一) 典型褐色沖積土

地形・標高 平坦地
 傾斜・方向 0°
 植 生 水田

日 時 H15.10.24 15:45
 天 候 晴

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|---------------------------------------|-----|------|----|----|----------------------|----------------|----|----|----|----|----|
| 0cm Ap | 10YR2/1 黒 | SC | 壁 | 富む | なし | あり | 8 7 6 | | 湿 | あり | | |
| 17 C1 | 10YR2/1 黒 | SCL | 弱亜角塊 | 含む | なし | 細礫 富む (マサ) | 24 22 25 | | 半湿 | なし | | |
| 32 C2 | 10YR4/4 60% 褐 10YR3/1 40% 黒褐 | SL | 単粒 | あり | なし | 細礫 富む 上3%・下20% | 26 24 23 | | 半湿 | なし | | |
| 38+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 4
 調査地点 瀧頭
 土壤型・母材 (国土) 細粒グライ土壤(強グライ質)
 (統一) 典型灰色沖積土

地形・標高 平坦地
 傾斜・方向 0°
 植 生 水田

日 時 H15.10.25 16:50
 天 候 曇

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|------------------|-----|-----|----|---------------------|----------|----------------|----|----|----------|----|------|
| 0cm Ap | 2.5Y3/2 黒褐 | LiC | 壁 | 富む | Fe糸根状 あり | なし | 5 7 9 | | 湿 | 細根 富む | | |
| 18 Go1 | 7.5Y3/1 オリーブ黒 | CL | 亜角塊 | 含む | Fe膜状 Fe糸根状 富む | 細礫 あり | 17 15 16 | | 半湿 | あり | | Fe++ |
| 35 Go2 | 7.5Y3/1 オリーブ黒 | SC | 亜角塊 | 含む | Fe膜状 Fe糸根状 含む | 細礫 含む | 13 14 15 | | 半湿 | あり | | Fe++ |
| 45+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 5
 調査地点 塩坪
 土壤型・母材 (国土) 細粒グライ土壤(強グライ質)
 (統一) 典型灰色沖積土

地形・標高 谷底
 傾斜・方向 0°
 植生 水田

日時 H15.10.28 16:00
 天候 曇

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|---------------|-----|-----|----|-------------|------------|----------------|----|----|----------|----|------|
| 0cm Ap | 2.5Y3/2 黒褐 | LiC | 亜角塊 | 富む | なし | 細礫 含む | 8 8 9 | | 湿 | 富む | | Fe- |
| 14 Gr1 | 2.5Y3/1 黒褐 | LiC | 亜角塊 | 含む | Fe糸根状 あり | 細礫 含む | 9 8 10 | | 半湿 | 含む | | Fe++ |
| 23 Gr2 | 2.5Y2/1 黒 | HC | 角塊 | 含む | Fe糸根状 あり | 小~中礫 含む | 17 13 16 | | 半乾 | 細根 あり | | Fe++ |
| 40+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 6
 調査地点 山上
 土壤型・母材 (国土) 細粒グライ土壤(弱グライ質)
 (統一) 典型グライ沖積土

地形・標高 谷の出口
 傾斜・方向 0°
 植生 畑(小麦?) 旧水田

日時 H15.10.29 12:00
 天候 晴

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-------------|---|-----|------|----|--------------------|----------|----------------|----|---------------|----------|----|--------------|
| 0cm Ap | 2.5Y3/1 黒褐 | L | 粒 | 富む | Fe膜状 Fe管状 あり | 細礫 あり | 7 9 12 | | 上: 乾 下: 半乾 | 富む | | 上部 耕耘 |
| 22 Bwgir | 5Y4/1 灰 | LiC | 強亜角塊 | あり | Fe膜状 含む | 細礫 含む | 17 15 16 | | 半湿 | 細根 あり | | Fe± |
| 38 Gr | 5Y2/2(80%) オリープ黒 10GY6/1(20%) 緑灰 | HC | 壁 | あり | Fe糸根状 含む | 細礫 含む | 21 20 17 | | 半湿 | 細根 あり | | 木材埋設 Fe++ |
| 45+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No.7

地形・標高 平坦地

日時 H15.10.27 13:10

調査地点 西分根

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壤型・母材 (国土) 黄色土壤(農地)
(統一) 典型風化変質赤黄色土

植生 休耕地

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|------------------|-----|-----|----|-------------|--------------------|----------------|----|----|----|----|-----|
| 0cm Ap | 10YR5/4 にぶい黄褐 | LiC | 壁 | あり | Fe系根状 あり | なし | 11 14 16 | | 半湿 | 含む | | Al- |
| 13 B | 7.5YR5/8 明褐 | LC | 亜角塊 | なし | なし | 細礫 含む (瑞浪層群) | 19 22 21 | | 半乾 | なし | | Al+ |
| 50+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No.8

地形・標高 台地

日時 H15.10.27 14:00

調査地点 東分根

傾斜・方向 3°

天候 晴

土壤型・母材 (国土) 褐色森林土壤
(統一) 典型黄褐色森林土

植生 クリ畑(シバ)

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|------------------|-----|-----|----|------|-----------|----------------|----|----|----------|----|-------------|
| 0cm A1 | 10YR4/3 にぶい黄褐 | LiC | くず | 含む | なし | なし | 6 5 5 | | 半乾 | 含む | | |
| 4 A2 | 2.5Y5/4 黄褐 | LiC | 亜角塊 | あり | Fe点状 | なし | 13 13 14 | | 半乾 | 中根 あり | | Al- |
| 31 B | 2.5Y6/6 明黄褐 | SiC | 亜角塊 | なし | なし | 小角礫 あり | 11 9 13 | | 半乾 | あり | | Al- |
| 42 RC | 2.5Y7/3 浅黄 | | | なし | Fe被膜 | | 26 25 26 | | | なし | | Al+ 瑞浪層群 |
| 50+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号

No. 9

地形・標高

平坦地

日時 H15.10.27 15:20

調査地点

上野山

傾斜・方向

0°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 厚層黒ボク土壌
(統一) 厚層多腐植質アロフェン黒ボク土

植生

スギ植林

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|----------------|------|---------------|--------|----|----|----------------|----|----|----|----|------|
| 1cm | | | | | | | | | | | | |
| FH | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| A1 | 7.5YR2/1 黒 | SiCL | 弱亜角塊 (上部粒) | すこぶる富む | なし | なし | 13 10 11 | | 半乾 | 富む | | AI++ |
| 12 | | | | | | | | | | | | |
| A2 | 7.5YR2/1 黒 | SiCL | 亜角塊 | すこぶる富む | なし | なし | 20 25 21 | | 半乾 | 含む | | AI++ |
| 38 | | | | | | | | | | | | |
| AB | 7.5YR3/1 黒褐 | SiCL | 亜角塊 | 富む | なし | なし | 23 18 19 | | 半乾 | あり | | AI++ |
| 50 | | | | | | | | | | | | |
| B | 10YR5/6 黄褐 | SiCL | 亜角塊 | なし | なし | なし | 23 13 15 | | 半乾 | あり | | AI++ |
| 55+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号

No. 10

地形・標高

平坦地

日時 H15.10.27 16:10

調査地点

水晶山下

傾斜・方向

0°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 灰色低地土壌(灰色系)
(統一) 典型褐色沖積土

植生

水田

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|----------------|----|------|----|------|----------|----------------|----|----|----|----|-----|
| 0cm | | | | | | | | | | | | |
| Ap | 2.5Y3/2 黒褐 | CL | 弱亜角塊 | 富む | なし | 細礫 あり | 11 11 12 | | 半湿 | 富む | | Fe- |
| 14 | | | | | | | | | | | | |
| C | 2.5Y3/2 黒褐 | L | 亜角塊 | あり | Fe点状 | 細礫 含む | 20 22 24 | | 半乾 | あり | | Fe- |
| 37 | | | | | | | | | | | | |
| CR | 10YR7/6 明黄褐 | LS | なし | なし | なし | | 21 19 20 | | | なし | | |
| 40+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 11

地形・標高 平坦地

日時 H15.10.27 14:40

調査地点 鷹匠

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壤型・母材 (国土) 灰色低地土壤(灰色系)
(統一) 典型褐色沖積土

植生 水田

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|------------------|-----|------|----|----------------------|------------------|----------------|----|----|----|----|---------------|
| 0cm Ap | 5Y4/1 灰 | CL | 弱亜角塊 | 含む | Fe系根状 Fe管状 あり | 細礫 あり | 11 11 12 | | 半湿 | 含む | | Al- Fe- |
| 16 C1 | 5GY3/1 暗オリーブ灰 | LiC | 弱亜角塊 | 含む | Fe系根状 Fe不定形 含む | 細礫 あり | 21 19 20 | | 半乾 | あり | | Al- Fe- |
| 28 C2 | 10YR6/6 明黄褐 | LS | 弱亜角塊 | あり | なし | 細礫 あり (マサ) | 20 21 22 | | 半乾 | なし | | 扇状地 砂層(マサ) |
| 43+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 12

地形・標高 台地

日時 H15.10.28 15:00

調査地点 古市場

傾斜・方向 0°

天候 曇

土壤型・母材 (国土) 黄色土壤(農地)
(統一) 水田化風化変質赤黄色土

植生 水田

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|------------|------------------|------|-----|----|---------------------|----------|----------------|----|----|----------|----|-----|
| 0cm Ap1 | 2.5Y3/1 黒褐 | SiCL | 屑 | 含む | なし | 細礫 あり | 10 10 7 | | 半湿 | 含む | | Fe- |
| 9 Ap2 | 2.5Y3/2 黒褐 | SiL | 亜角塊 | 含む | なし | 細礫 あり | 15 12 14 | | 半乾 | 細根 含む | | Fe- |
| 14 BC | 10YR6/4 にぶい黄橙 | LiC | 亜角塊 | なし | Fe系根状 Fe曇状 あり | 大礫 含む | 16 17 13 | | 半乾 | 細根 あり | | |
| 35+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 13

地形・標高 平地

日時 H15.10.30 8:20

調査地点 上田中

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 粗粒灰色低地土壌(灰色系)
(統一) 典型褐色沖積土

植生 水田

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|---------------------------------------|----|-----|--------|----|----------|----------------|----|----|----------|----|------------|
| 0cm Ap | 2.5Y2/2 黒 | L | 屑 | すこぶる富む | なし | 細礫 あり | 13 16 12 | | 半湿 | 細根 富む | | Al± Fe- |
| 13 C1 | N3/0 暗灰 | SL | 亜角塊 | あり | なし | 細礫 あり | 22 26 20 | | 半乾 | 細根 あり | | Al+ Fe- |
| 50+ | | | | | | | | | | | | 以下検土杖による |
| 60 | | | | | | | | | 半湿 | | | Fe- |
| 80 C2 | 2.5Y4/2 暗灰黄 | SL | | | | | 粗 | | 湿 | | | Fe- |
| 100+ | (10m山側 検土杖) 45cmで下層の2.5Y4/2が 出現 | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 14

地形・標高 台地

日時 H15.10.30 9:40

調査地点 上豊田

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 黄色土壌(農地)
(統一) 典型風化変質赤黄色土

植生 果樹園(リンゴ)

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|----------------|------|-----|----|--|-----------|----------------|----|----|----|----|---------|
| 0cm Ap | 2.5Y3/2 黒褐 | SiCL | 粒 | 富む | なし | なし | 17 18 17 | | 半乾 | 富む | | Al± |
| 5 A | 2.5Y4/2 暗灰黄 | SiCL | 角塊 | 含む | なし | 小礫 あり | 20 23 20 | | 乾 | 含む | | Al+ |
| 16 B | 10YR5/6 黄褐 | LiC | 亜角塊 | あり | 構造表面から 灰色が浸透 ↓ 2.5Y4/2 Fe系根状 | 大角礫 富む | 20 19 22 | | 乾 | なし | | |
| 30+ | | | | | | | | | | | | 下の段は黒ボク |

土壤断面調査票

調査番号 No. 15

地形・標高 平坦地

日時 H15.10.28 9:10

調査地点 廣田

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壤型・母材 (国土) 粗粒灰色低地土壤(灰色系)
(統一) 典型褐色沖積土壌

植生 牧草地

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|----------|----------------|----|-----|----|-------------|-----------------|----------------|----|----|----|----|----|
| 0cm A | 2.5Y3/1 黒褐 | CL | 亜角塊 | 富む | なし | 小礫 含む 中円礫 あり | 17 19 20 | | 半乾 | 富む | | |
| 18 C | 2.5Y4/2 暗灰黄 | SL | 亜角塊 | あり | Fe糸根状 あり | 細礫 富む 大円礫 あり | 30 27 28 | | 半乾 | あり | | |
| 25+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 16

地形・標高 平坦地

日時 H15.10.28 9:45

調査地点 下本郷

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壤型・母材 (国土) 淡色黒ボク土壌
(統一) 淡色アロフエン黒ボク土

植生 牧草地

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|----------|------------------------------------|------|------|--------|----|----|----------------|----|----|----------|----|------|
| 0cm A | 10YR1.7/1 黒 | SiCL | 亜角塊 | すこぶる富む | なし | なし | 18 18 17 | | 半乾 | 小根 富む | | Al++ |
| 13 AB | 10YR2/3 黒褐 | SiCL | 亜角塊 | 富む | なし | なし | 20 21 23 | | 半乾 | あり | | Al++ |
| 25 B | 10YR5/8 黄褐 | SiCL | 弱亜角塊 | なし | なし | なし | 22 20 19 | | 半乾 | なし | | Al+ |
| 55+ | (下本郷-2) 水田 淡色黒ボク土壌 A層 Al+ | | | | | | | | | | | |
| | B層 Al+ | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 17

地形・標高 谷底

日時 H15.10.28 14:00

調査地点 分根

傾斜・方向 0°

天候 曇

土壌型・母材 (国土) 細粒灰色低地土壌(灰色系)
(統一) 典型褐色沖積土

植生 水田

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|----------------------|----------------|-----|-----|----|------------------------------|--------------------------|----------------|----|----|----------|----|----------|
| 0cm Ap | 5Y4/1 灰オリーブ | SiL | 亜角塊 | 含む | Fe膜状 Fe系根状 Fe不定形 含む | なし | 8 11 10 | | 半湿 | 細根 含む | | Fe± |
| 14 Bwgir | 10YR3/1 黒褐 | SiC | 角塊 | 含む | Fe膜状 Fe系根状 含む | 細礫 あり | 18 20 18 | | 半乾 | 細根 あり | | Fe- |
| 36 BC | 10YR4/1 褐灰 | HC | 角塊 | あり | Fe系根状 含む | 中礫 含む (瑞浪層群角 礫) | 14 17 15 | | 半乾 | あり | | Fe- |
| 40+ | | | | | | | | | | | | 以下検土杖による |
| 55 5Y3/1 オリーブ黒 | | HC | | | | | | | 半湿 | | | Fe+++ |
| 90+ | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 18

地形・標高 平坦地

日時 H15.10.28 8:25

調査地点 蔵前

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 細粒グライ土壌(強グライ質)
(統一) 典型灰色沖積土

植生 水田

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|---------------------|---------------|-----|-----|----|------------------------------|------------------|----------------|----|----|----------|----|----------|
| 0cm Ap | 2.5Y3/2 黒褐 | SiC | 屑 | 含む | Fe系根状 あり | なし | 3 5 8 | | 半湿 | 含む | | 耕耘 |
| 17 Go1 | 10YR2/1 黒 | LiC | 亜角塊 | 含む | Fe系根状 Fe管状 Fe不定形 含む | 細礫 あり | 18 17 16 | | 半乾 | 細根 あり | | Fe++ |
| 35 Go2 | 5Y2/1 黒 | L | 亜角塊 | 含む | Fe系根状 あり | 細礫 含む (マサ) | 16 14 17 | | 半乾 | あり | | Fe++ |
| 55+ | | | | | | | | | | | | 以下検土杖による |
| 65 5Y5/1 灰 | | LS | | | | なし | | | 半湿 | | | Fe++ |
| 75 2.5Y3/2 黒褐 | | LiC | | | | なし | | | 半湿 | | | Fe++ |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 19

地形・標高 崖錐

日時 H15.10.28 11:50

調査地点 八本木

傾斜・方向 0°

天候 曇(雨)

土壌型・母材 (国土) 細粒グライ土壌(強グライ質)
(統一) 典型褐色沖積土

植生 水田

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|----------------|-----|-----|----|-------------|--------------|----------------|----|----|----------|----|-------|
| 0cm Ap | 2.5Y5/2 暗灰黄 | SIC | 壁 | 含む | なし | なし | 2 4 4 | | 湿 | 富む | | Fe- |
| 4 ApG | 5Y4/1 灰 | SCL | 壁 | 含む | なし | 細礫 含む | 6 5 9 | | 多湿 | 細根 富む | | Fe++ |
| 18 Gr1 | 2.5Y4/2 暗灰黄 | SCL | 亜角塊 | 含む | Fe系根状 あり | 細礫あり 中礫あり | 19 14 19 | | 半乾 | あり | | Fe++ |
| 25 Gr2 | 10YR3/1 黒褐 | SCL | 角塊 | 含む | Fe系根状 あり | 小・中礫 含む | 26 23 21 | | 半乾 | 細根 あり | | Fe+++ |
| 30+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 20

地形・標高 平坦地

日時 H15.10.28 11:00

調査地点 箕輪

傾斜・方向 0°

天候 曇(雨)

土壌型・母材 (国土) 細粒グライ土壌(強グライ質)
(統一) 典型灰色沖積土

植生 水田

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|----------------|------|-----|----|-------------|----------|----------------|----|----|--------------|----|-------------------|
| 0cm Ap | 2.5Y3/2 黒褐 | CL | 壁 | 富む | Fe系根状 あり | 細礫 あり | 5 3 4 | | 湿 | 細根 すこぶる富む | | Fe± |
| 18 Gr1 | 5Y2/2 オリーブ黒 | CL | 亜角塊 | 富む | なし | 細礫 あり | 12 16 17 | | 半湿 | 細根 含む | | Fe+++ |
| 30 Gr2 | 2.5Y3/2 黒褐 | SiCL | 亜角塊 | 含む | なし | 中礫 あり | 11 13 13 | | 半湿 | 細根 含む | | Fe+++ 50cm木材埋設 |
| 50+ | | | | | | | | | | | | 以下検土杖による |
| 55 | 2.5Y3/1 黒褐 | SC | | 富む | | なし | | | 湿 | | | Fe+++ |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 21

地形・標高 平坦地

日時 H15.10.28 13:20

調査地点 土取

傾斜・方向 0°

天候 曇

土壌型・母材 (国土) 褐色低地土壌(細粒質・斑紋あり)
(統一) 典型褐色沖積土

植生 水田

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-------------------------|-----------------|-----|------|----|---------------------|----------------|----------------|----|----|----------|----|-----|
| 0cm Ap _g | 2.5Y4/2 暗灰黄 | CL | 弱亜角塊 | 含心 | Fe膜状 あり | なし | 9 8 6 | | 半湿 | 細根 富心 | | Fe- |
| 15 Bw _{gir} | 2.5Y6/4 にぶい黄 | LIC | 壁 | あり | Fe系根状 Fe膜状 含む | 細礫 中礫 あり | 20 18 15 | | 半乾 | あり | | |
| 27 C _g | 2.5Y5/1 黄灰 | SC | 角塊 | なし | Fe系根状 含む | 中角礫 含む | 18 15 19 | | 半湿 | あり | | |
| 35+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 22

地形・標高 平坦地

日時 H15.10.26 11:40

調査地点 柳ヶ坪

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 細粒灰色低地土壌(灰色系)
(統一) 典型灰色沖積土

植生 水田

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|----------------------|------------------|-----|-----|----|---------------|----------|----------------|----|----|----|----|------------|
| 0cm Ap | 7.5Y3/1 オリーブ黒 | SiC | 壁 | 富心 | なし | なし | 9 6 8 | | 湿 | 富心 | | Fe- |
| 15 C _g | 5BG1.7/1 青黒 | LIC | 亜角塊 | 富心 | Fe系根状 Fe膜状 | 細礫 あり | 16 14 21 | | 半湿 | あり | | Fe+ Mn- |
| 40+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 23

地形・標高 沖積錐

日時 H15.10.30 11:50

調査地点 寺洞

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 細粒グライ土壌(強グライ質)
(統一) 典型グライ沖積土

植生 休耕田(メヒシバ多)

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|-----------------|------|-----|----|----------------------|----------------|--------------------|----|----|----------|----|----------|
| 0cm Ap | 5Y3/1 オリーブ黒 | CL | 屑 | 富む | Fe糸根状 あり | なし | 14 6 12 8 | | 半湿 | 細根 富む | | Fe- |
| 11 Go1 | 5Y3/1 オリーブ黒 | SiCL | 壁 | 含む | Fe糸根状 Fe不定形 あり | なし | 13 11 8 | | 半湿 | あり | | Fe+++ |
| 20 Go2 | 2.5Y4/1 黄灰 | SiCL | 亜角塊 | あり | Fe糸根状 あり | 小礫 中礫 あり | 18 15 14 | | 半湿 | あり | | Fe+++ |
| 31 Gr | 10Y3/1 オリーブ黒 | SiC | 亜角塊 | あり | なし | 大礫 含む | 17 15 16 | | 湿 | なし | | Fe+++ |
| 50+ | | | | | | | | | | | | 以下検土杖による |
| 100+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 24

地形・標高 平坦地

日時 H15.10.26 14:50

調査地点 森下

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 細粒グライ土壌(強グライ質)
(統一) 典型グライ沖積土

植生 水田

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|-----------------|-----|-----|--------|---------------------|--------------|----------------|----|----|----|----|------|
| 0cm Ap | 5Y2/2 オリーブ黒 | LiC | 壁 | すこぶる富む | Fe糸根状 あり | なし | 8 8 9 | | 湿 | 富む | | Fe± |
| 15 Go | 10Y3/1 オリーブ黒 | HC | 亜角塊 | 富む | Fe膜状 Fe糸根状 富む | 小円礫 まれにあり | 17 14 14 | | 半湿 | あり | | Fe++ |
| 50+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 25

地形・標高 平坦地

日時 H15.10.26 15:30

調査地点 寺洞

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 細粒グライ土壌(強グライ質)
(統一) 典型グライ沖積土

植生 水田

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|------------------------|-----------------|----|-----|----|---------------------|------------|----------------|----|----|----|----|------|
| 0cm Ap _g | 10Y3/1 オリーブ黒 | HC | 壁 | 富む | Fe膜状 Fe系根状 あり | なし | 9 7 7 | | 湿 | 富む | | Fe- |
| 16 40+ Go | 10BG1.7/1 青黒 | HC | 亜角塊 | 含む | Fe膜状 Fe系根状 富む | 中〜大礫 富む | 16 16 20 | | 半湿 | あり | | Fe++ |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 26

地形・標高 平坦地

日時 H15.10.26 16:10

調査地点 大見屋洞

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 灰色低地土壌(灰色系)
(統一) 湿性非固結岩屑土

植生 休耕田(シロツメクサ多)

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|----------------------------|----------------|-----|-----|----|---------------------|----------|----------------|----|----|--------|----|-----|
| 0cm Ap | 2.5Y3/1 黒褐 | CL | 屑 | 富む | なし | なし | 3 5 5 | | 半乾 | すこぶる富む | | |
| 5 18 Ap _g | 2.5Y3/1 黒褐 | CL | 亜角塊 | 含む | Fe膜状 あり | なし | 16 15 14 | | 半乾 | 含む | | Fe- |
| 35 C _g | 5Y2/2 オリーブ黒 | L | 亜角塊 | あり | Fe膜状 Fe系根状 含む | 中礫 含む | 18 22 24 | | 半乾 | あり | | Fe- |
| 40+ C | 7.5YR4/6 褐 | SCL | なし | なし | なし | マサ土 | 19 21 21 | | 半乾 | なし | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 27

地形・標高 斜面下部

日時 H15.10.29 13:45

調査地点 小沢山

傾斜・方向 10°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 褐色森林土壌
(統一) 典型普通褐色森林土

植生 茶畑

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|----------------|-----|------|----|----|-----------|----------------|----|----|----------|----|-----|
| 0cm Ap | 10YR4/6 褐 | CL | 粒 | 含む | なし | なし | 12 12 16 | | 乾 | 細根 含む | | |
| 5 2A | 7.5YR3/2 黒褐 | SiL | 弱亜角塊 | 含む | なし | 中円礫 あり | 18 20 9 | | 乾 | 細根 含む | | Al- |
| 20 2B | 10YR4/4 褐 | L | 弱亜角塊 | 含む | なし | 中円礫 含む | 22 22 19 | | 乾 | 細根 あり | | Al± |
| 40+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 28

地形・標高 谷底

日時 H15.10.29 15:10

調査地点 小沢山

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 褐色低地土壌(細粒質・斑紋なし)
(統一) 典型褐色沖積土

植生 ササ・ヨモギ(旧水田)

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|----------|----------------|------|----|----|-------------|-----------|----------------|----|----|----|----|-----|
| 2cm L | | | | | | | | | | | | |
| 1 F | | | | | | | | | | | | |
| 0 A | 2.5Y4/2 暗灰黄 | SiCL | 壁 | あり | なし | 小礫 あり | 16 11 14 | | 半湿 | 含む | | Fe- |
| 12 B | 2.5Y5/3 黄褐 | SiC | 肩 | あり | Fe糸根状 あり | 中円礫 含む | 12 13 11 | | 半湿 | あり | | Fe- |
| 25+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 29

地形・標高 平坦地

日時 H15.10.29 14:20

調査地点 上平

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 細粒グライ土壌(強グライ質)
(統一) 典型グライ沖積土

植生 水田

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------------|-----------------|-----|-----|----|----|------------|----------------|----|----|----------|----|------------------|
| 0cm | | | | | | | | | | | | |
| Ap _g | 5Y3/2 オリーブ黒 | SiC | 壁 | 含む | なし | なし | 7 6 4 | | 湿 | 細根 富む | | Fe ⁺⁺ |
| 15 | | | | | | | | | | | | |
| Gr | 10Y3/1 オリーブ黒 | HC | 亜角塊 | あり | なし | 小~中礫 富む | 24 21 22 | | 半湿 | 細根 含む | | Fe ⁺⁺ |
| 30+ | | | | | | | | | | | | 以下検土杖による |
| 45+ | | | | | | | | | | | | Fe ⁺⁺ |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 30

地形・標高 谷底

日時 H15.10.29 16:10

調査地点 小沢山

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 細粒グライ土壌(強グライ質)
(統一) 典型褐色低地土

植生 イグサ(旧水田)

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------------|----------------|------|------|-----|-------------|----------------|----------------|----|----|----------|----|---------------------------|
| 0cm | | | | | | | | | | | | |
| Ap _g | 2.5Y4/1 黄灰 | LiC | 壁 | 含む | なし | なし | 4 3 4 | | 多湿 | 細根 富む | | Fe ⁺⁺⁺ |
| 10 | | | | | | | | | | | | |
| Gr ₁ | 5Y3/2 オリーブ黒 | HC | 弱亜角塊 | 富む | なし | 小礫 あり | 7 8 10 | | 湿 | 細根 あり | | Fe ⁺⁺⁺ |
| 15 | | | | | | | | | | | | |
| H | 2.5Y1.7/1 黒 | SiCL | 弱角塊 | 腐植土 | Fe系根状 あり | なし | 17 16 14 | | 湿 | 細根 あり | | 黒泥土? Fe ⁺⁺⁺ |
| 24 | | | | | | | | | | | | |
| Gr ₂ | 2.5Y5/2 暗灰黄 | FsCL | 壁 | 含む | なし | 小~中礫 含む | 12 11 7 | | 多湿 | なし | | Fe ⁺⁺ |
| 36 | | | | | | | | | | | | |
| Gr ₃ | 5Y4/1 灰 | S | 単粒 | あり | なし | 小~中礫 すこぶる富む | 5 6 8 | | 過湿 | なし | | 湧水 Fe ⁺⁺ |
| 45+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 31

地形・標高 頂部平坦地

日時 H15.10.25 11:50

調査地点 小沢山(牧場)

傾斜・方向 1°

天候 晴

土壤型・母材 (国土) 台地人工未熟土壌
(統一) 典型固結岩屑土

植生 牧草地

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|---|-----|----|----|----|-----------------|----------------|----|----|----|----|--------------------|
| 2cm | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| C1 | 2.5Y7/4 浅黄 | SiC | 角塊 | なし | なし | 小礫 富む | 24 26 23 | | 半乾 | なし | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | |
| C2 | 2.5YR7/8(50%) 橙 10YR7/4(50%) にぶい黄橙 | L | 角塊 | なし | なし | 小~中円礫 すこぶる富む | 26 22 24 | | 半乾 | なし | | 赤色部は基岩の 風化と思われる |
| 20+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 51

地形・標高 斜面下部

日時 H15.10.26 14:10

調査地点 高松

傾斜・方向 10°

天候 晴

土壤型・母材 (国土) 褐色森林土壌
(統一) 典型黄褐色森林土

植生 コナラ林 アカマツ混

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|------------------|----|-----|----|----|----------|----------------|----|----|--------------------|----|---------|
| 7cm | | | | | | | | | | | | |
| L | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | |
| F | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | |
| H | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| AB | 10YR4/3 にぶい黄褐 | L | 屑 | 含む | なし | なし | 7 12 8 | | 半乾 | 富む | | |
| 18 | | | | | | | | | | | | |
| B | 10YR6/6 明黄褐 | L | 亜角塊 | なし | なし | 中礫 あり | 16 14 16 | | 半湿 | 含む アカマツ中根 富む | | 礫は溶結凝灰岩 |
| 38 | | | | | | | | | | | | |
| BC | 10YR6/6 明黄褐 | L | 亜角塊 | なし | なし | 中礫 富む | 13 20 14 | | 半湿 | あり | | 礫は溶結凝灰岩 |
| 45+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 52

地形・標高 斜面中部

日時 H15.10.26 13:30

調査地点 高松

傾斜・方向 30°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 褐色森林土壌
(統一) 典型黄褐色森林土

植生 コナラ林

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|------------------|----|-----|----|----|----------|----------------|----|----|----|----|--------|
| 5cm | | | | | | | | | | | | |
| L | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | |
| FH | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| A | 10YR3/3 暗褐 | L | 肩 | 富む | なし | なし | 6 7 4 | | 半乾 | 富む | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | |
| B1 | 10YR5/6 黄褐 | L | 亜角塊 | なし | なし | なし | 11 12 11 | | 半乾 | あり | | 根茎の跡あり |
| 40 | | | | | | | | | | | | |
| B2 | 10YR5/4 にぶい黄褐 | L | 亜角塊 | なし | なし | 細礫 あり | 16 13 12 | | 半乾 | なし | | 根茎の跡あり |
| 65+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 53

地形・標高 尾根

日時 H15.10.25 16:10

調査地点 高松

傾斜・方向 3°・0°

天候 曇

土壌型・母材 (国土) 乾性褐色森林土壌
(統一) 典型非固結岩屑土

植生 ヒノキ伐跡

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|------------------|----|----|----|--------------|----------|----------------|----|----|--------|----|----|
| 3cm | | | | | | | | | | | | |
| LF | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| A | 10YR4/3 にぶい黄褐 | SL | 肩 | 含む | なし | 細礫 富む | 5 3 5 | | 乾 | すこぶる富む | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | |
| BC | 2.5Y5/4 黄褐 | LS | なし | なし | なし | 細礫 富む | 12 5 8 | | 乾 | 富む | | |
| 7 | | | | | | | | | | | | |
| CB | 10YR7/6 明黄褐 | LS | なし | なし | Fe酸化色を 呈す | 細礫 富む | 13 15 13 | | 乾 | あり | | |
| 17 | | | | | | | | | | | | |
| C | 10YR8/1 灰白 | LS | なし | なし | なし | 細礫 富む | 15 15 18 | | 乾 | あり | | |
| 30+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 54

地形・標高 斜面中部

日時 H15.10.25 14:00

調査地点 高松

傾斜・方向 25°

天候 曇

土壌型・母材 (国土) 乾性褐色森林土壌
(統一) 典型非固結岩屑土

植生 ヒノキ植林

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|----------------|----|------|--------|----|------------------|--------------|----|----|--------|----|----|
| 3cm FH | | | | | | | | | | | | |
| 0 A | 7.5YR2/2 黒褐 | L | 弱亜角塊 | すこぶる富む | なし | なし | 5 2 3 | | 乾 | すこぶる富む | | |
| 5 AB | 10YR3/3 暗褐 | SL | 肩 | 富む | なし | 細礫 (マサ) あり | 6 5 7 | | 乾 | 富む | | |
| 8 B | 10YR6/8 明黄褐 | SL | 肩 | なし | なし | 細礫 あり | 6 8 8 | | 半乾 | 含む | | |
| 15 CB | 10YR7/8 黄橙 | LS | なし | なし | なし | 細礫 (マサ) あり | 10 9 9 | | 半乾 | あり | | |
| 75+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 55

地形・標高 斜面下部

日時 H15.10.25 15:20

調査地点 高松

傾斜・方向 5°

天候 曇

土壌型・母材 (国土) 褐色森林土壌
(統一) 典型黄褐色森林土

植生 ヒノキ植林 (ササ多)

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|---------------|----|------|----|----|----------|----------------|----|----|------------|----|----|
| 1cm FH | | | | | | | | | | | | |
| 0 A | 10YR2/1 黒 | L | 弱亜角塊 | 富む | なし | なし | 4 3 7 | | 半乾 | すこぶる富む | | |
| 10 AB | 10YR2/3 黒褐 | L | 弱亜角塊 | 含む | なし | 細礫 あり | 11 9 8 | | 半乾 | 富む (マサ) | | |
| 20 B | 10YR5/6 黄褐 | CL | 弱亜角塊 | なし | なし | 細礫 あり | 14 17 15 | | 半湿 | あり | | |
| 60+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 56

地形・標高 尾根

日時 H15.10.25 14:35

調査地点 高松

傾斜・方向 0°

天候 曇

土壌型・母材 (国土) 乾性褐色森林土壌
(統一) 典型非固結岩屑土

植生 ヒノキ植林

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|------------------|----|----|--------|------------|----------|----------------|----|----|--------|----|----|
| 7cm | | | | | | | | | | | | |
| F | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | | |
| H | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| A | 10YR2/1 黒 | SL | 屑 | すこぶる富む | なし | 細礫 あり | 3 2 3 | | 乾 | すこぶる富む | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | |
| AB | 10YR4/2 灰黄褐 | LS | 屑 | 含む | なし | 細礫 あり | 5 4 5 | | 乾 | 富む | | |
| 5 | | | | | | | | | | | | |
| BC | 10YR6/4 にぶい黄橙 | LS | なし | なし | Fe不定形 | 細礫 含む | 11 8 5 | | 乾 | 含む | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | |
| CB | 10YR7/4 にぶい黄橙 | S | なし | なし | Fe (弱い) | 細礫 含む | 12 15 13 | | 乾 | なし | | |
| 22 | | | | | | | | | | | | |
| C | 2.5Y8/2 灰白 | S | なし | なし | なし | 細礫 含む | 23 20 21 | | 乾 | なし | | |
| 40+ | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 57

地形・標高 谷底

日時 H15.10.27 9:15

調査地点 打杭

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 湿性褐色森林土壌
(統一) 典型普通褐色森林土

植生 スギ植林

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-------|----------------|----|-----|----|----|-------------------|----------------|----|----|----|----|--------------------|
| 2.5cm | | | | | | | | | | | | |
| L | | | | | | | | | | | | |
| 0.5 | | | | | | | | | | | | |
| FH | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| A1 | 10YR2/1 黒 | HC | 壁 | 富む | なし | なし | 11 13 10 | | 半湿 | 含む | | Fe- Al- |
| 12 | | | | | | | | | | | | |
| A2 | 10YR1.7/1 黒 | HC | 亜角塊 | 富む | なし | あり | 12 11 12 | | 湿 | あり | | Fe- 下部湧水 Al- |
| 36 | | | | | | | | | | | | |
| A3 | 10YR1.7/1 黒 | HC | 壁 | 富む | なし | 含む 瑞浪層群小 角礫 | 11 10 9 | | 多湿 | なし | | Fe- Al- |
| 75+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 58

地形・標高 斜面中部

日時 H15.10.27 10:05

調査地点 木曾洞

傾斜・方向 35°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 褐色森林土壌
(統一) 典型黄褐色森林土

植生 スギ・ヒノキ植林

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|---------------|------|-----------|----|------------|--------------|----------------|----|----|----|----|-------------|
| 3cm L | | | | | | | | | | | | |
| 2 F(H) | | | | | | | | | | | | |
| 0 A | 10YR3/4 暗褐 | SiL | 上部粒状 屑 | 富む | なし | なし | 5 2 6 | | 乾 | 富む | | |
| 4 BA | 2.5Y5/3 黄褐 | SiL | 堅果 | あり | なし | 瑞浪層群 小礫あり | 7 11 7 | | 乾 | あり | | |
| 16 2Ab | 10YR3/3 暗褐 | SiCL | 粒~屑 | 含む | なし | 中礫 あり | 9 7 7 | | 乾 | 含む | | |
| 29 RC | 2.5Y7/4 浅黄 | SiL | なし | なし | Fe雲状 あり | | 27 27 30 | | | あり | | 瑞浪層群 弱風化 |
| 40+ | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 59

地形・標高 斜面中部(緩傾斜)

日時 H15.10.27 10:50

調査地点 木曾洞

傾斜・方向 5°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 厚層黒ボク土壌
(統一) 厚層多腐植質アロフェン黒ボク土

植生 ヒノキ植林

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|-----------------|----|-----|--------|----|--------------------|----------------|----|----|----|----|------|
| 2cm FH | | | | | | | | | | | | |
| 0 A1 | 7.5YR1.7/1 黒 | CL | 屑 | すこぶる富む | なし | なし | 9 7 11 | | 半乾 | 富む | | Al++ |
| 15 A2 | 7.5YR1.7/1 黒 | CL | 亜角塊 | すこぶる富む | なし | 大円礫 含む (花崗岩) | 16 16 14 | | 半乾 | あり | | Al++ |
| 52 BC | 10YR4/2 灰黄褐 | L | 亜角塊 | あり | なし | 小礫 富む | 18 | | 半湿 | なし | | |
| 60+ | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 60

地形・標高

日時 H15.10.27 11:35

調査地点 木曾洞

傾斜・方向

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 乾性黄色土壌
(統一) 典型風化赤黄色土

植生 ヒノキ植林

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-------|----------------|----|-----|----|----|----------|----------------|----|----|----------|----|--------|
| 3.5cm | | | | | | | | | | | | |
| L | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | |
| FH | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| AB1 | 10YR3/4 暗褐 | L | 肩 | 含む | なし | 小礫 あり | 11 13 10 | | 乾 | 含む | | Al± |
| 17 | | | | | | | | | | | | |
| AB2 | 10YR3/4 暗褐 | CL | 亜角塊 | 含む | なし | 小礫 あり | 16 18 18 | | 乾 | 大根 あり | | Al± |
| 43 | | | | | | | | | | | | |
| B | 10YR6/8 明黄褐 | CL | 亜角塊 | なし | なし | 小礫 含む | 15 16 15 | | 半乾 | なし | | Al±(弱) |
| 55+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 61

地形・標高

斜面中部(緩傾斜)

日時 H15.10.29 8:30

調査地点 中根

傾斜・方向

5°

天候 曇

土壌型・母材 (国土) 湿性褐色森林土壌
(統一) 典型風化変質赤黄色土

植生 スギ・ヒノキ植林

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|---|-----|------|----|-------------------------|----------|----------------|----|----|----------|----|---------------|
| 2cm | | | | | | | | | | | | |
| F | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | |
| H | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| A | 10YR3/2 黒褐 | SiL | 粒~肩 | 含む | なし | 中礫 あり | 9 10 12 | | 乾 | 細根 含む | | |
| 5 | | | | | | | | | | | | |
| AB | 2.5Y4/4 オリブ褐 | SiC | 弱亜角塊 | 含む | なし | 小礫 あり | 16 14 13 | | 半乾 | 中根 あり | | |
| 20 | | | | | | | | | | | | |
| B | 7.5Y6/4(70%) オリブ黄 2.5Y6/8(30%) 明黄褐 | SiL | 角塊 | なし | 灰色、オレンジ が雲状に 混在する | なし | 20 21 20 | | 半乾 | 中根 あり | | Alわずか+ Fe- |
| 45+ | | | | | | | | | | | | 以下検土杖による |
| 95+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 62

地形・標高 斜面中部(急傾斜)

日時 H15.10.29 9:30

調査地点 大平

傾斜・方向 35°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 褐色森林土壌
(統一) 典型黄褐色森林土

植生 ヒノキ植林(ヒサカキ低木多)

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|---------------|-----|------|----|----|-------------------------|----------------|----|----|-----------|----|----|
| 3cm | | | | | | | | | | | | |
| FH | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| A | 10YR3/4 暗褐 | CL | 粒 | 富む | なし | なし | 11 10 8 | | 乾 | 細根 富む | | |
| 8 | | | | | | | | | | | | |
| B | 10YR5/6 黄褐 | LIC | 弱亜角塊 | なし | なし | まれに大角礫 あり (溶結凝灰岩) | 14 12 12 | | 半乾 | 中小根 含む | | |
| 80+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 63

地形・標高 斜面上部

日時 H15.10.29 10:50

調査地点 大平

傾斜・方向 15°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 乾性褐色森林土壌
(統一) 典型風化変質赤黄色土

植生 ヒノキ植林(アカマツ混)

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-------|-------------------|----|------|----|----|----------|----------------|----|----|----|----|--------------|
| 3.5cm | | | | | | | | | | | | |
| L | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | |
| F | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | |
| H | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| A | 10YR4/4 褐 | L | 屑 | 富む | なし | なし | 7 6 3 | | 乾 | 富む | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | |
| B1 | 10YR5/6 黄褐 | L | 弱亜角塊 | あり | なし | 小礫 あり | 15 16 17 | | 乾 | 含む | | A1+ |
| 26 | | | | | | | | | | | | |
| B2 | 6.5YR5/8 明(赤)褐 | HC | 亜角塊 | なし | なし | 中礫 あり | 16 20 18 | | 半乾 | あり | | A1+ 土岐砂礫層 |
| 50+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 64

地形・標高 山頂

日時 H15.10.29 10:20

調査地点 大平

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壤型・母材 (国土) 乾性褐色森林土壌(赤褐色)
(統一) 典型風化変質赤黄色土

植生 アカマツ林(ヒノキ混)

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|------|-------------------|-----|-----|--------|----|------------|----------------|----|----|--------|----|-------------|
| 10cm | | | | | | | | | | | | |
| L | | | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | | | |
| F | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | |
| H | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| A | 5YR1.7/1 黒 | SiL | 粒 | すこぶる富む | なし | 小礫 含む | 6 4 6 | | 乾 | すこぶる富む | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | |
| B | 6.5YR5/8 明(赤)褐 | SC | 亜角塊 | なし | なし | 小~中礫 富む | 20 20 20 | | 半乾 | あり | | A土 土枝砂礫層 |
| 25+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 65

地形・標高 溪床

日時 H15.10.25 8:50

調査地点 小沢山

傾斜・方向 5°

天候 曇

土壤型・母材 (国土) 湿性褐色森林土壌
(統一) 典型黄褐色森林土

植生 ヒノキ植林

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|------------------|------|------|----|---------------|----------------|----------------|----|----|----------|----|----|
| 4cm | | | | | | | | | | | | |
| LFH | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| A | 10YR4/3 にぶい黄褐 | SiCL | 亜角塊 | 含む | 根系沿いに 少Fe斑 | あり | 17 15 16 | | 半乾 | 富む | | |
| 14 | | | | | | | | | | | | |
| BC | 10YR4/4 褐 | L | 弱亜角塊 | あり | なし | 含む | 16 13 12 | | 半湿 | 中根 あり | | |
| 30 | | | | | | | | | | | | |
| C | 2.5Y5/6 黄褐 | SL | 屑 | なし | なし | 小礫 含む 大礫 あり | 14 13 10 | | 半湿 | あり | | |
| 50+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 66

地形・標高 斜面中部

日時 H15.10.25 9:40

調査地点 小沢山

傾斜・方向 25°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 褐色森林土壌
(統一) 典型黄褐色森林土

植生 ヒノキ植林

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|------------------|------|------|----|----|------------|----------------|----|----|----|----|----|
| 5cm | | | | | | | | | | | | |
| F | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | |
| H | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| AB | 2.5Y4/3 オリーブ褐 | SiCL | 弱亜角塊 | 含む | なし | 細礫 含む | 15 13 16 | | 半乾 | 含む | | |
| 8 | | | | | | | | | | | | |
| B | 10YR5/6 黄褐 | SiCL | 弱亜角塊 | なし | なし | 中礫 含む | 13 13 13 | | 半乾 | 含む | | |
| 20 | | | | | | | | | | | | |
| BC | 10YR5/8 黄褐 | SiCL | 弱亜角塊 | なし | なし | 中~大礫 含む | 12 15 16 | | 半乾 | 含む | | |
| 45+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 67

地形・標高 溪床

日時 H15.10.25 10:20

調査地点 小沢山(シデコブシ自生地)

傾斜・方向 5°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 湿性褐色森林土壌
(統一) 典型黄褐色森林土

植生 ヒノキ植林

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|----------------|-----|--------|----|----|--|----------------|----|----|----------|----|-----|
| 2cm | | | | | | | | | | | | |
| LF | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| A | 7.5YR2/1 黒 | SiL | 弱亜角塊 | 含む | なし | 中礫 含む | 8 3 4 | | 半湿 | 含む | | |
| 5 | | | | | | | | | | | | |
| BA | 2.5Y5/4 黄褐 | L | 弱亜角塊 | あり | なし | 中礫 含む | 12 13 16 | | 半湿 | 中根 含む | | |
| 20 | | | | | | | | | | | | |
| CB | 2.5Y6/6 明黄褐 | SCL | 屑~弱亜角塊 | なし | なし | 小~中礫 すこぶる含む 溶結凝灰岩 角礫 ファイトリ | 17 13 14 | | 湿 | あり | | Fe- |
| 35+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 68

地形・標高 頂部

日時 H15.10.25 11:10

調査地点 小沢山(尾根)

傾斜・方向 2°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 乾性黄色土壌
(統一) 典型風化赤黄色土

植生 ヒノキ植林

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----------|----------------|-----|--------------|----|----|---------------|----------------|----|----|----|----|----|
| 3cm FH | | | | | | | | | | | | |
| 0 A | 10YR4/4 褐 | SiL | 亜角塊 (やや強) | 含む | なし | 含む | 15 17 19 | | 乾 | 含む | | |
| 9 BC | 10YR6/8 明黄褐 | CL | 亜角塊 | なし | なし | 中円礫 すこぶる含む | 19 19 19 | | 半乾 | あり | | |
| 40+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 69

地形・標高 谷底

日時 H15.10.26 8:50

調査地点 上菜種

傾斜・方向 10°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 褐色森林土壌
(統一) 典型黄褐色森林土

植生 ヒノキ植林

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|------------|---------------|------|-----|----|----|----|----------------|----|----|----------|----|-----|
| 1cm LFH | | | | | | | | | | | | |
| 0 A | 10YR3/3 暗褐 | SiCL | 屑 | 含む | なし | なし | 2 3 3 | | 半湿 | 含む | | |
| 6 AB | 10YR4/4 褐 | SiCL | 屑 | あり | なし | なし | 9 10 10 | | 半湿 | 含む | | |
| 10 B | 10YR5/8 黄褐 | SiCL | 亜角塊 | なし | なし | なし | 14 18 15 | | 半湿 | 中根 あり | | Al- |
| 55+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 70

地形・標高 斜面中部

日時 H15.10.26 9:20

調査地点 上根

傾斜・方向 30°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 褐色森林土壌
(統一) 典型黄褐色森林土

植生 ヒノキ植林(2.5m幼木)

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|---------------|-----|------|--------|----|-------------------------|----------------|----|----|--------|----|----|
| 3cm | | | | | | | | | | | | |
| LFH | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| A | 10YR2/2 黒褐 | SiL | 肩 | すこぶる富む | なし | なし | 4 4 7 | | 半乾 | すこぶる富む | | |
| 7 | | | | | | | | | | | | |
| B | 10YR4/4 褐 | SiL | 弱亜角塊 | なし | なし | 中礫 あり | 11 14 14 | | 半乾 | 含む | | |
| 18 | | | | | | | | | | | | |
| BC | 10YR4/6 褐 | SiL | 弱亜角塊 | なし | なし | 中礫 富む 溶結凝灰岩 角礫 | 15 20 10 | | 半乾 | 含む | | |
| 50+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 71

地形・標高 尾根

日時 H15.10.26 9:50

調査地点 上根

傾斜・方向 5°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 乾性褐色森林土壌
(統一) 典型黄褐色森林土

植生 ヒノキ植林(2.5m幼木)

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|------------------|------|-----|--------|----|----------------------|----------------|----|----|--------|----|----|
| 5cm | | | | | | | | | | | | |
| L | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | | |
| FH | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| A | 10YR2/2 黒褐 | SiCL | 肩 | すこぶる富む | なし | なし | 8 8 9 | | 乾 | すこぶる富む | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | |
| BA | 10YR4/3 にぶい黄褐 | SiCL | 亜角塊 | あり | なし | 中礫 あり | 14 12 13 | | 乾 | 含む | | |
| 28 | | | | | | | | | | | | |
| BC | 10YR5/7 黄褐 | SiCL | 亜角塊 | なし | なし | 中礫 含む 溶結凝灰岩 角礫 | 15 14 16 | | 半乾 | あり | | |
| 48+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 72

地形・標高 頂部平坦面

日時 H15.10.25 10:30

調査地点 上根

傾斜・方向 0°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 乾性褐色森林土壌
(統一) 典型非固結岩屑土

植生 ヒノキ植林 アカマツ混

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|----------------|------|----|--------|-------------|------------------|----------------|----|----|--------|----|----|
| 5cm | | | | | | | | | | | | |
| L | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | | |
| FH | | | | | | | | | | | | |
| 0 | | | | | | | | | | | | |
| A | 7.5YR2/2 黒褐 | SiCL | 屑 | すこぶる富む | なし | なし | 4 6 6 | | 乾 | すこぶる富む | | |
| 8 | | | | | | | | | | | | |
| AB | 10YR3/4 暗褐 | L | 屑 | 含む | なし | 小礫 含む | 9 10 5 | | 乾 | 含む | | |
| 16 | | | | | | | | | | | | |
| B | 2.5Y5/3 黄褐 | L | なし | なし | なし | 小礫 (マサ) 富む | 11 16 14 | | 乾 | あり | | |
| 28 | | | | | | | | | | | | |
| C1 | 2.5Y7/2 灰黄 | SL | なし | なし | Fe不定形 含む | 小礫 (マサ) 富む | 18 16 17 | | 半乾 | あり | | |
| 50+ | | | | | | | | | | | | |
| C2 | 2.5Y7/1 灰白 | SL | なし | なし | なし | 小礫 (マサ) 富む | 17 15 16 | | 半乾 | なし | | マサ |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 73

地形・標高 土石流堆(段丘化)

日時 H16.5.28 9:30

調査地点 富田下り松

傾斜・方向 ENE 5°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 褐色森林土壌
(統一) 典型褐色沖積土

植生 マツ、スギ

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|----------------|------|-----|----|----|------------------------------|----------------|----|----|-----------------|----|-----|
| 5 | | | | | | | | | | | | |
| L | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | | |
| FH | | | | | | | | | | | | |
| 0cm | | | | | | | | | | | | |
| A | 7.5YR2/1 黒 | SiL | 亜角塊 | 富む | なし | なし | 4 3 3 | なし | 半湿 | 富む 細根 中大根 | | AI- |
| 5 | | | | | | | | | | | | |
| B | 7.5YR4/4 褐 | SiCL | 亜角塊 | あり | なし | 富む 溶結凝灰岩、 花崗岩 亜円礫φ4 | 10 9 9 | なし | 半湿 | 含む | | AI- |
| 30 | | | | | | | | | | | | |
| C | 7.5YR5/8 明褐 | LiC | 亜角塊 | なし | なし | すこぶる富む 花崗岩 亜円礫φ10 | 15 10 12 | なし | 半湿 | あり | | |
| 35+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 74

地形・標高 尾根 975m

日時 H16.5.28 11:00

調査地点 鈴ヶ根

傾斜・方向 N 30°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 乾性褐色森林土壌
(統一) 典型黄褐色森林土

植生 アカマツ、リョウブ、コナラ

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|----------------|-----|-----------|----|----|---------------------|----------------|----|----|----|----|-----|
| 10 | | | | | | | | | | | | |
| L | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | | | |
| F | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | |
| H | | | | | | | | | | | | |
| 0cm | | | | | | | | | | | | |
| A | 10YR3/2 黒褐 | SiL | 亜角塊 ~粒 | 富む | なし | あり | 11 13 10 | なし | 半湿 | 富む | | Al± |
| 15 | | | | | | | | | | | | |
| B | 10YR4/4 褐 | CL | 亜角塊 | あり | なし | 含む マサ結晶 (長石等) | 17 15 22 | なし | 半湿 | あり | | |
| 50 | | | | | | | | | | | | |
| C | 10YR5/8 明黄褐 | SCL | 弱亜角塊 | なし | なし | 含む マサ結晶 (長石等) | 22 24 17 | なし | 半湿 | なし | | |
| 60+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 75

地形・標高 頂部 1020m

日時 H16.5.28 12:00

調査地点 三森神社

傾斜・方向 S 20°

天候 晴

土壌型・母材 (国土) 褐色森林土壌
(統一) 典型黄褐色森林土壌

植生 アカマツ、スギ

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|----------------|-----|------------|----|----|---------------------------|----------------|----|----------|----|----|---------------------------|
| 6 | | | | | | | | | | | | |
| L | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | | |
| F | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | |
| H | | | | | | | | | | | | |
| 0cm | | | | | | | | | | | | |
| A | 10YR3/2 黒褐 | LiC | 粒~ 弱亜角塊 | 含む | なし | 含む | 13 9 9 | なし | 半乾 | 富む | | Al± |
| 10 | | | | | | | | | | | | |
| B | 10YR5/6 黄褐 | SiC | 亜角塊 | あり | なし | 含む~ 富む | 13 16 14 | なし | 半湿 | あり | | Al+ Fe ²⁺ - |
| 20 | | | | | | | | | | | | |
| C | 2.5Y6/6 明黄褐 | CL | 無構造 | なし | なし | すこぶる含む マサ結晶 (石英長石等) | 20 26 19 | なし | 半湿~ 湿 | あり | | Al+ |
| 40+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 76
 調査地点 三森山
 土壌型・母材 (国土) 褐色森林土壌
 (統一) 典型黄褐色森林土壌

地形・標高 山頂直下の尾根 1080m
 傾斜・方向 NW 15°
 植生 ヒノキ(山頂はミズナラ、ゴヨウマツ)

日時 H16.5.28 13:30
 天候 晴

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|-------|----------------|------|------|--------|----|------------------|----------------|----|----------|--------|-----|
| 4 | L | | | | | | | | | | | |
| 3 | F | | | | | | | | | | | |
| 1 | H | | | | | | | | | | | |
| 0cm | A | 10YR3/3 暗褐 | SiCL | 粒 | 含む | なし | なし | 5 4 7 | なし | 半乾 ~乾 | すこぶる富む | Al- |
| 4 | AB | 10YR5/8 黄褐 | SiC | 弱亜角塊 | あり | なし | 含む 花崗岩 中角礫 | 11 11 11 | なし | 半乾 ~乾 | 富む | |
| 14 | B | 10YR6/8 明黄褐 | CL | 弱亜角塊 | なし | なし | あり 花崗岩 中角礫 | 10 12 12 | なし | 半湿 | 含む | Al± |
| 45 | II BA | 10YR5/6 黄褐 | CL | 無構造 | わずかにあり | なし | すこぶる富む | 10 15 12 | なし | 半質 | なし | |
| 55+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

土壤断面調査票

調査番号 No. 77
 調査地点 岩村ダム
 土壌型・母材 (国土) 褐色森林土壌
 (統一) 典型普通褐色森林土壌

地形・標高 尾根 775m
 傾斜・方向
 植生 スギ、ササ

日時 H16.5.28 15:30
 天候 晴

| 層位 | 色 | 土性 | 構造 | 腐植 | 斑紋 | 礫 | 粗密 | 孔隙 | 乾湿 | 根 | 試料 | 備考 |
|-----|---|----------------|------|-----|----|----|----------------|----------------|----|-----------|--------|-------|
| 4 | F | | | | | | | | | | | |
| 1 | H | | | | | | | | | | | |
| 0cm | A | 7.5YR2/2 黒褐 | SiL | 細粒 | 含む | なし | 含む (マサ) | 1 2 3 | なし | 半湿 ~半乾 | すこぶる富む | Al± |
| 6 | B | 7.5YR3/2 黒褐 | SL | 粒 | あり | なし | すこぶる富む (マサ) | 13 14 17 | なし | 半湿 | 富む | Al+++ |
| 20 | C | 2.5Y7/4 浅黄 | LCoS | 無構造 | なし | なし | 礫土 マサ二次堆積 | 18 21 19 | なし | 半湿 | あり | Al++ |
| 45+ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |